

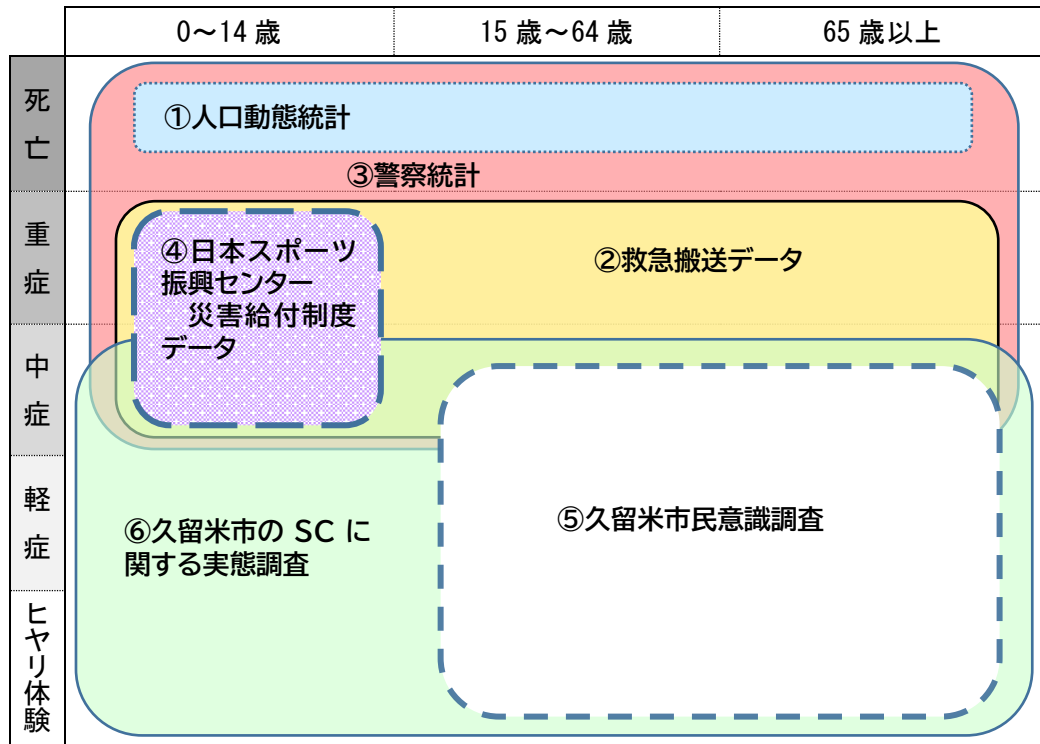
久留米市の安全安心に関する統計データ

<目次>

1 外傷サーベイランスの全体像	2
2 外傷サーベイランスを構成するデータ	2
3 外的要因による死亡に関する状況（人口動態統計）	4
4 救急搬送に関するデータ （久留米広域消防本部救急搬送データ）	10
5 交通事故に関する状況（警察統計）	21
6 犯罪に関する状況（警察統計）	27
7 児童相談に関する状況（家庭子ども相談課集計）	34
8 児童のけがに関する状況 （日本スポーツ振興センター災害給付データ等）	38
9 高齢者虐待に関する状況（長寿支援課集計）	41
10 DVに関する状況（男女平等推進センター・家庭子ども相談課集計、 （久留米市男女平等に関する市民意識調査）	43
11 自殺に関する状況（人口動態統計）	45
12 災害に関する状況（気象庁ホームページ）	47

1 外傷サーベイランスの全体像

久留米市では、様々なデータを活用し各領域をカバーしている。



2 外傷サーベイランスを構成するデータ

外傷サーベイランスを構成するデータについては、持続可能なシステムにするために、次のとおり継続的なデータ収集の計画を立て収集・記録している。

No.	データの名称 (収集先)	内容 (収集頻度)	活用する対策委員会							
			交通	児童虐待	学校	高齢者	防犯	D V	自殺	防災
①	人口動態統計 (厚生労働省)	死亡に関する情報 (毎年)	●			●			●	
②	救急搬送データ (久留米広域消防本部)	けがや事故による救急搬送の情報 (毎年)	●		●	●			●	
③	警察統計 (久留米警察署)	交通事故や犯罪に関する情報 (毎年)	●		●		●			
④	災害給付制度データ (日本スポーツ振興センター)	学校のけがや事故に関する情報 (毎年)			●					
⑤	久留米市民意識調査 (久留米市)	けがや事故、犯罪、災害等への意識に関する情報 (5 年に 1 回)	●	●	●	●	●	●	●	●
⑥	久留米市の SC に関する実態調査 (久留米市)	けがや事故及び SC の取組に関する情報 (5 年に 1 回)	●	●	●	●	●	●	●	●

【個別データ】

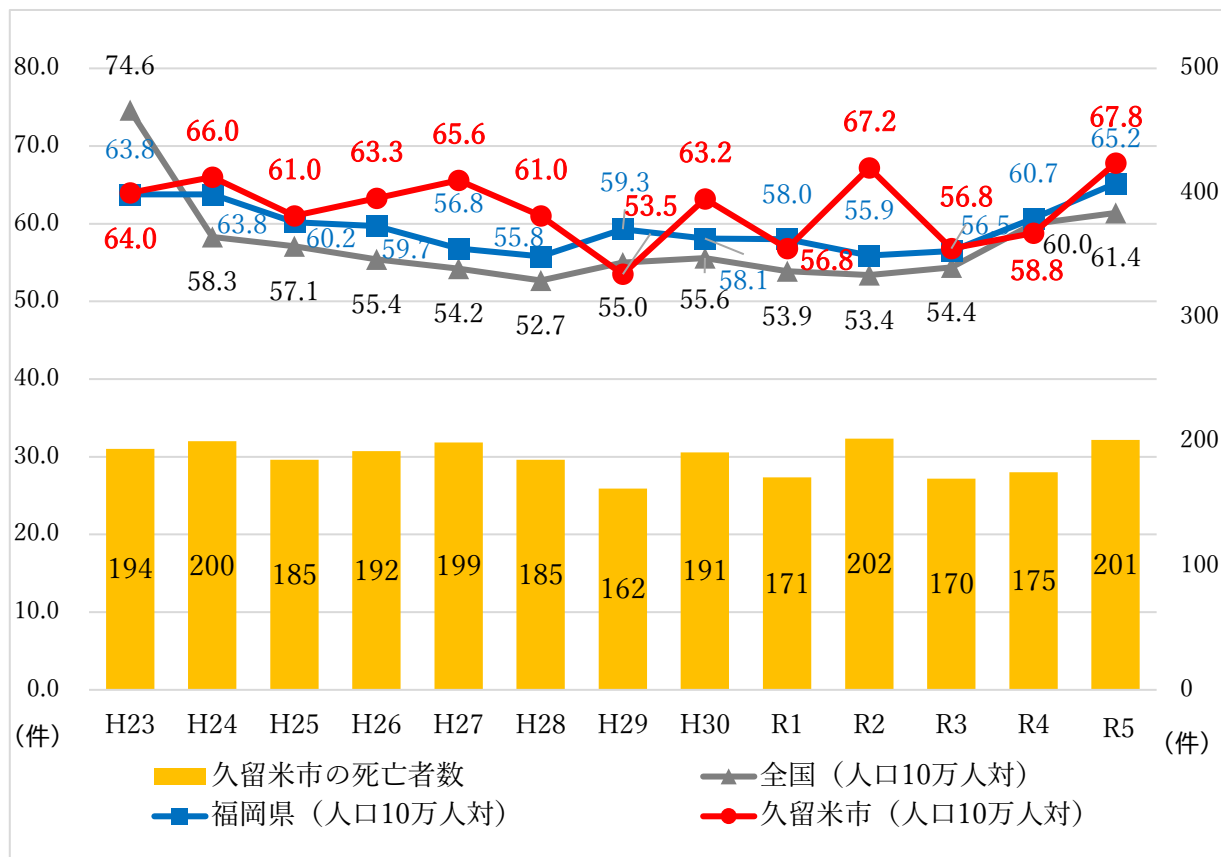
No.	データの名称 (収集先)	内容・収集頻度	活用する対策委員会							
			交通	児童虐待	学校	高齢者	防犯	D V	自殺	防災
1	自転車駐車場利用者アンケート (久留米市)	自転車安全利用に関する情報 (毎年)	●							
2	家庭子ども相談課相談記録 (久留米市)	児童虐待発生や相談に関する情報 (毎年)		●				●		
3	児童相談所相談記録 (福岡県)	児童虐待発生や相談に関する情報 (毎年)		●						
4	児童生徒の問題行動に関する調査 (文部科学省)	いじめの発生・解決件数等に関する情報 (毎年)			●					
5	あんぜんアンケート (久留米市)	小学生の安全に対する意識に関する情報 (毎年)			●					
6	高齢者実態調査 (久留米市)	高齢者の転倒や虐待に関する認識等に関する情報 (3年に1回)				●				
7	長寿支援課記録 (久留米市)	高齢者虐待の発生や相談に関する情報 (毎年)				●				
8	市政アンケートモニター (久留米市)	体感治安や市政への意向・ニーズに関するアンケート (毎年)					●			
9	男女平等に関する市民意識調査 (久留米市)	D Vや男女平等に対する意識に関する情報 (5年に1回)						●		
10	男女平等推進センター記録 (久留米市)	D V発生や相談に関する情報 (毎年)						●		
11	自殺の原因・動機別データ (警察庁)	自殺について原因や動機別に表した統計データ (毎年)							●	
12	保健予防課記録 (久留米市)	精神保健相談等に関する情報 (毎年)							●	
13	防災対策課記録 (久留米市)	自主防災活動等に関する情報 (毎年)								●

3 外的要因による死亡に関する状況

(1) 外的要因による死亡者数（人口動態統計）

久留米市の外的要因による死亡者数は、ほぼ横ばいで推移しています。

■[図 3-1]外的要因による死亡者数、及び人口 10 万人当たりの数の推移



(2) 年齢階級別の死亡原因上位（福岡県保健統計年報） ※病気等による死亡含む

外因及び病気等による死亡原因を年齢層ごとにみると、自殺が10歳代から30歳代までの死亡原因の1位、40歳代から50歳代では2位となっています。

■[図 3-2]H30～R4 年の年齢階級別の死亡原因上位 5 位

※()内は人数

年齢層	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
0～9 歳	染色体異常等 (12)	周産期に発生した病態 (5) <u>不慮の事故 (5)</u> …窒息(2)、交通事故・転倒転落墜落・溺死溺水 (1) その他の症状 (5)			新生物〈腫瘍〉(4)
10～19 歳	自殺(15)	新生物〈腫瘍〉 (5)	神経系の疾患 (4)	<u>不慮の事故(3)</u> …交通事故(2)、転倒 転落墜落(1)	周産期に発生した 病態 (1)
20～29 歳	自殺(27)	新生物〈腫瘍〉(6) <u>不慮の事故(6)</u> …交通事故(6)		神経系の疾患 (5)	その他の症状(4)
30～39 歳	自殺(33)	新生物〈腫瘍〉 (19)	<u>不慮の事故(8)</u>	その他の症状(6)	その他の外因(5)
40～49 歳	新生物〈腫瘍〉 (109)	自殺(48)	脳血管疾患(19)	心疾患(15)	消化器系の疾患 (14)
50～59 歳	新生物〈腫瘍〉 (241)	自殺(49)	心疾患(44)	消化器系の疾患 (40)	脳血管疾患(39)
60～69 歳	新生物〈腫瘍〉 (737)	心疾患(87)	脳血管疾患(80)	消化器系の疾患 (69)	その他の症状 (62)
70～79 歳	新生物〈腫瘍〉 (1,489)	心疾患(217)	脳血管疾患 (212)	その他の呼吸器 系疾患(186)	肺炎(143)
80～89 歳	新生物〈腫瘍〉 (1,695)	心疾患(690)	脳血管疾患 (469)	その他の呼吸器 系疾患(458)	肺炎(358)
90 歳以上	老衰(926)	心疾患(833)	新生物〈腫瘍〉 (712)	脳血管疾患 (368)	その他の呼吸器 系疾患(341)

(3) 死亡統計における不慮の事故等のデータ（人口動態統計）

①年齢層別 不慮の事故等による死亡の上位5位

10～69歳の自殺の件数は他の要因と比較して特に多い。

また、高齢になるほど溺死・溺水、転倒・転落、窒息による死亡が多い。

■[図 3-3]R1～R5 年の不慮の事故等による死亡の上位 5 位

※()内は人数

年齢層	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
0～9 歳	窒息(2)	交通事故(1)			
		転倒・転落(1)			
		溺死・溺水(1)			
10～19 歳	自殺(10)	交通事故(1)			
		転倒・転落(1)			
20～29 歳	自殺(30)	交通事故(5)			
30～39 歳	自殺(34)	溺死・溺水(3)	交通事故(1)		窒息(1)
			転倒・転落(1)		煙・火(1)
40～49 歳	自殺(51)	溺死・溺水(3)		交通事故(2)	
				転倒・転落(2)	
		窒息(3)		煙・火(2)	
				その他不慮の事故(2)	
50～59 歳	自殺(56)	交通事故(5)	その他不慮の事故(4)	窒息(3)	溺死・溺水(2)
60～69 歳	自殺(34)	溺死・溺水(16)	交通事故(8)		転倒・転落(5)
			窒息(8)		
70～79 歳	溺死・溺水(59)	自殺(31)	窒息(15)	その他不慮の事故(14)	
				転倒・転落(14)	
80～89 歳	溺死・溺水(85)	転倒・転落(39)	その他不慮の事故(33)	自殺(25)	窒息(24)
90 歳以上	転倒・転落(44)	その他不慮の事故(34)	溺死・溺水 (28)	窒息(23)	自殺(19)
合計	自殺(267)	溺死・溺水(198)	転倒・転落(116)	窒息(79)	
				その他不慮の事故(80)	

(前ページと比較)

過去の累計と比較すると、全体的に交通事故による死亡が減少している。

【平成 25 年認証申請書より】

■[図 3-4]H19～H23 年の不慮の事故等による死亡の上位 5 位

※()内は人数

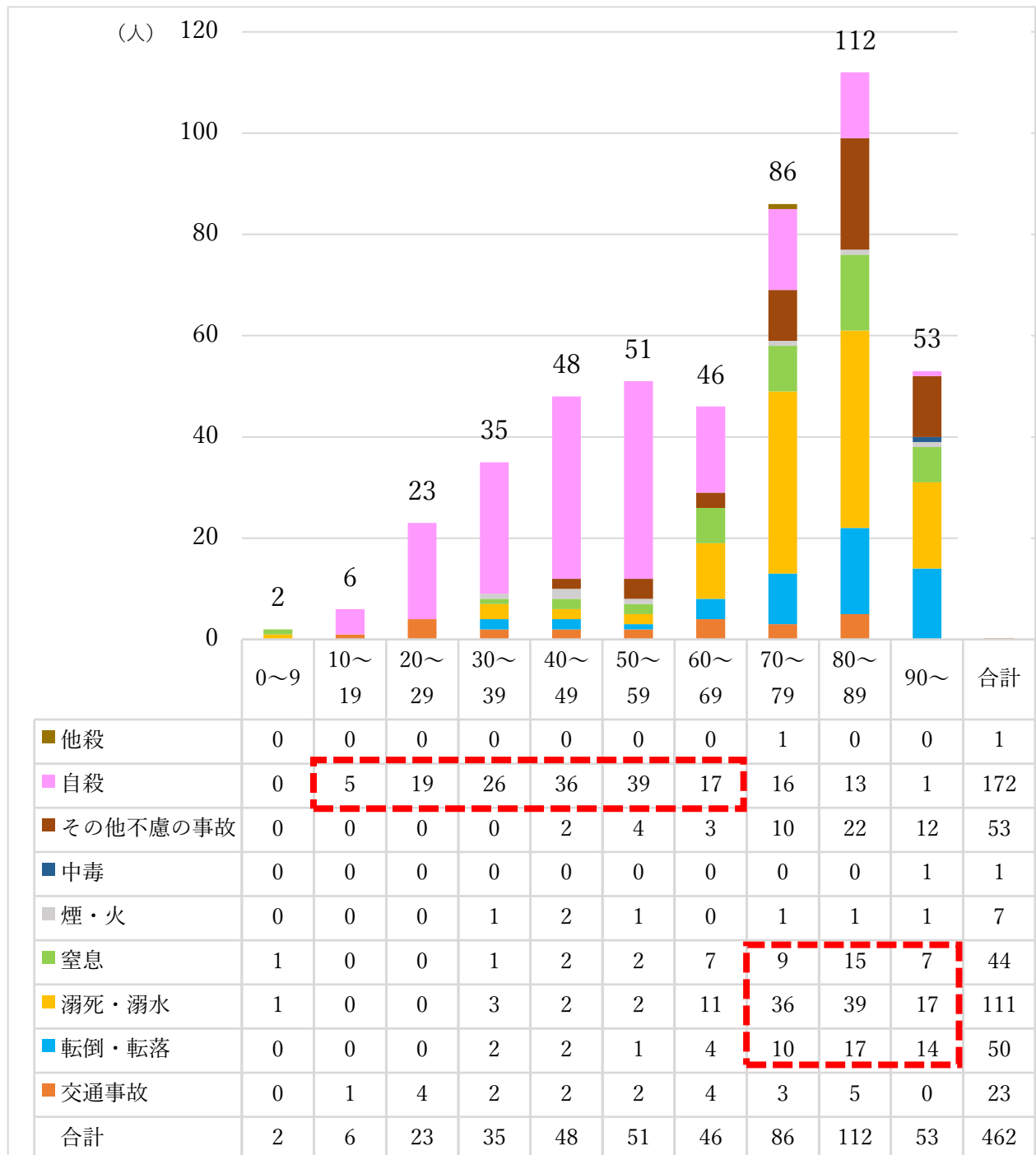
年齢層	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
0～9歳	溺死・溺水(2)	交通事故(1)			
10～19歳	自殺(8)	交通事故(5)	転倒・転落(1)		
20～29歳	自殺(38)	交通事故(7)	溺死・溺水(4)	煙・火(1)	
30～39歳	自殺(59)	交通事故(6)	中毒等(4)	転倒・転落(2)	他殺(1)
40～49歳	自殺(59)	交通事故(6)	中毒等(3)	溺死・溺水(2)	転倒・転落(1)
50～59歳	自殺(86)	交通事故(13)	溺死・溺水(4)	窒息(7)	その他不慮の事故 (6)
60～69歳	自殺(56)	溺死・溺水(14)	交通事故(12)	窒息(10)	転倒・転落(7)
70～79歳	溺死・溺水(44)	自殺(40)	窒息(26)	転倒・転落(25)	交通事故(17)
80～89歳	溺死・溺水(55)	窒息(22)	その他不慮の事故 (28)	転倒・転落(24)	自殺(21)
90歳以上	転倒・転落(23)	窒息(22)	溺死・溺水(11)	その他不慮の事故 (8)	交通事故(6)
合計	自殺(369)	溺死・溺水(143)	窒息(115)	転倒・転落(88)	交通事故(84)

② [男性] 不慮の事故、自殺による死亡数（人口動態統計）

80 歳代の件数が最も多く、要因として溺死・溺水の件数が多い。

10～60 歳代は自殺の件数が最も多く、70 歳以上は、溺死・溺水、窒息、転倒・転落の件数が多くなる。

■[図 3-5] 男性の年齢層別の不慮の事故等による死亡数（R1～R5 年の 5 年間累計）

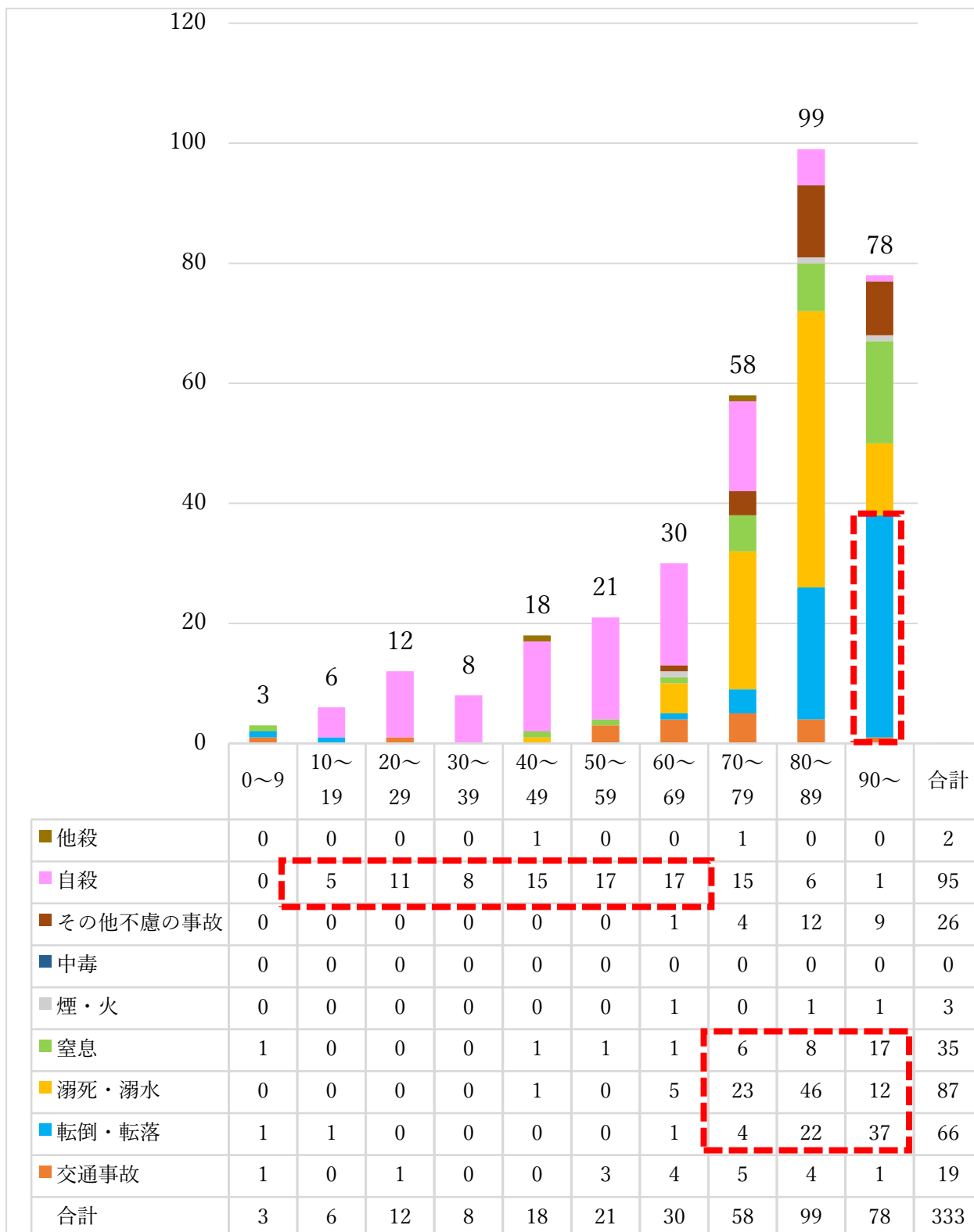


③ [女性] 不慮の事故、自殺による死亡数（人口動態統計、R1～R5 年の 5 年間の累計）

男性と同じく 10～60 歳代では自殺の件数が最も多く、70 歳代以上では溺死・溺水、窒息、転倒・転落である。

なお、男性と比べ 90 歳以上では転倒・転落による死亡数が多い。

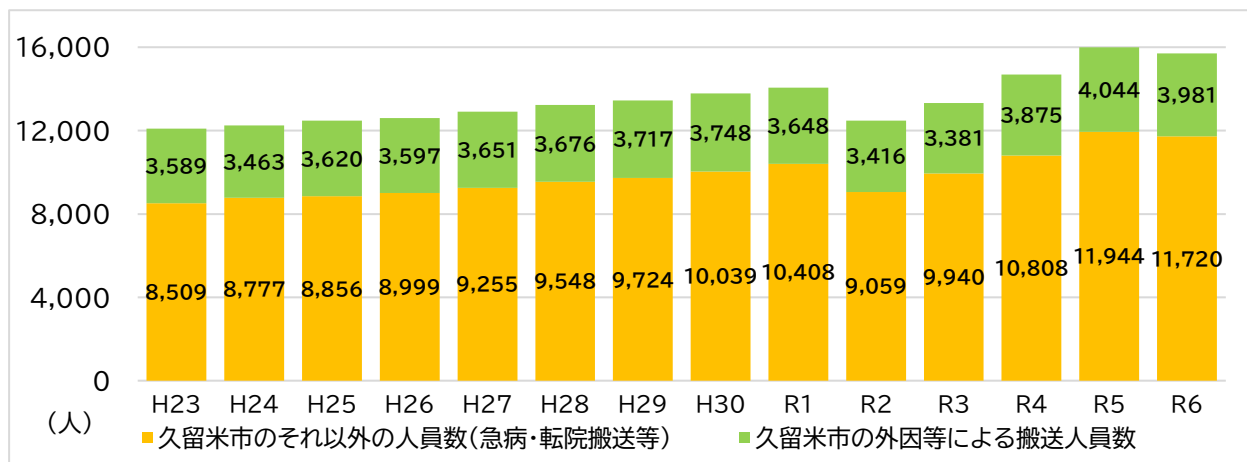
■[図 3-6]女性の年齢層別の不慮の事故等による死亡数（R1～R5 年の 5 年間累計）



4 救急搬送に関するデータ(久留米広域消防本部救急搬送データ)

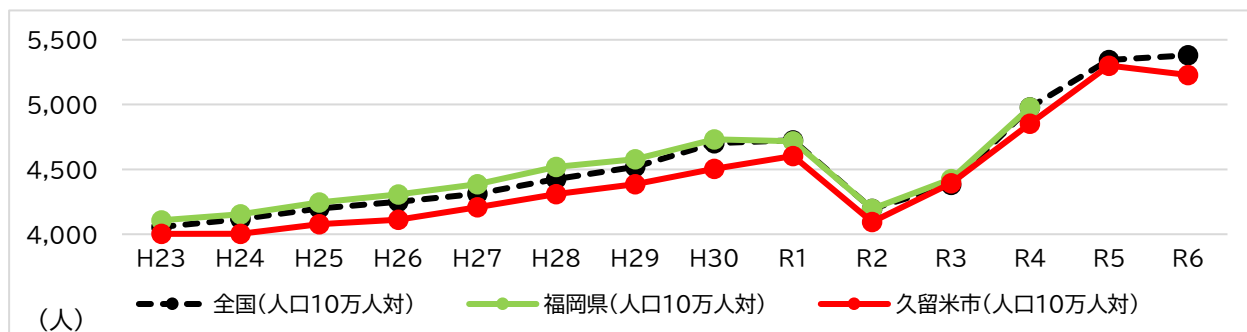
(1) [図 4-1]救急搬送人員数

救急搬送人員数全体及びけがや事故による救急搬送人員数は増加傾向にある。

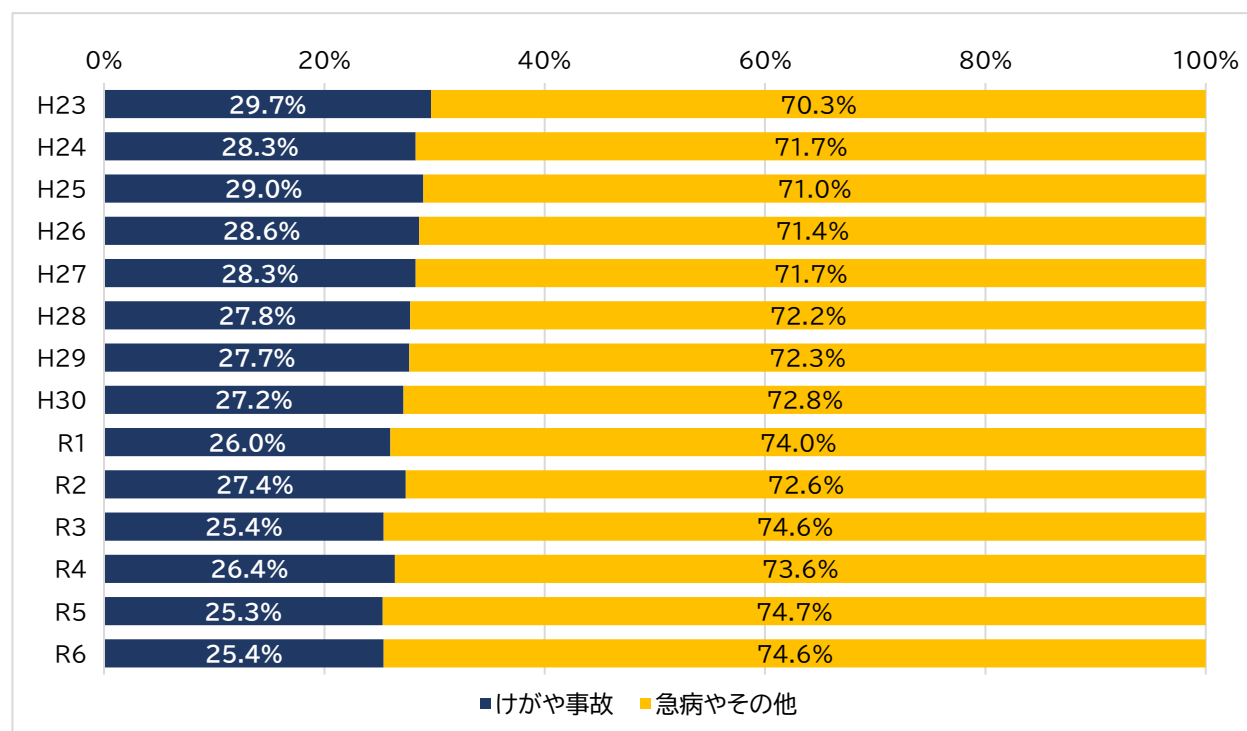


(2) [図 4-2]人口 10 万人当たりの救急搬送人員数 (外因及び急病・転院搬送等含む)

国や福岡県の値と同様に推移している。(※県は令和 4 年度までのデータ)

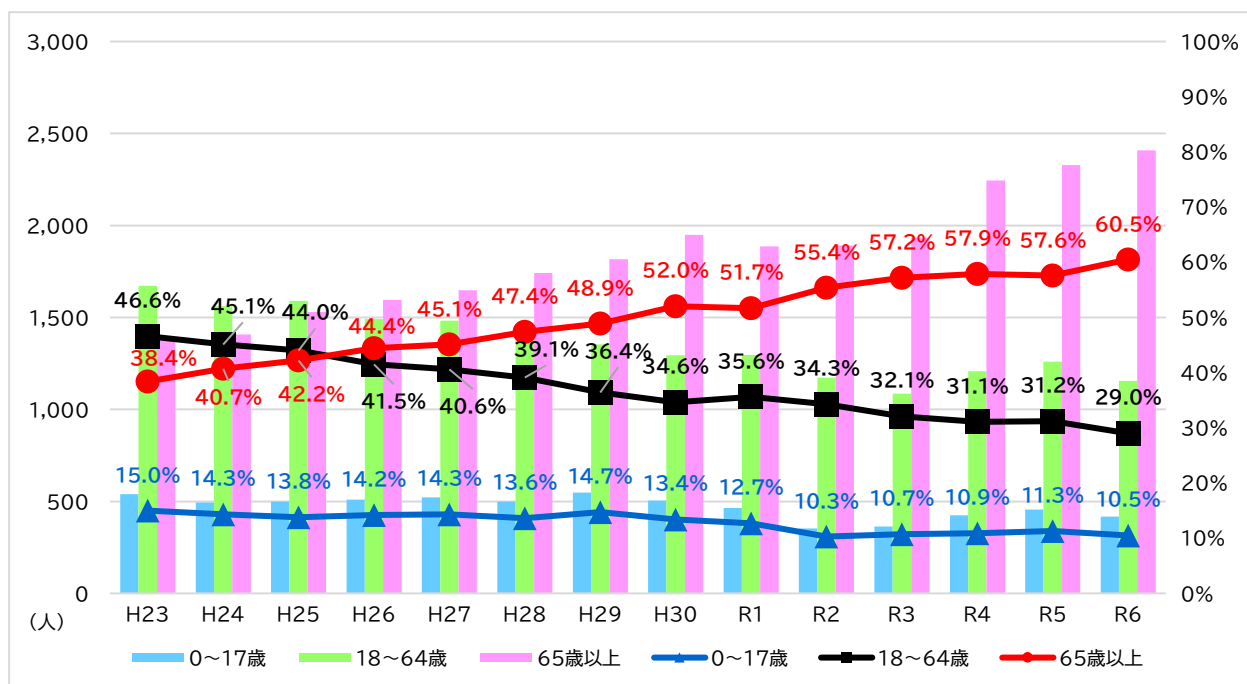


(3) [図 4-3]緊急搬送に占める外的要因 (けがや事故) による搬送割合



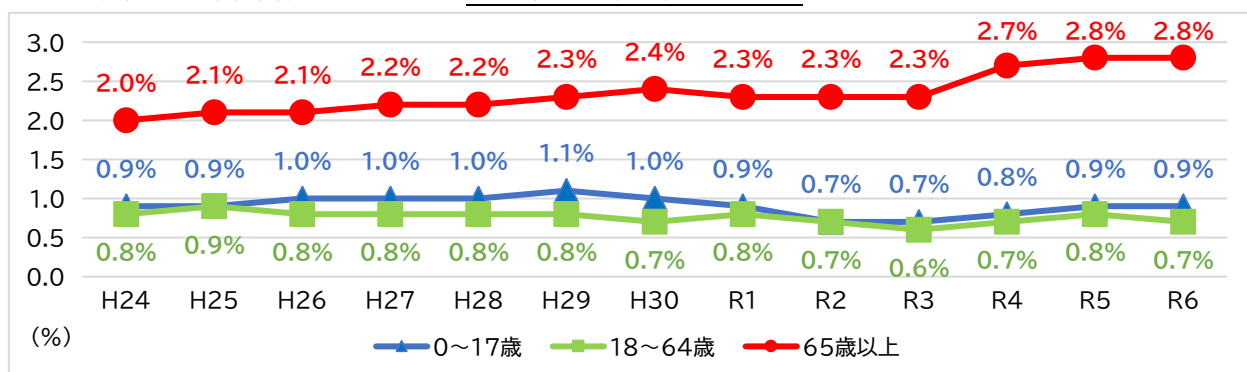
(4) [図 4-4]年齢層別外因による救急搬送人員数

0～17 歳、18～64 歳の搬送数は減少している一方で、65 歳以上の高齢者の搬送数が伸びている。



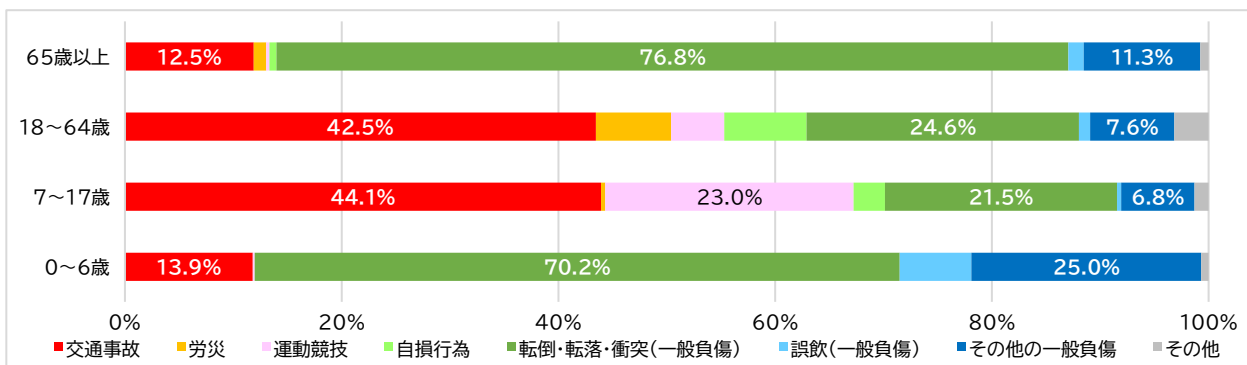
(5) [図 4-5]年齢層別外因による救急搬送の発生率

65 歳以上の高齢者の救急搬送の発生率は、増加傾向にある。



(6) [図 4-6]年齢層ごとの受傷原因

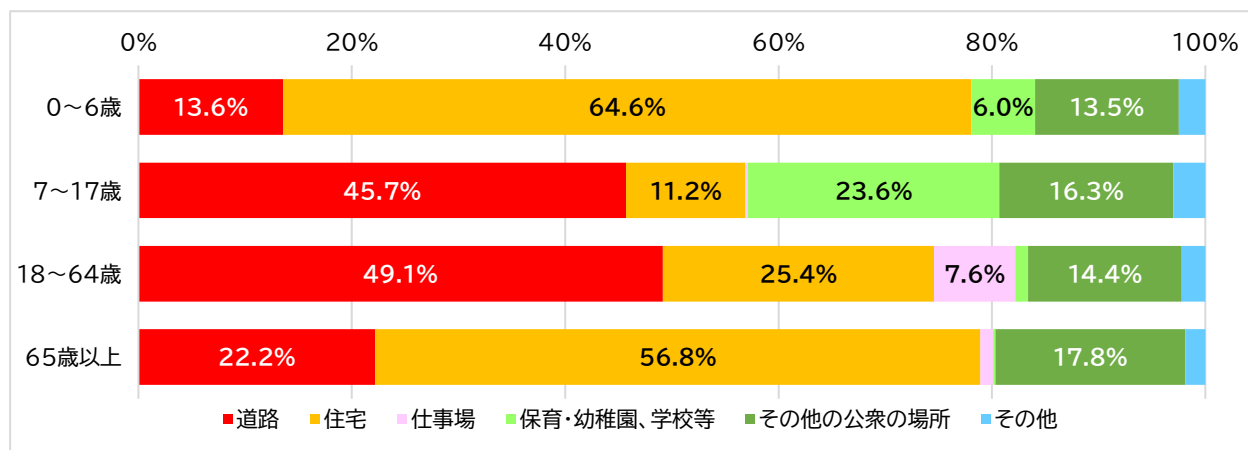
7～17 歳と 18～64 歳では、「交通事故」の占める割合が約 45%と高くなっています。
また、0～6 歳と 65 歳以上では、「転倒・転落」の占める割合が高くなっています。
さらに特徴として、0～6 歳では「誤飲」、7～17 歳では「運動中のけが」、18～64 歳では「労働災害」や「自損行為」が他の年齢層と比較して高くなっています。



(7) [図 4-7]年齢層ごとの受傷場所

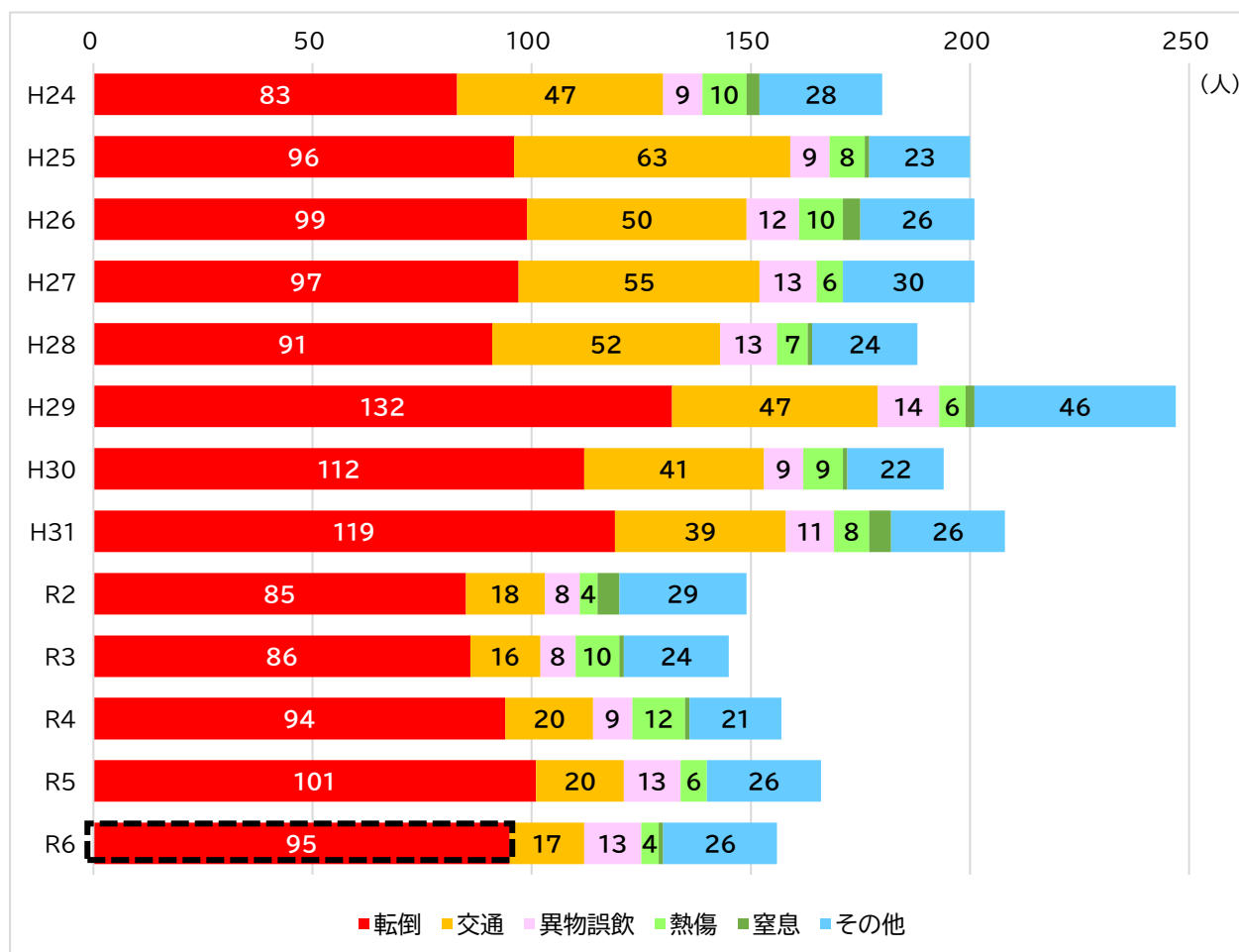
0～6歳と65歳以上では、「住宅」の占める割合が約60%と高くなっています。

また、7～64歳では、「道路」の占める割合が約50%と高くなっています。さらに特徴として、7～17歳では、「学校等」の占める割合が他の年齢層と比較して高くなっています。



(8) 年齢層ごとの事故種別内訳

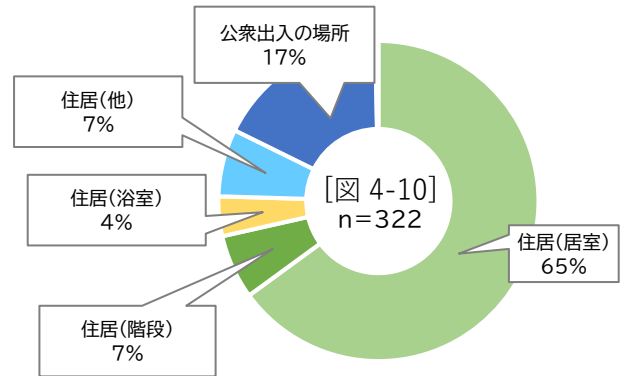
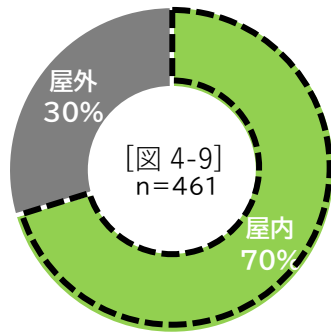
① [図 4-8]乳幼児 (0～6歳)



乳幼児の転倒場所の多くは、屋内である。また、屋内のうち、約7割が居室で発生している。

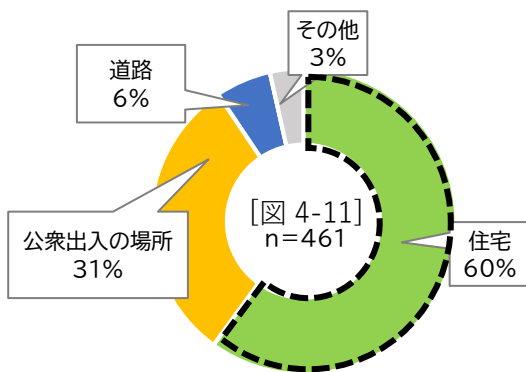
■乳幼児の転倒場所の割合（R2～6年の合計） ■屋内の場所（※R2～6年の合計）

【屋内・屋外】

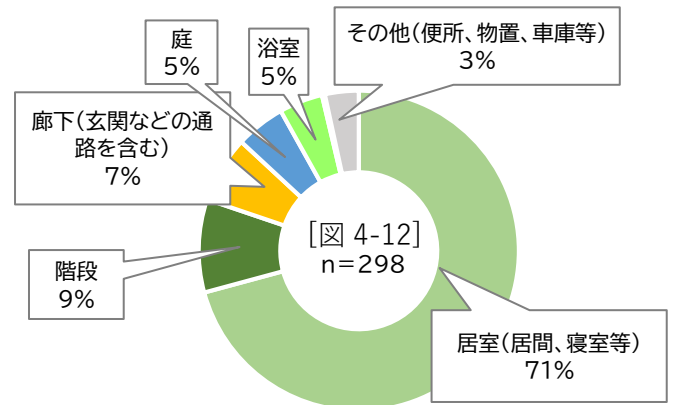


■乳幼児の転倒場所の割合（R2～6年の合計）

【住宅・公衆出入の場所・道路・その他】

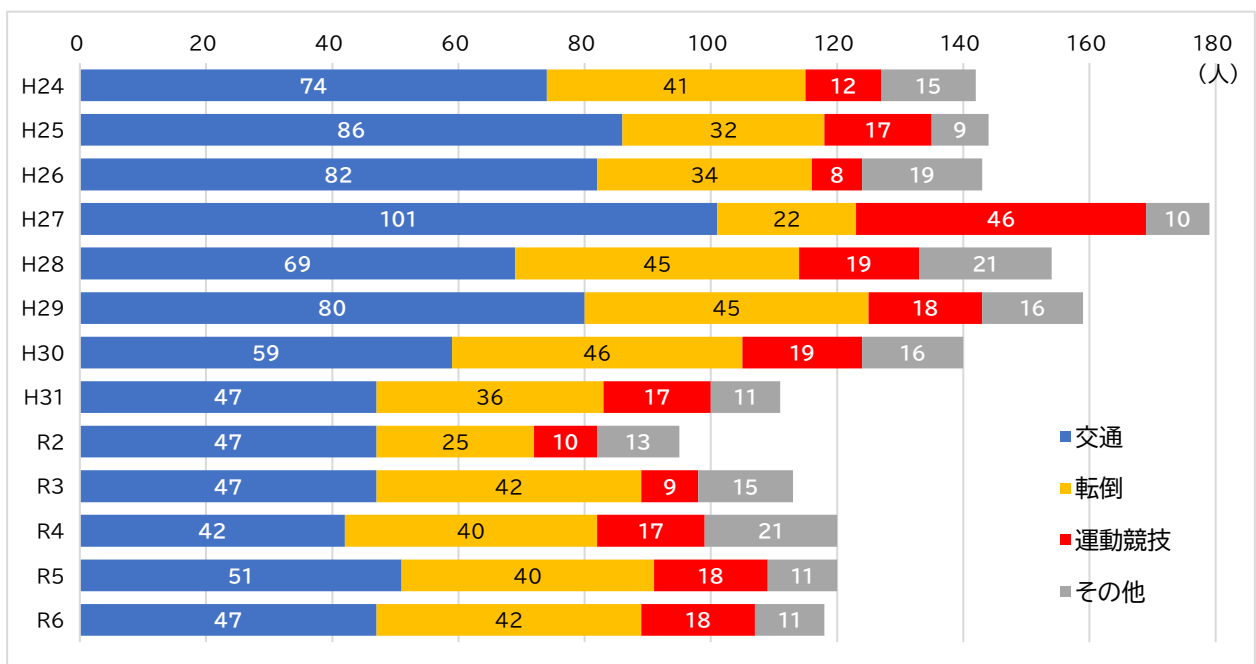


■住宅の内訳（※R2～6年の合計）

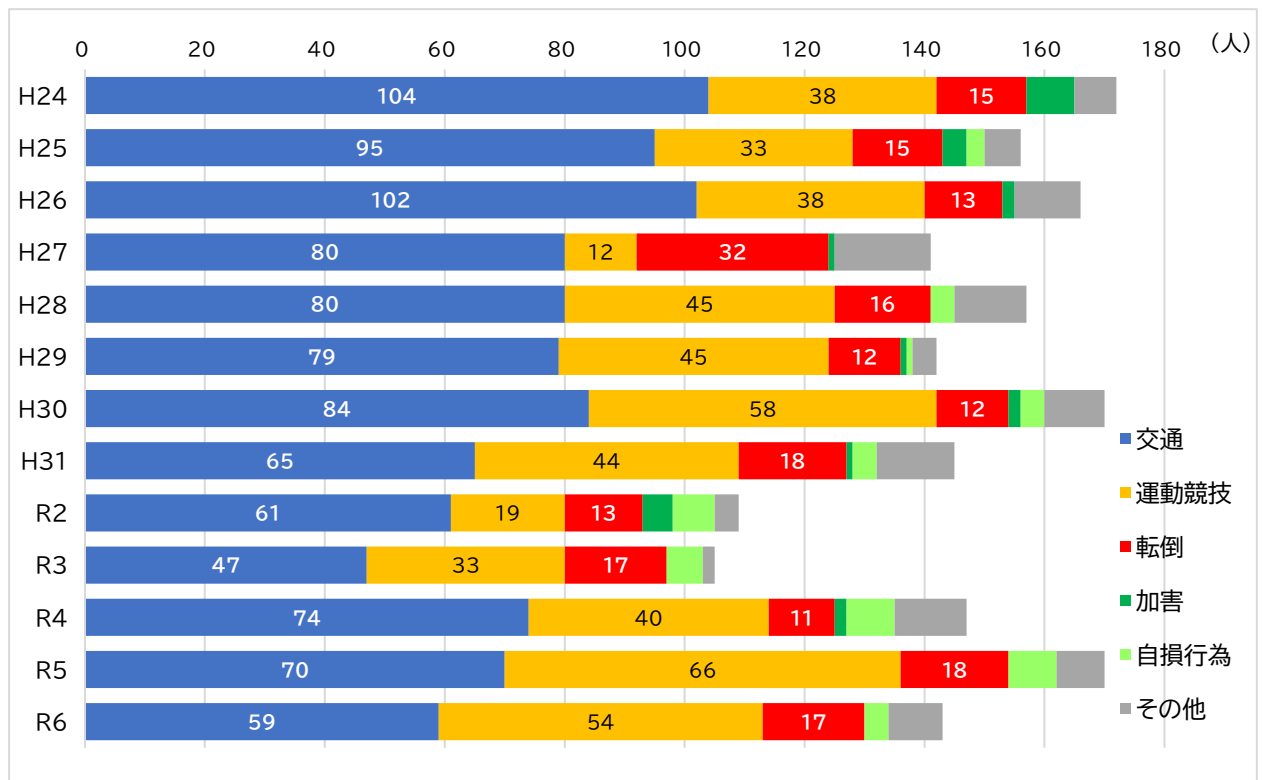


②[図 4-13]小学生

コロナ禍直後、搬送人員数は増加傾向にあったが、ほぼ同じ搬送人員を保っている。



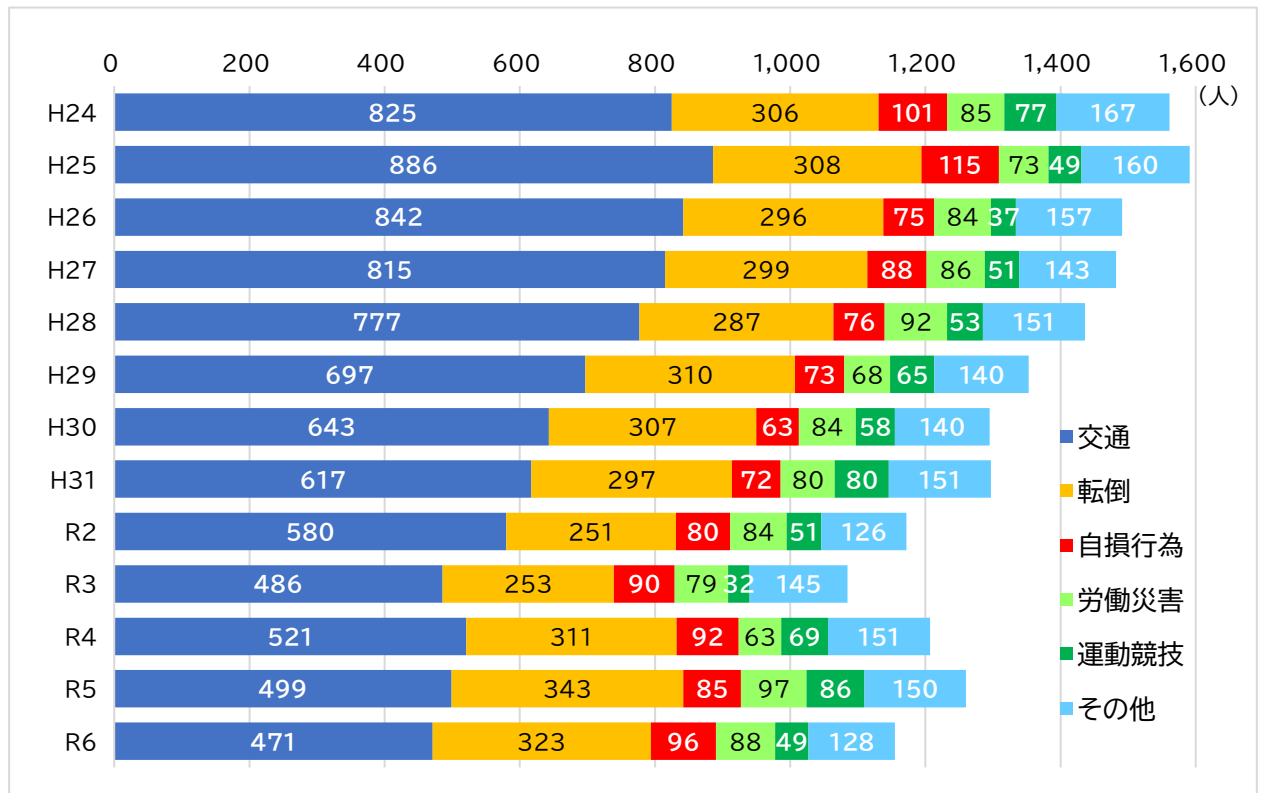
③[図 4-14]中高生



④[図 4-15]成人

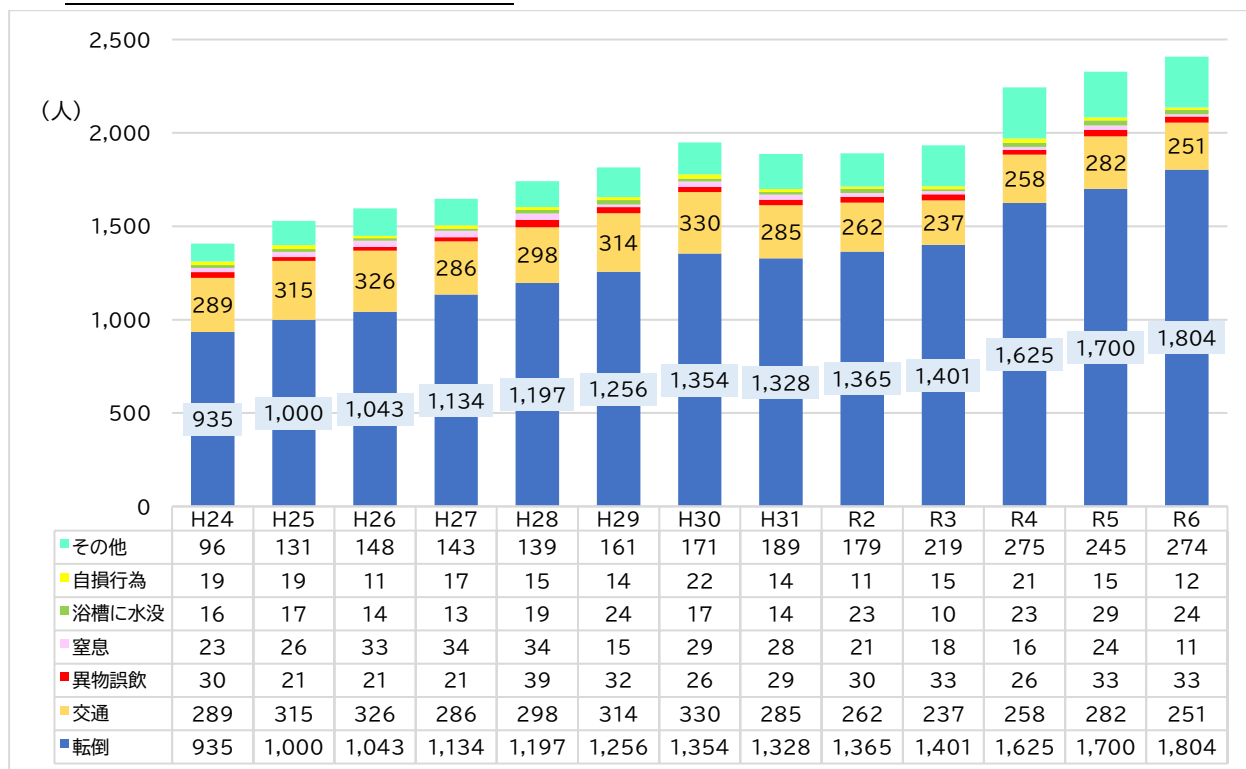
H30 年以降、自損行為による搬送数が増加傾向にある。

また、コロナ禍以降は転倒・転落等による搬送が増加している。

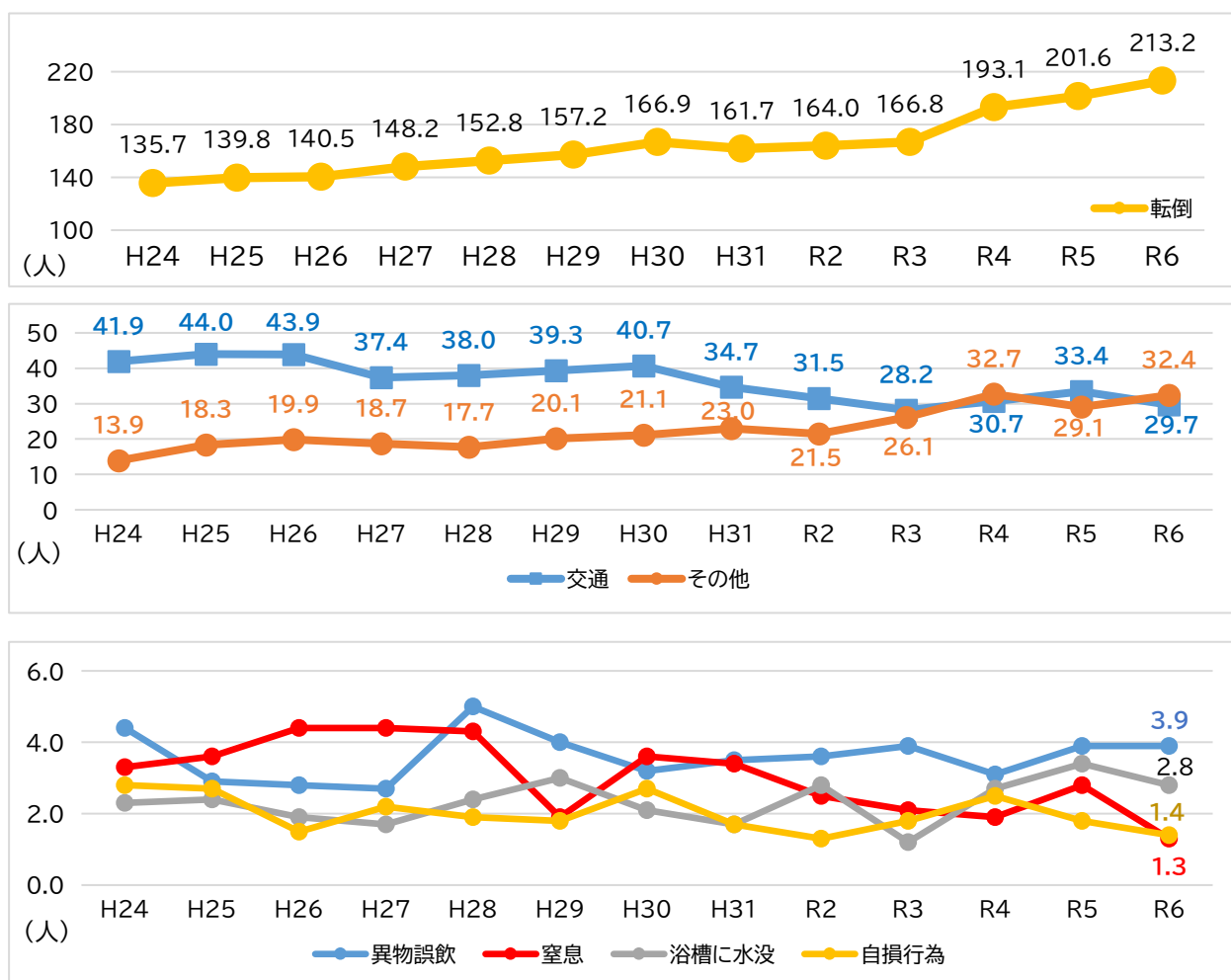


⑤[図 4-16]高齢者

救急搬送人員数は増加傾向にある。



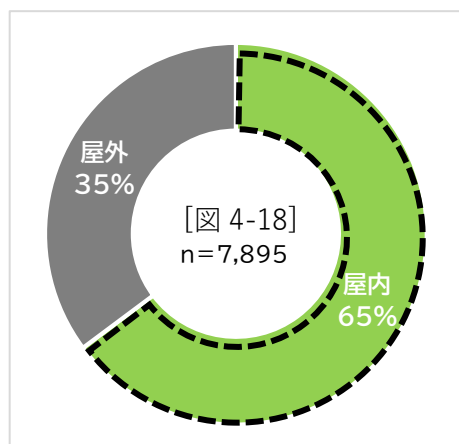
■[図 4-17]高齢者人口 1 万人当たりの事故種別の救急搬送人員数



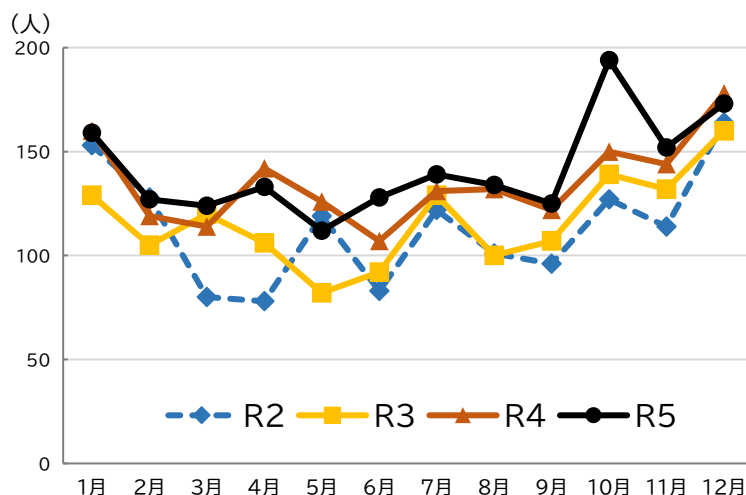
転倒場所は、60～70%が屋内である。

また、10月から1月にかけて転倒による搬送人員数が多くなる。

■[図 4-18]高齢者の転倒場所の割合
(R1～5年の合計)

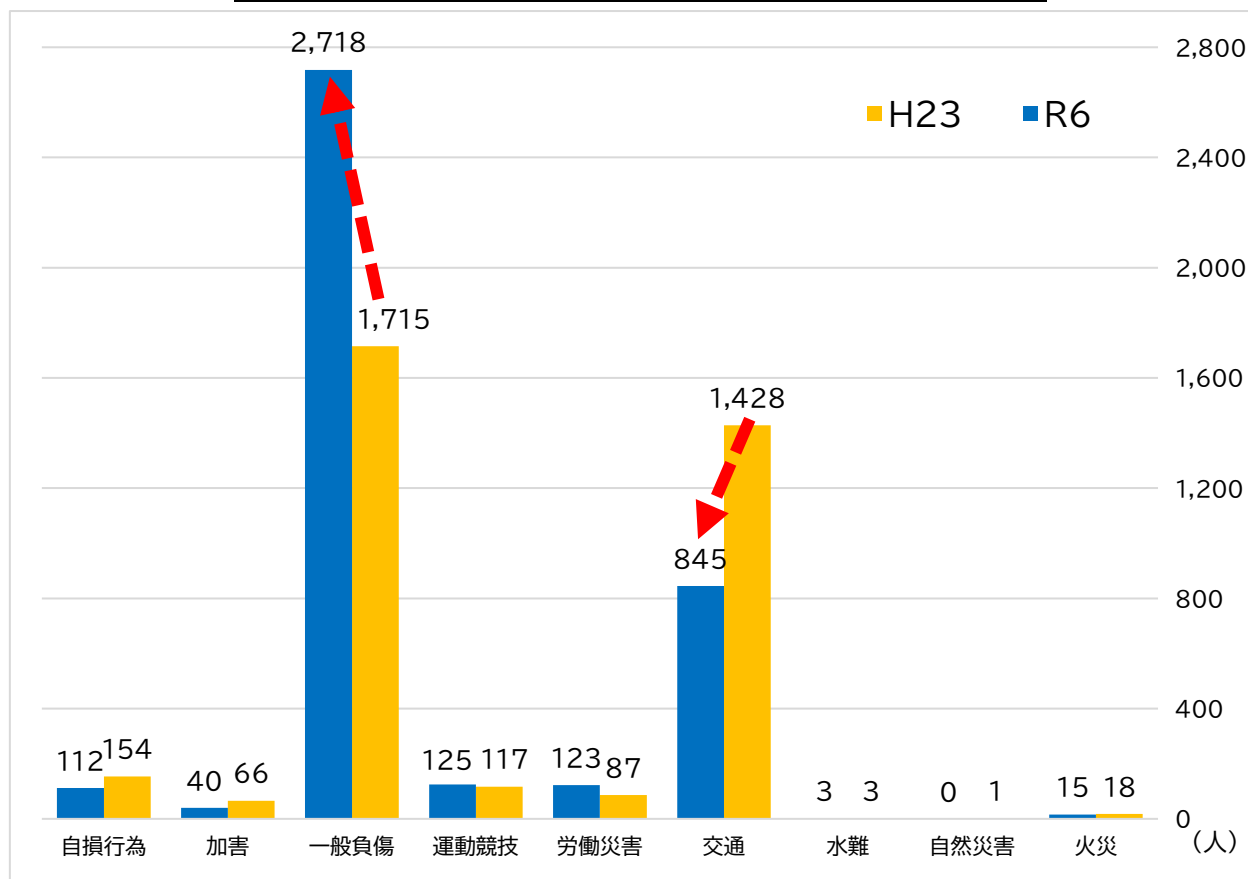


■[図 4-19]月ごとの高齢者の転倒による搬送人員数



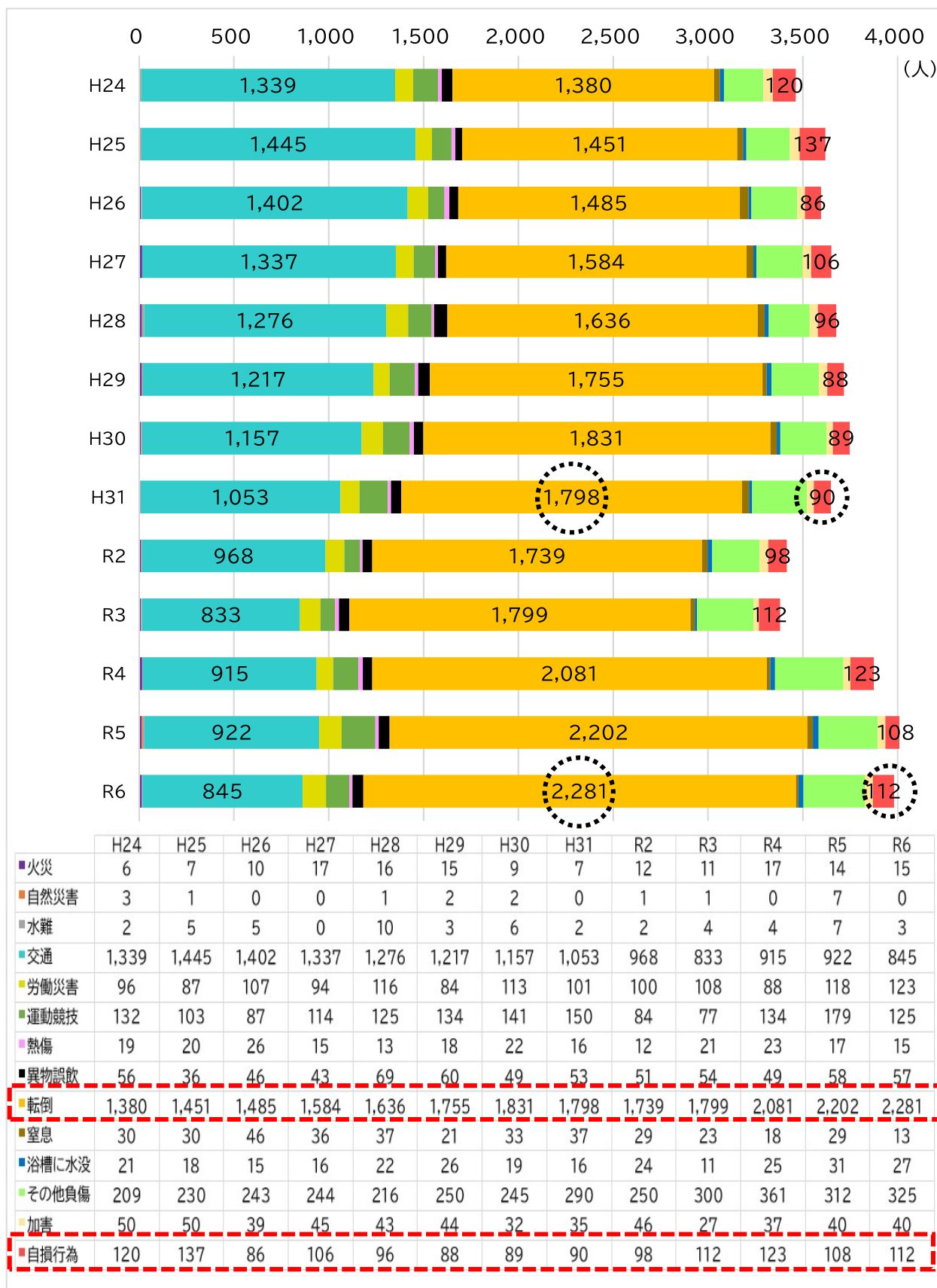
(9) [図 4-20]事故種別ごとの搬送人数（全年齢）

事故種別を見ると、SC の取り組みを始めた H23 年と同様に、現在も「交通事故」と「一般負傷」が圧倒的に多いが、交通事故による搬送は減少し、一般負傷は大幅に増加している。



(10) [図 4-21] 事故種別ごとの搬送数 (全年齢)

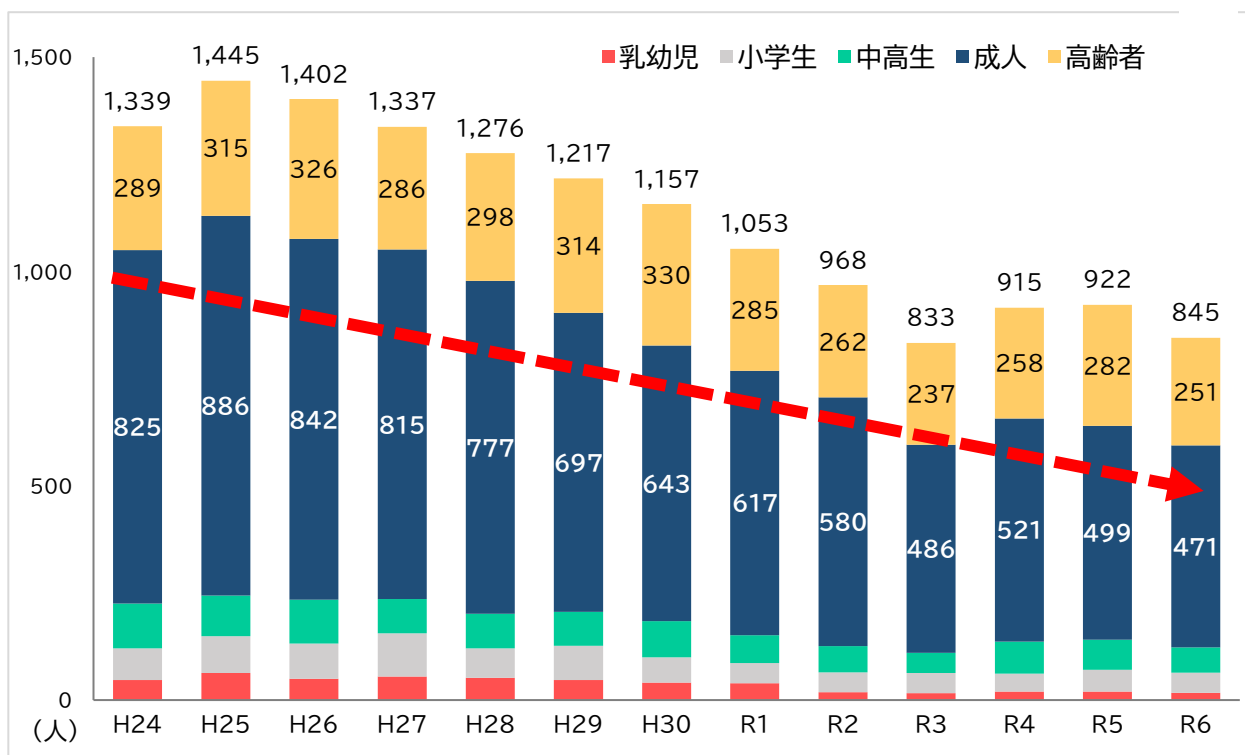
転倒・転落等と自損行為による搬送がコロナ禍前より増加している。



(11) 事故種別ごとの年齢別内訳

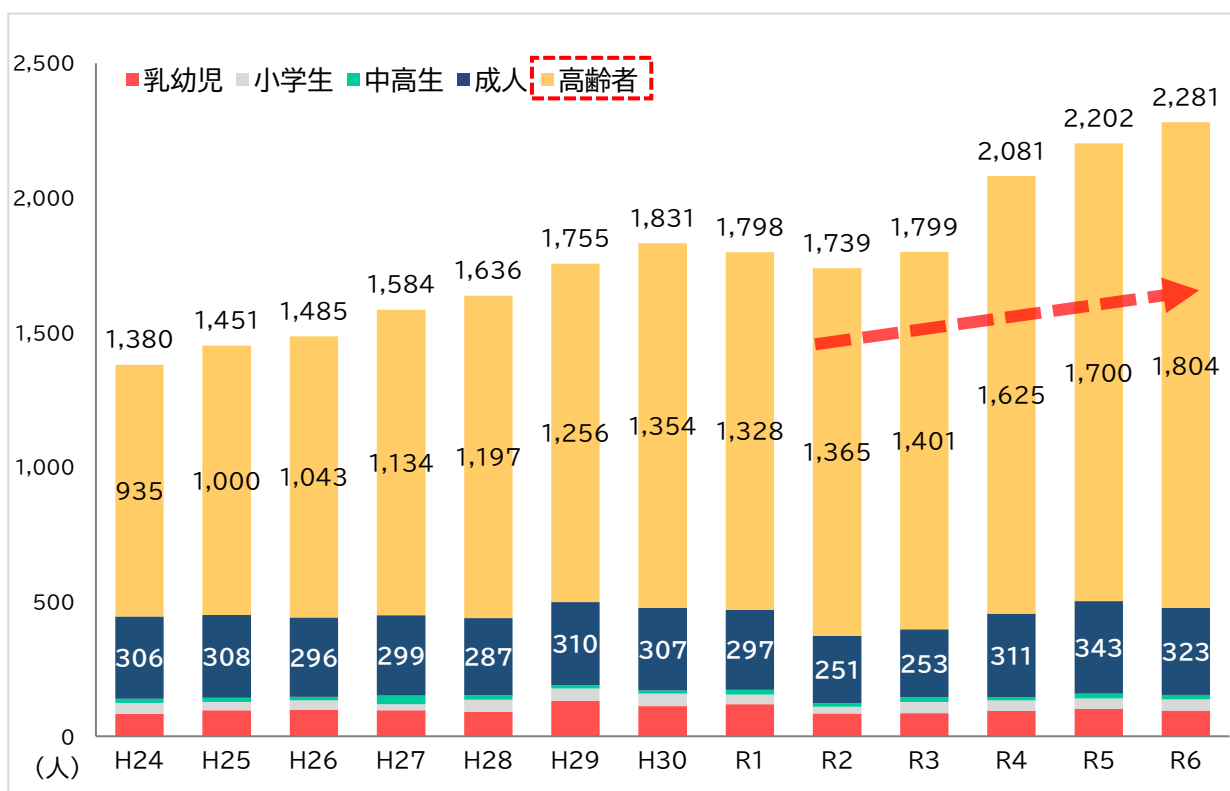
①[図 4-22]交通事故

交通事故による救急搬送人員数は長期的に減少傾向にある。



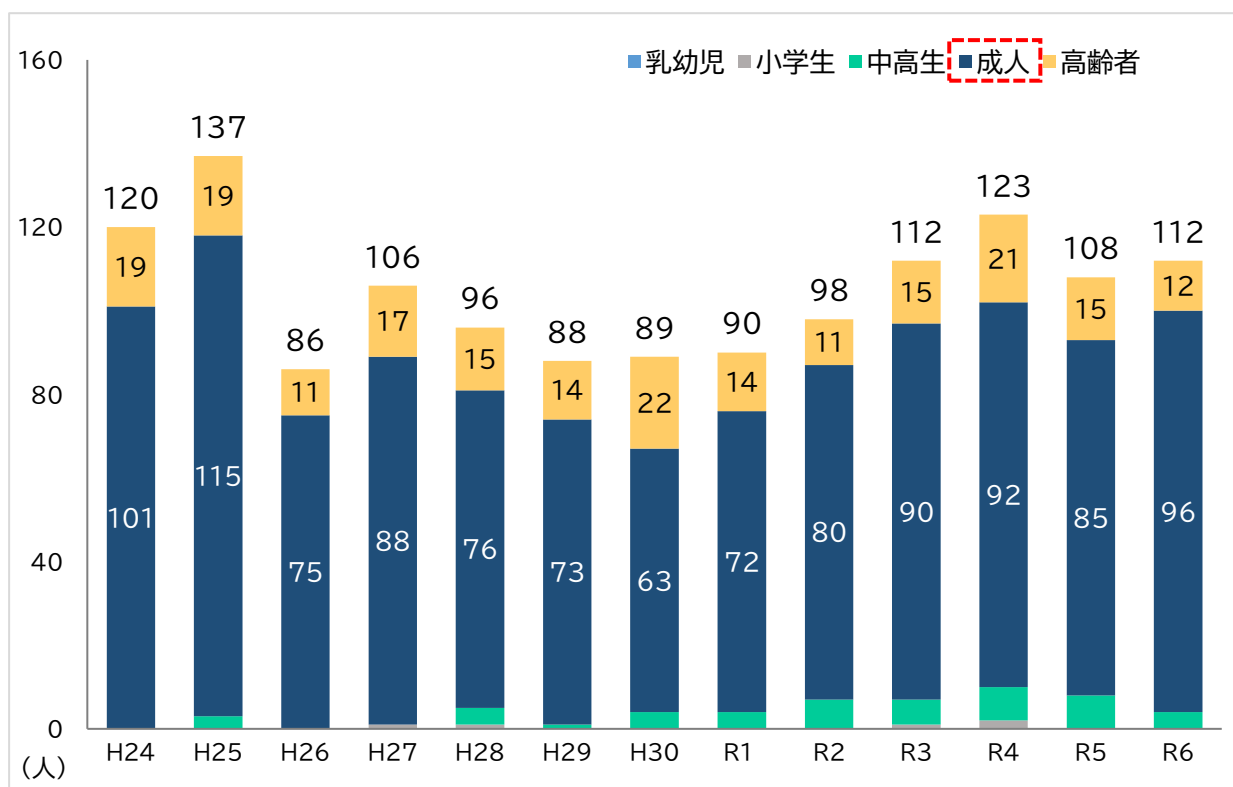
②[図 4-23]転倒

転倒による搬送人員数は、高齢者が増加傾向にある。



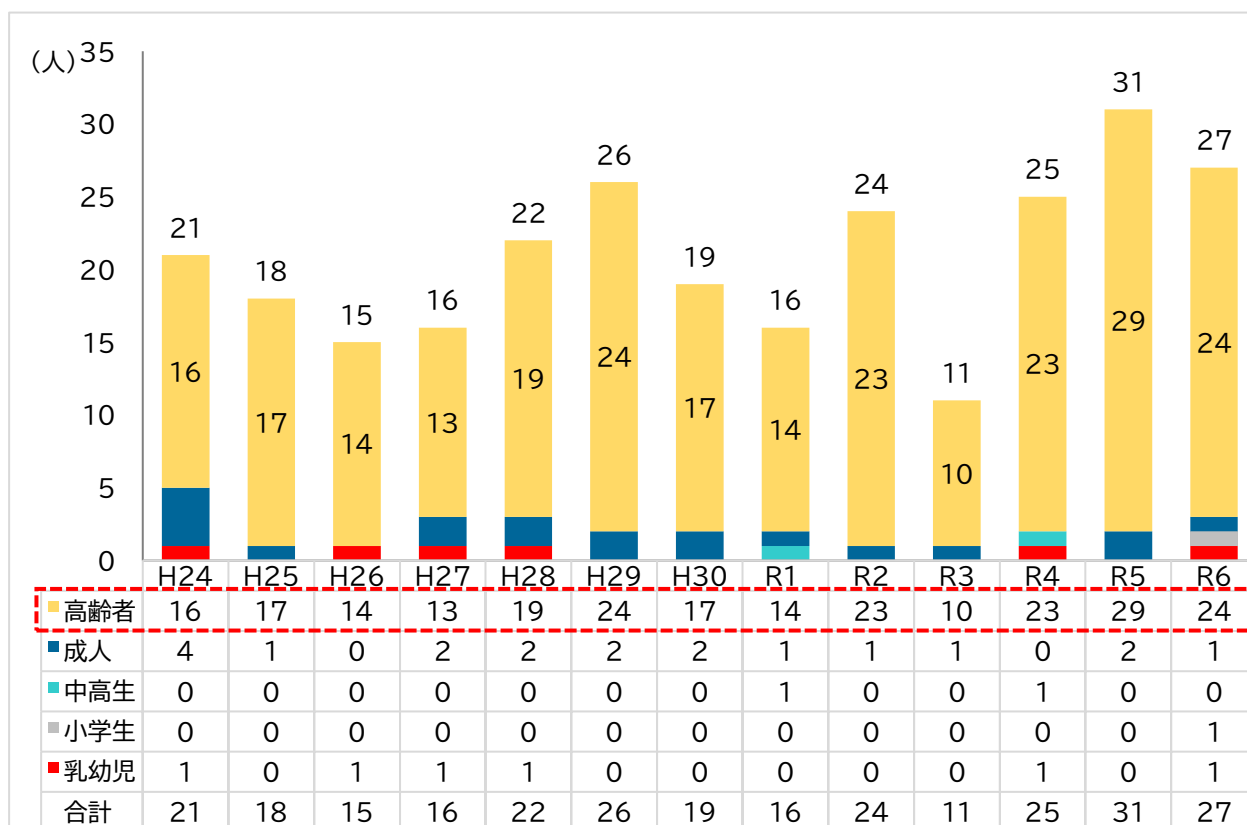
③[図 4-24]自損行為

自損行為による搬送人員数の約 8 割は成人の搬送数が増加傾向にある。



③[図 4-25]溺死・溺水

溺死溺水による搬送人員数の多くは、高齢者が占めている。



(12) 発生場所「浴室（シャワー室、洗面所を含む）」の搬送人員数（65 歳以上）

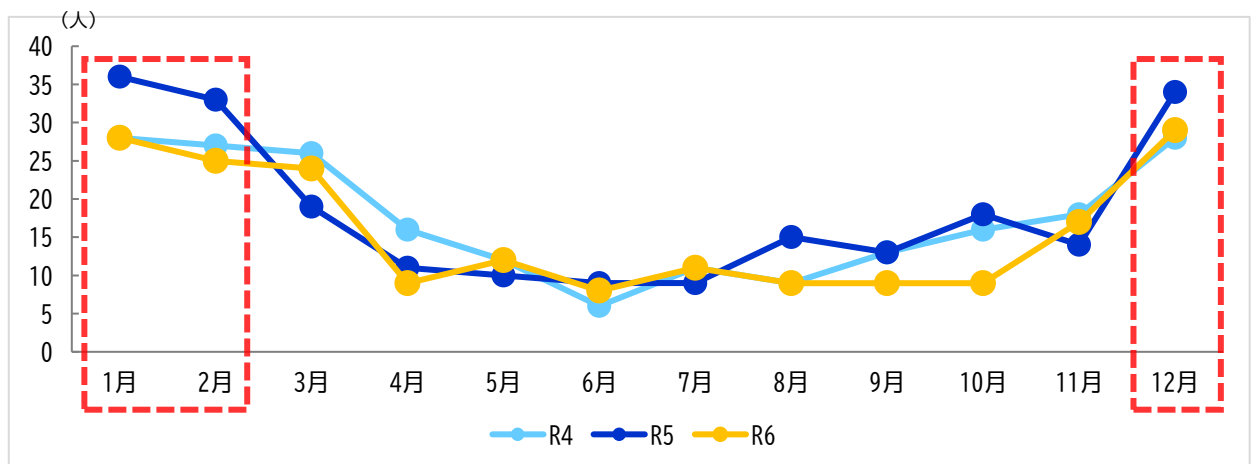
※火災、自損行為は除く

※外因によるものだけでなく急病等も含む

冬は搬送人員数が多くなる。

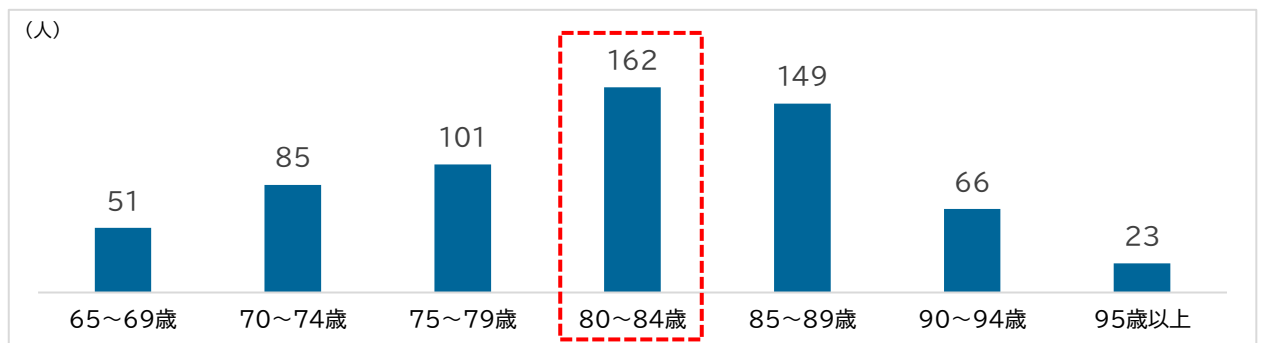
80～84 歳になると急増する。

■[図 4-26] 月毎の浴室からの高齢者の搬送人員数（R4～R6）



■[図 4-27] 年齢ごとの搬送人員数（R2～R5）

n=637

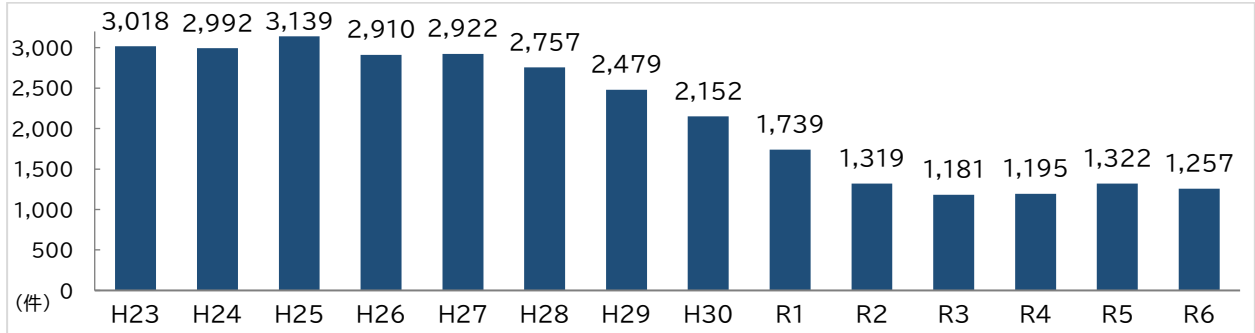


5 交通事故に関する状況（警察統計）

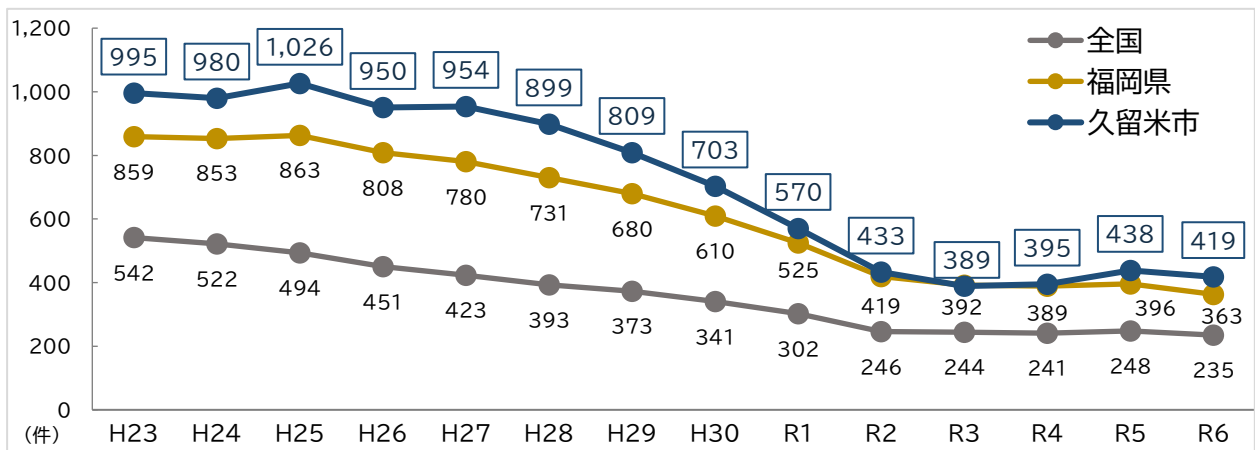
（１）久留米市の交通事故発生状況

コロナ禍で急減した交通事故発生件数は、直近５年間は大幅な増減はない。 [図 5-1]

■[図 5-1]久留米市の交通事故発生件数の推移



■[図 5-2]人口 10 万人あたりの交通事故発生件数の比較（久留米市、福岡県、全国）

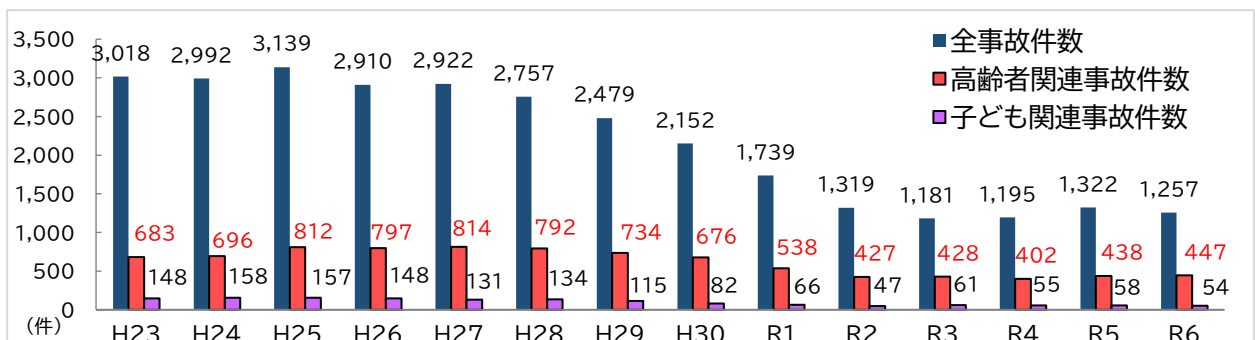


（２）高齢者関連事故について

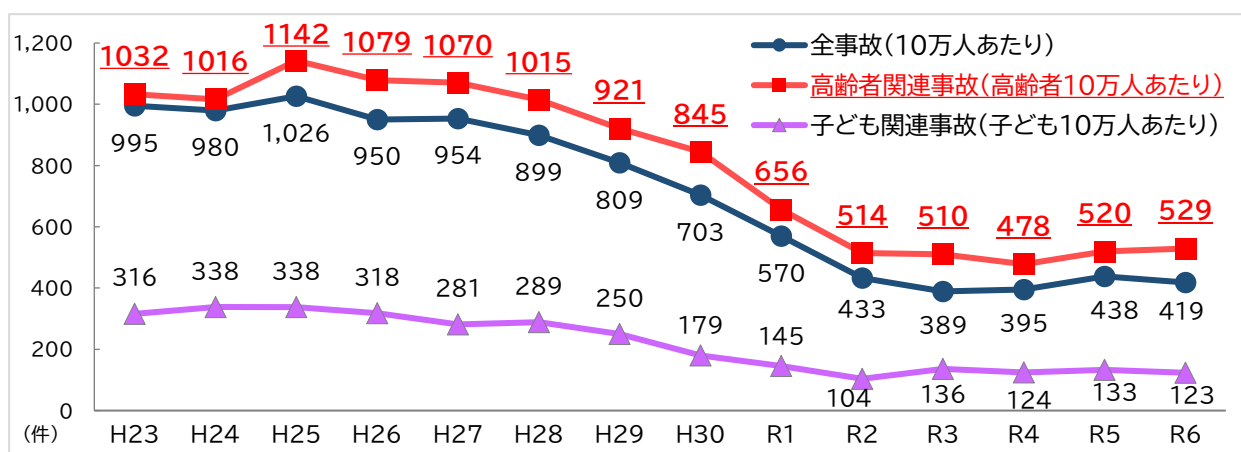
高齢者が関わる交通事故件数は減少傾向にあるが、各年齢層の人口比でみると高齢者関連事故件数は、久留米市全体の交通事故発生件数を上回っている。 [図 5-4]

人口 10 万人当たり的高齢者関連交通事故の件数は、福岡県の値を上回っている。 [図 5-5]

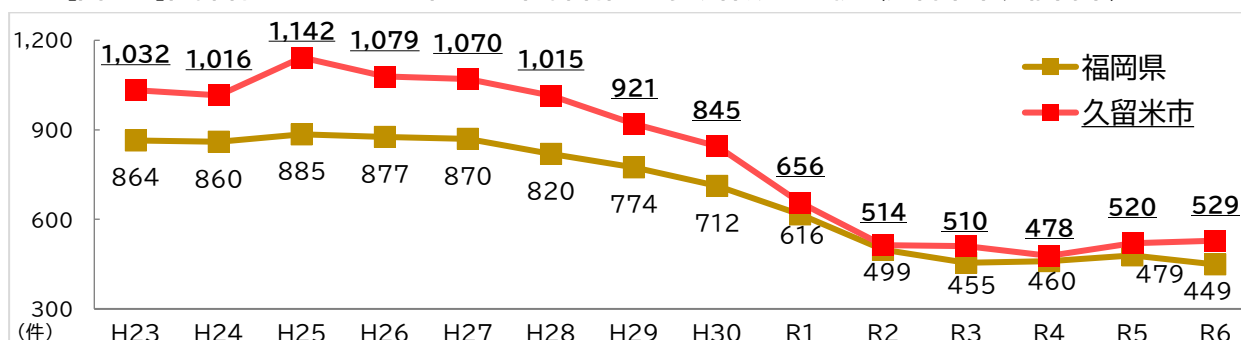
■[図 5-3]年齢層毎の久留米市の交通事故発生件数の推移



■[図 5-4]年齢層毎の人口 10 万人当たりの久留米市の交通事故発生件数の推移



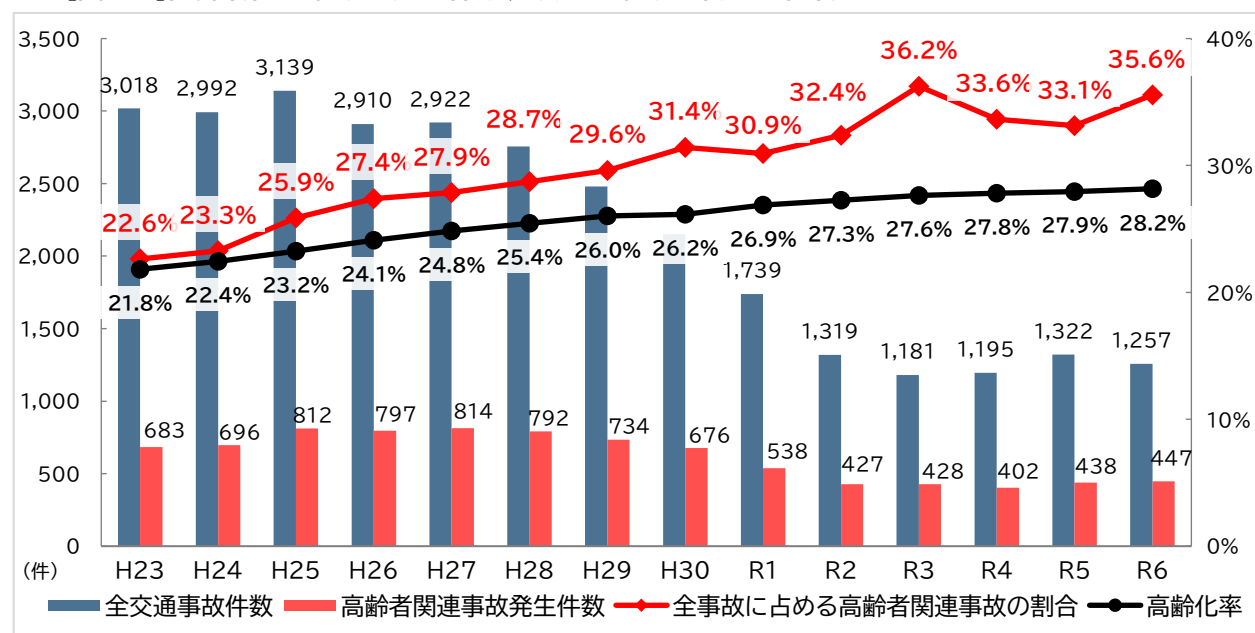
■[図 5-5]高齢者人口 10 万人当たり的高齢者関連事故件数の比較（久留米市、福岡県）



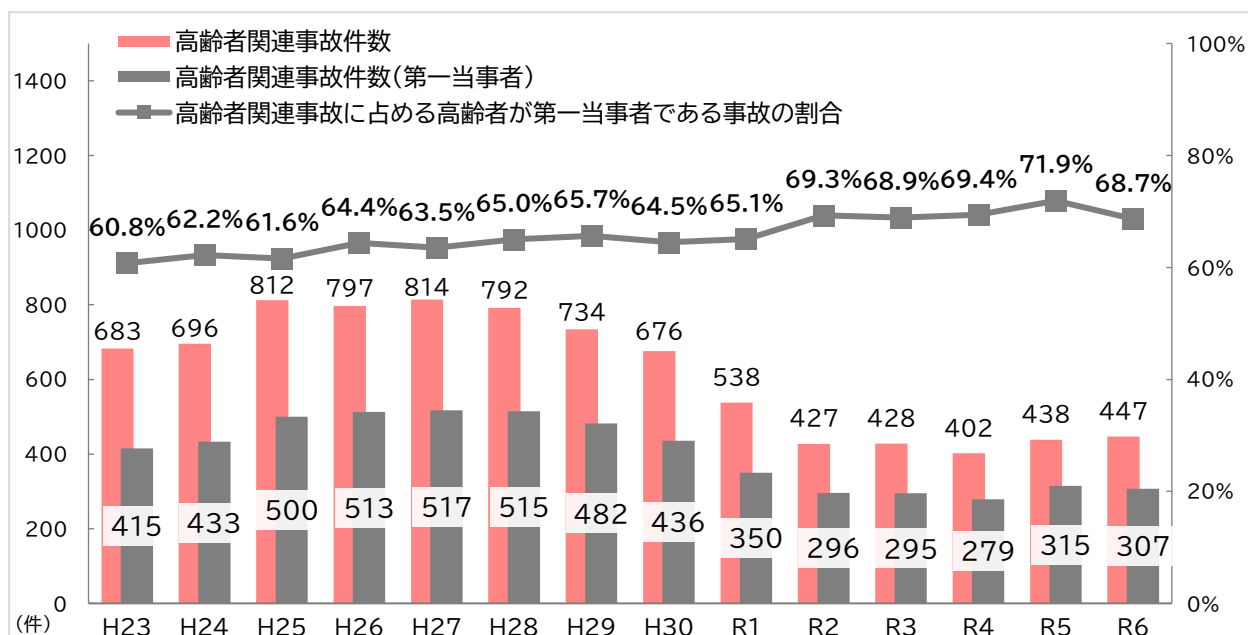
コロナ禍で発生件数は減少していたが、全事故に占める高齢者関連事故の割合はコロナ禍前より増加しており、久留米市の高齢化率を上回っている。[図 5-6]

また、高齢者関連事故に占める高齢者が加害者（第一当事者）となる交通事故の割合は増加傾向にある。[図 5-7]

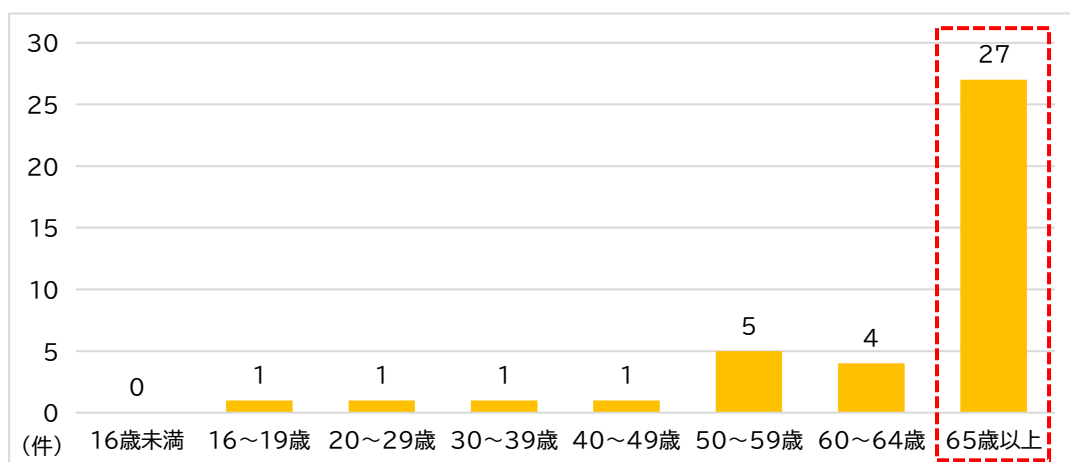
■[図 5-6]高齢者関連事故の発生件数、及び全事故に占める割合



■[図 5-7]高齢者が加害者（第一当事者）の事故の件数、及び高齢者関連事故に占める高齢者が加害者となる事故の割合

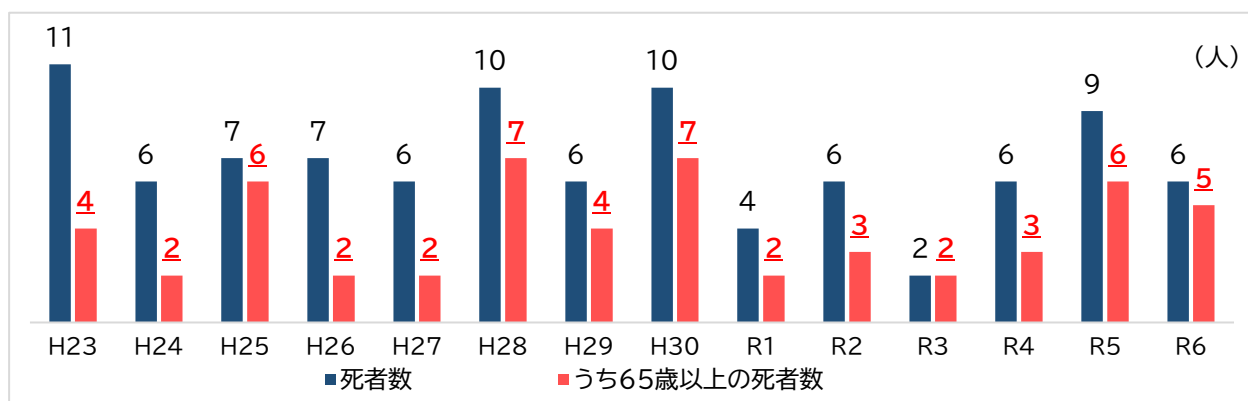


■[図 5-8]福岡県内の歩行者関連交通事故発生状況（R6）

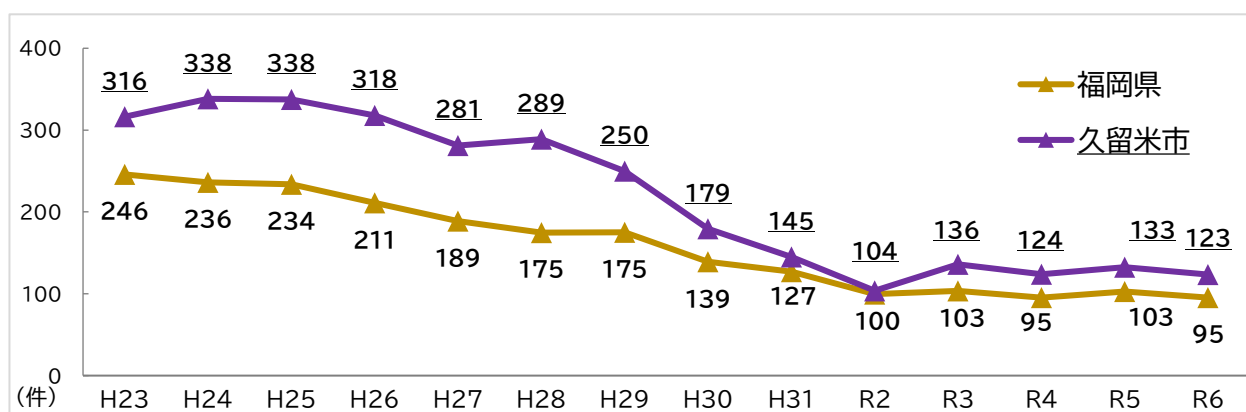


久留米市内の交通事故による死者の半数以上が高齢者である。[図 5-9]

■[図 5-9]久留米市の交通事故による死者数



【参考】[図 5-9]子どもの人口 10 万人当たりの子ども関連の事故発生件数の比較（久留米市、福岡県）

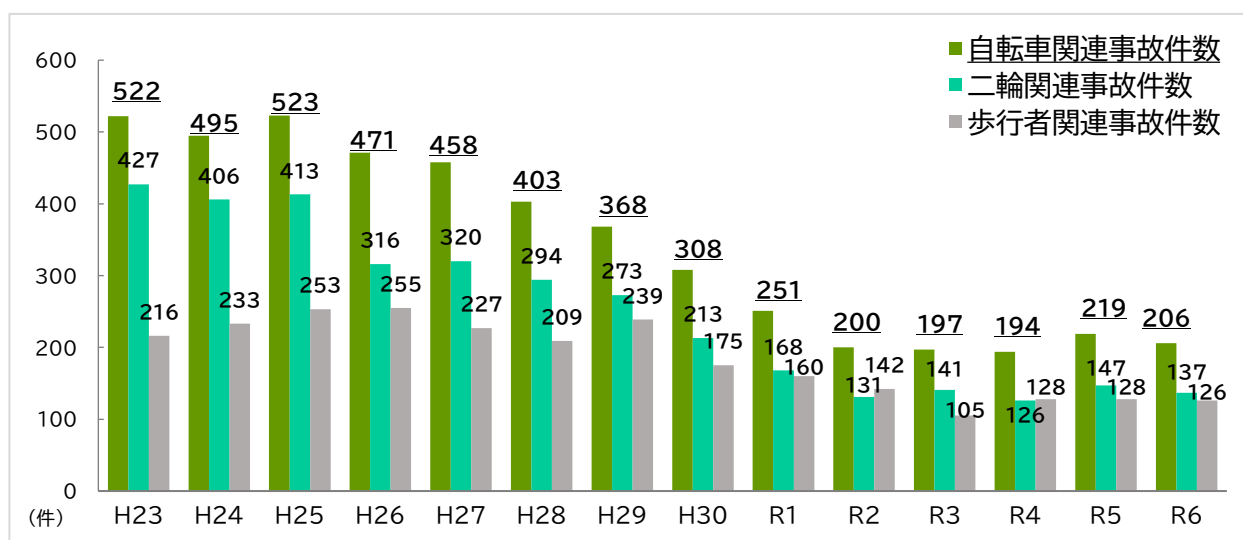


(3) 自転車関連事故について

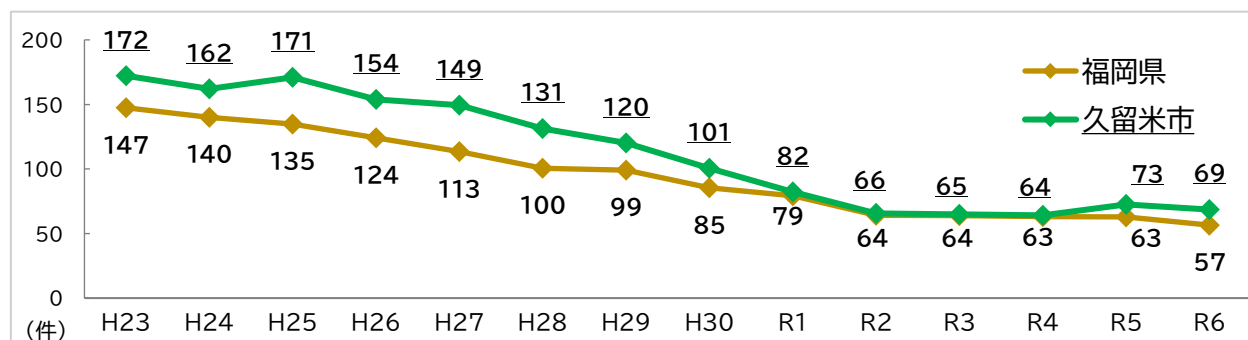
自転車関連事故件数は減少傾向にあったが、令和 5 年は前年より増加した。[図 5-10]

県と同水準だった人口 10 万当たりの自転車事故発生件数についても、令和 5 年には差が拡大した。[図 5-11]

■[図 5-10]久留米市の車両別交通事故発生件数等の推移



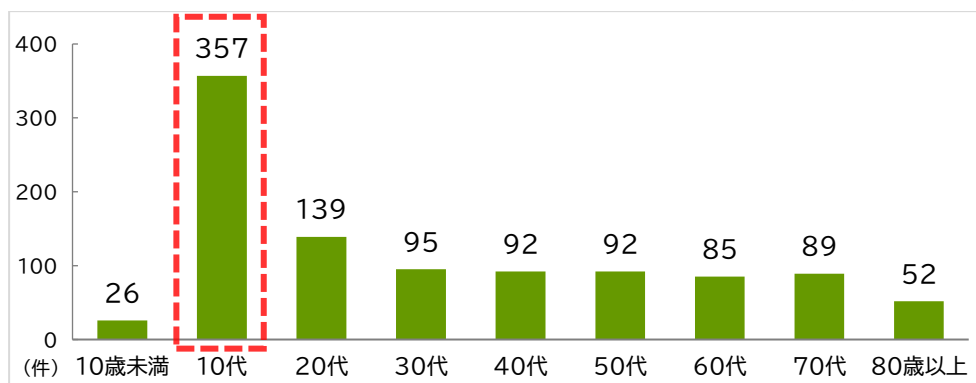
■[図 5-11]人口 10 万人当たりの自転車関連事故発生件数の比較（久留米市、福岡県）



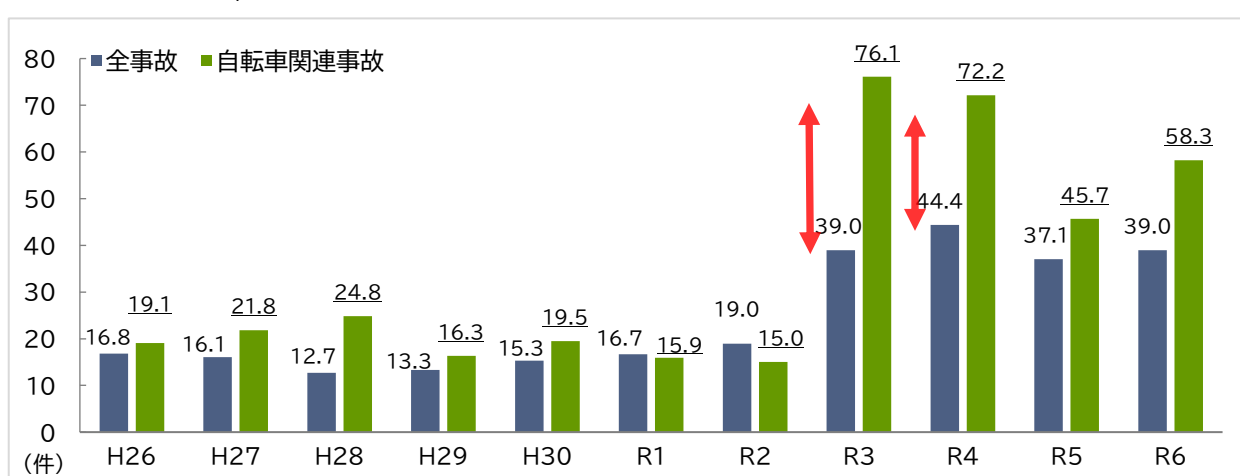
年齢別にみると、自転車関連事故は 10 代の事故件数が突出して多い。[図 5-12]

また、死亡や重傷に繋がる交通事故は、事故全体に比べ自転車関連事故の方が高い状況である。[図 5-13]

■[図 5-12]年齢層毎の自転車関連事故発生件数（R2～R6 年の累計）



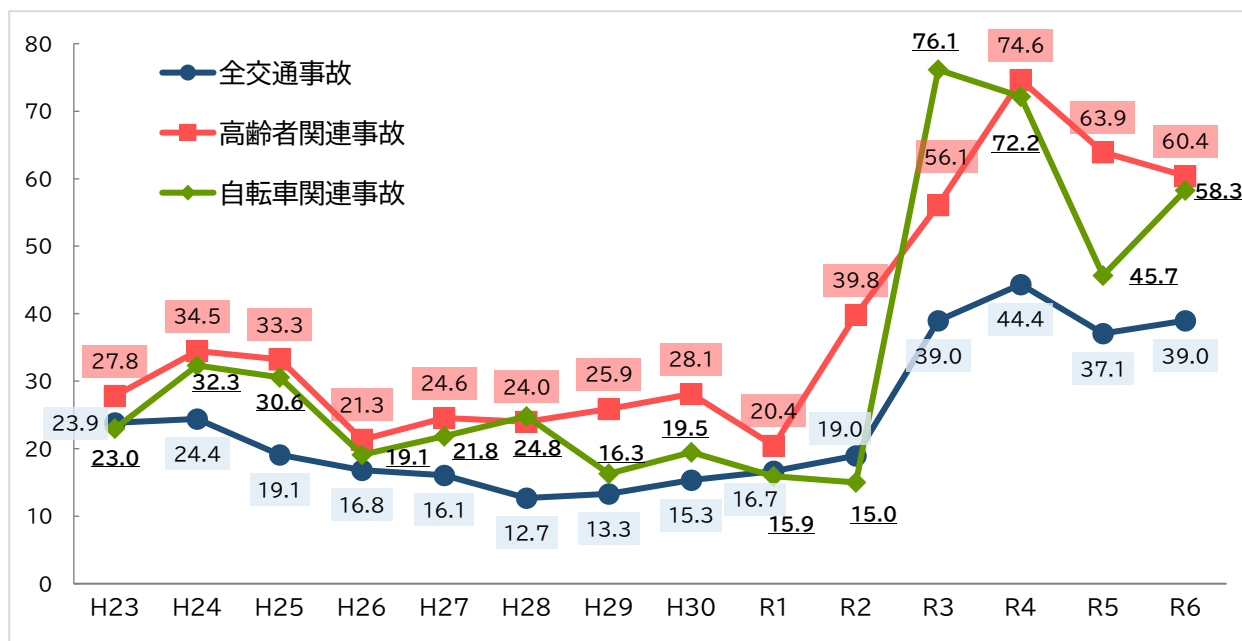
■[図 5-13]事故 1,000 件当たりの死亡事故と重傷事故件数の比較



(4) 近年の事故の傾向

令和 3 年以降、死亡や重傷となる事故に繋がりがやすくなっている。

■[図 5-14]各事故 1,000 件当たりの死亡事故と重傷事故件数



(4) シニアカー関連事故について

シニアカー関連事故の内容をみると、横断中の事故や対歩行者の事故が起きている。[表 5-15]
久留米市では、令和 4 年と令和 6 年に、横断中の事故が 1 件ずつ発生している。

全国的にみると、電動車いすの重大事故が発生している。[表 5-16]

■[表 5-15] シニアカー関連事故件数

	R1	R2	R3	R4	R5	R6
福岡県	7	7	1 4	8	6	未集計
久留米市	—	—	—	1	—	1

■[表 5-16] 消費者庁が発表した電動車いすの重大事故（R5 年、R6 年）

番号	消費者庁 公表日	事故 発生日	発生地	製品名	被害状況	事故内容
1	R6.5.24	R6.4.13	愛媛県	電動車いす (ハンドル形)	死亡 1 名	使用者（80 歳代）が、当該製品とともに水路で発見され、死亡が確認された。
2	R6.5.14	R6.4.25	福岡県	電動車いす (ハンドル形)	死亡 1 名	使用者（70 歳代）が当該製品で走行中、用水路へ転落し、死亡した。
3	R6.4.12	R6.3.24	宮崎県	電動車いす (ハンドル形)	死亡 1 名	使用者（80 歳代）が当該製品を使用中、当該製品ごと田んぼに転落し、死亡した。
4	R6.4.9	R6.2.16	福岡県	電動車いす (ジョイスティック形)	重傷 1 名	使用者（70 歳代）が当該製品を使用中、歩道から外れ、転倒、負傷した。
5	R5.12.28	R5.12.15	東京都	電動車いす (ハンドル形)	重傷 1 名	店舗の駐輪場で当該製品で走行中、駐輪中の自転車に接触後、自転車転倒防止柵に衝突し、転倒、負傷した。
6	R5.10.11	R5.9.22	神奈川県	電動車いす (ハンドル形)	死亡 1 名	当該製品に乗車していた使用者（80 歳代）が、当該製品とともに山道で転倒しているところを発見され、死亡が確認された。
7	R5.8.29	R5.8.4	東京都	電動車いす (ジョイスティック形)	重傷 1 名	当該製品を使用中、駅のホームから転落し、負傷した。
8	R5.7.7	R5.6.18	埼玉県	電動車いす (ハンドル形)	重症 1 名	店舗の駐車場で使用者（70 歳代）が当該製品を使用中、転倒し、負傷した。
9	R5.6.16	R5.5.27	福岡県	電動車いす (ハンドル形)	死亡 1 名	使用者（80 歳代）が当該製品を使用中、川へ転落し、死亡した。
10	R5.6.2	R5.5.27	埼玉県	電動車いす (ハンドル形)	死亡 1 名	使用者（80 歳代）が当該製品を使用中、踏切内で列車にはねられ死亡した。
11	R5.5.19	R5.4.20	京都府	電動車いす (ハンドル形)	死亡 1 名	使用者（80 歳代）が当該製品を使用中、当該製品ごと道に転倒し、病院に搬送後、入院中に死亡した。
12	R5.4.21	R5.4.10	京都府	電動車いす (ハンドル形)	死亡 1 名	使用者（80 歳代）が当該製品を使用中、踏切内で列車にはねられ死亡した。
13	R5.4.4	R5.3.19	山形県	電動車いす (ハンドル形)	死亡 1 名	使用者（90 歳代）が当該製品とともに沢で発見され、死亡が確認された。

※消費者庁・国民生活センター等からの消費生活に関する情報より

6 犯罪に関する状況（警察統計）

重点分野:犯罪暴力の予防

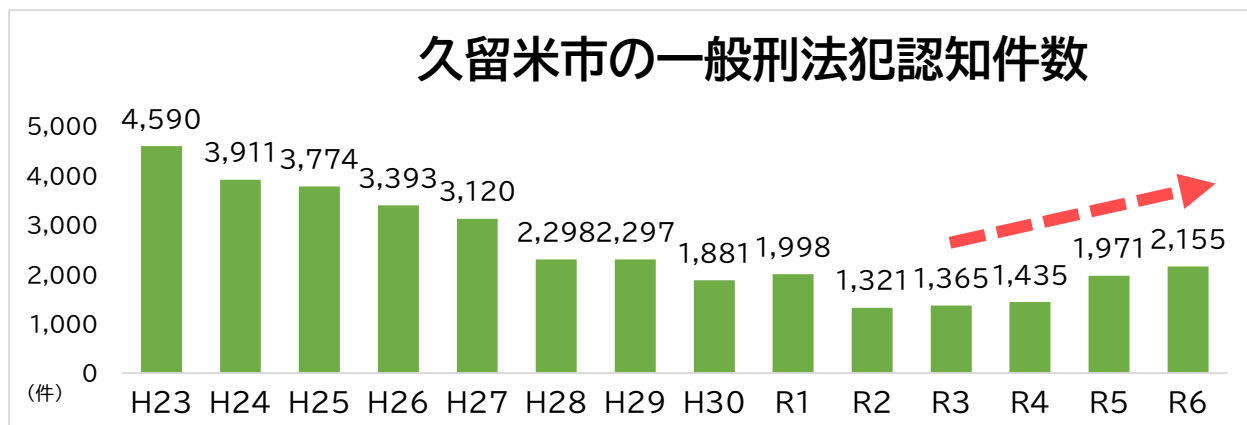
（１）一般刑法犯認知件数

一般刑法犯：刑法犯から、交通事故によって人を死傷させて過失犯を除いたもの

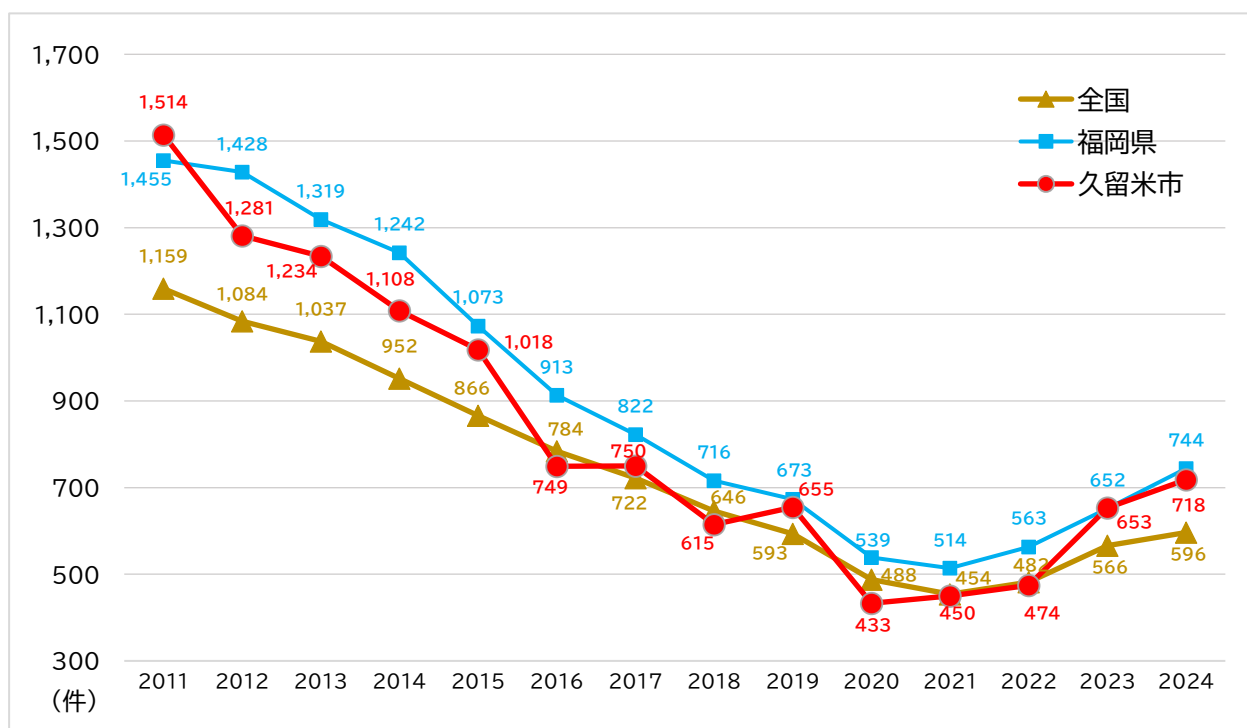
一般刑法犯の認知件数は減少傾向にあったが令和 3 年以降増加傾向に転じ、令和 5 年にはコロナ禍前とほぼ変わらない件数まで増加した。[図 6-1]

また、令和 2 年に国や県の値を下回った人口 10 万人当たりの件数は、令和 5 年には国の値を上回り県と同水準にまで増加している。[図 6-2]

■[図 6-1]久留米市の一般刑法犯認知件数の推移



■[図 6-2]人口 10 万人当たりの一般刑法犯認知件数の比較（久留米市、福岡県、全国）

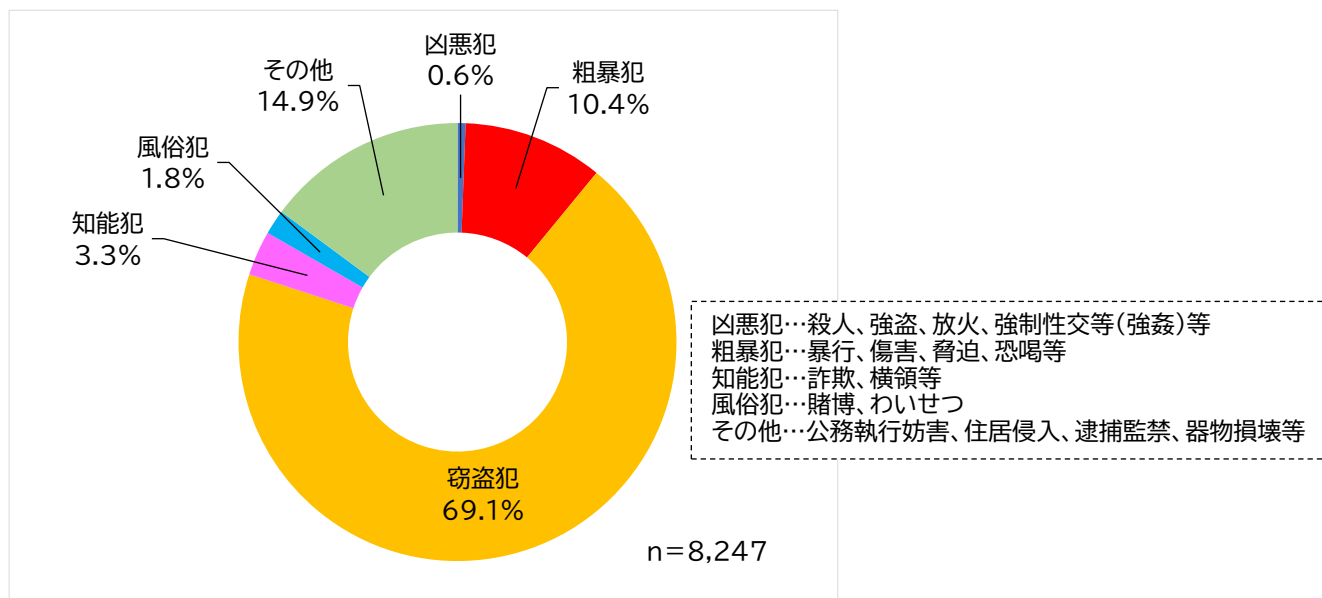


(2) 犯罪種別の件数

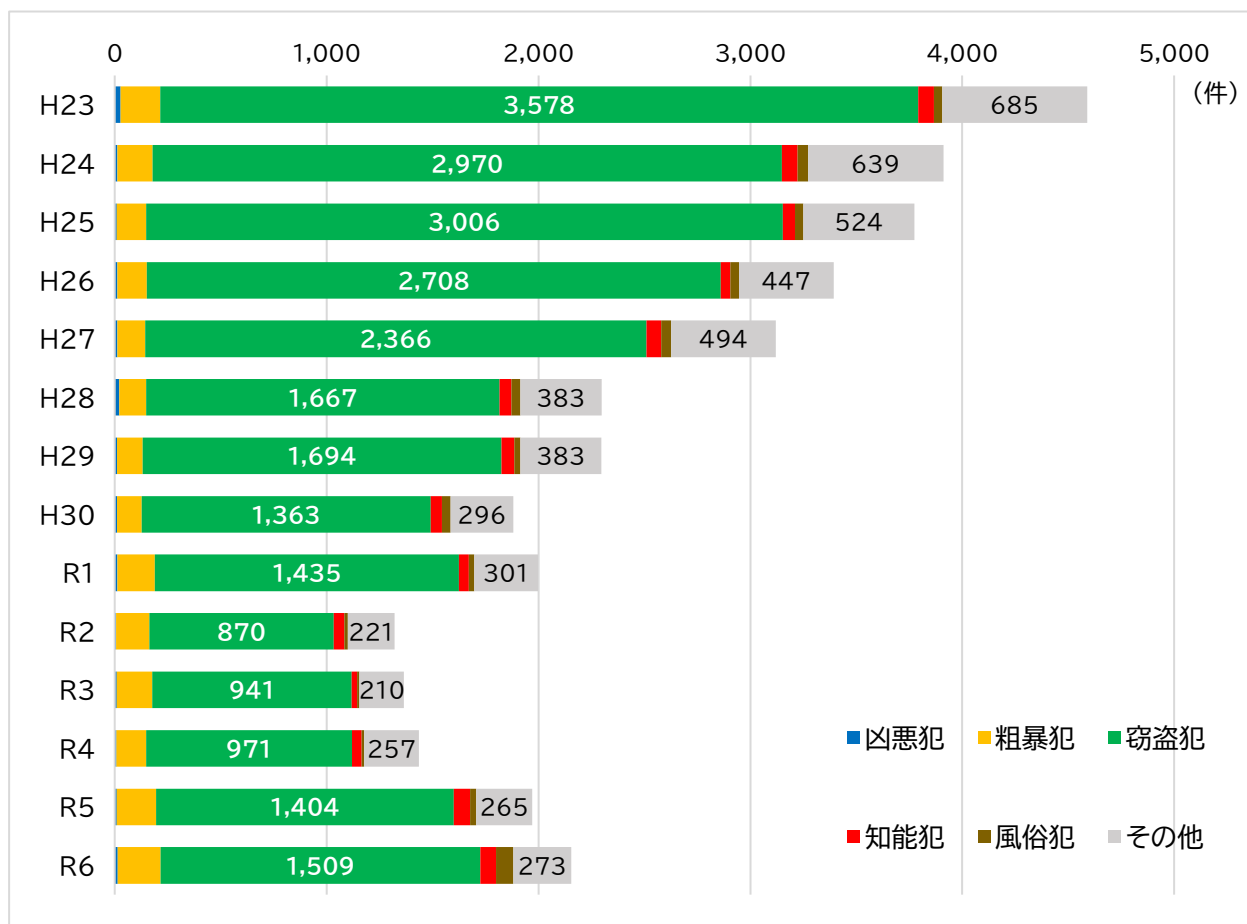
一般刑法犯認知件数の約 7 割が窃盗犯である。[図 6-3]

令和 2 年以降いずれも増加傾向にあるが、特に窃盗犯の件数が大幅に増加している。[図 6-4]

■[図 6-3]久留米市の一般刑法犯認知件数の犯罪種別毎の割合 (R2～R6 年)



■[図 6-4]犯罪種別の久留米市の一般刑法犯認知件数の推移



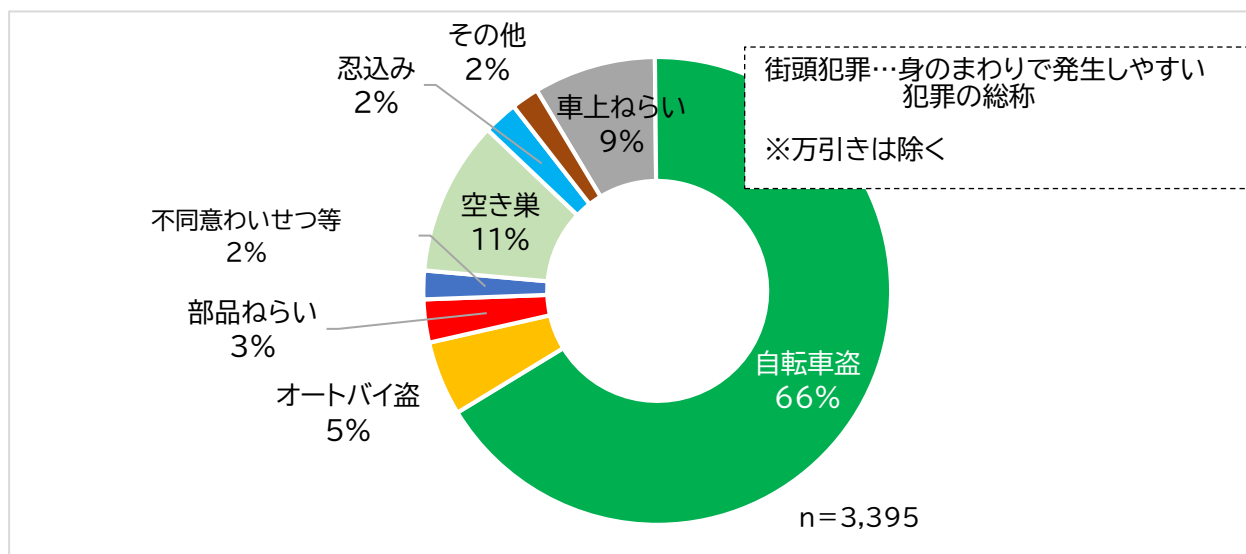
(3) 街頭犯罪の認知件数

街頭犯罪の中では、自転車盗の件数が最も多い。[図 6-5]

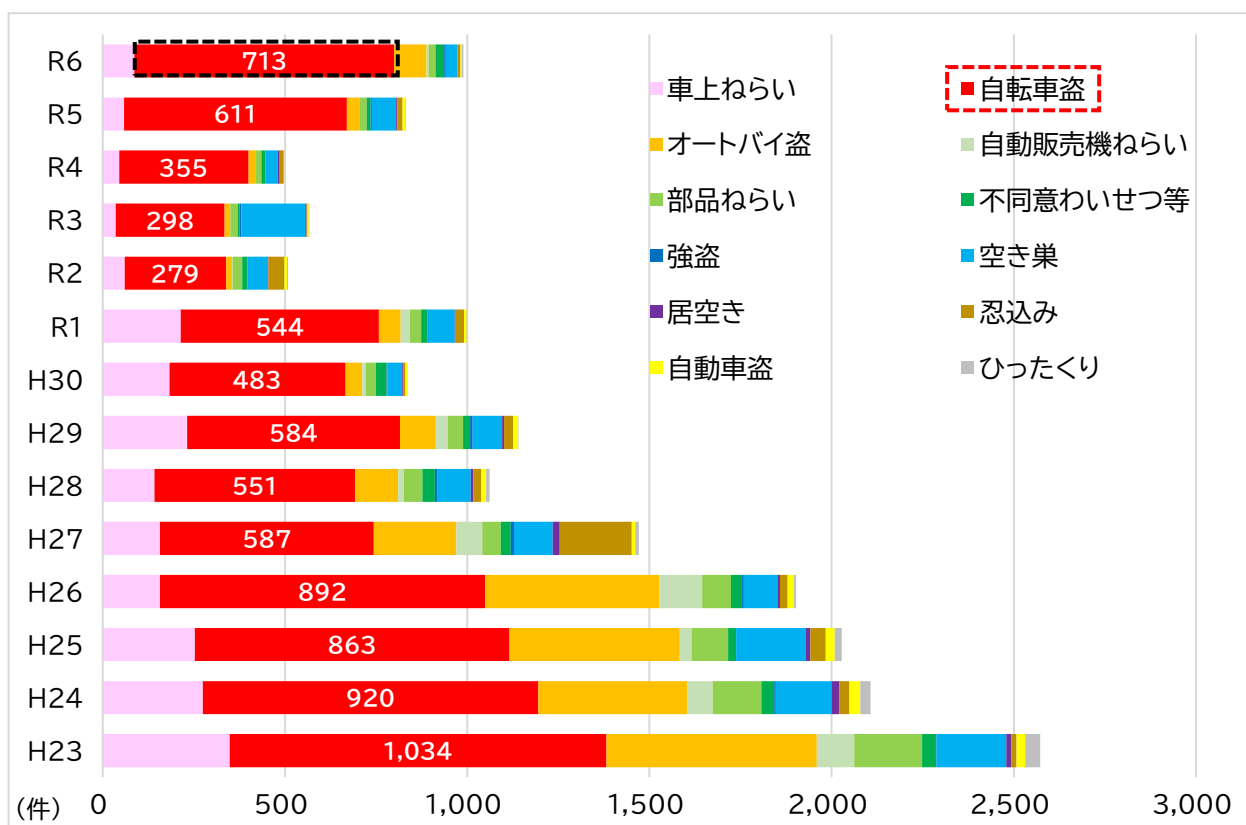
街頭犯罪の件数は令和 2 年まで減少傾向にあったが近年は増加しており、特に自転車盗の件数が大幅に上昇している。[図 6-6]

人口 10 万人当たりの街頭犯罪認知件数は福岡県と同水準だが、令和 4 年から 5 年にかけての増加率は県の値を上回っている。[図 6-7]

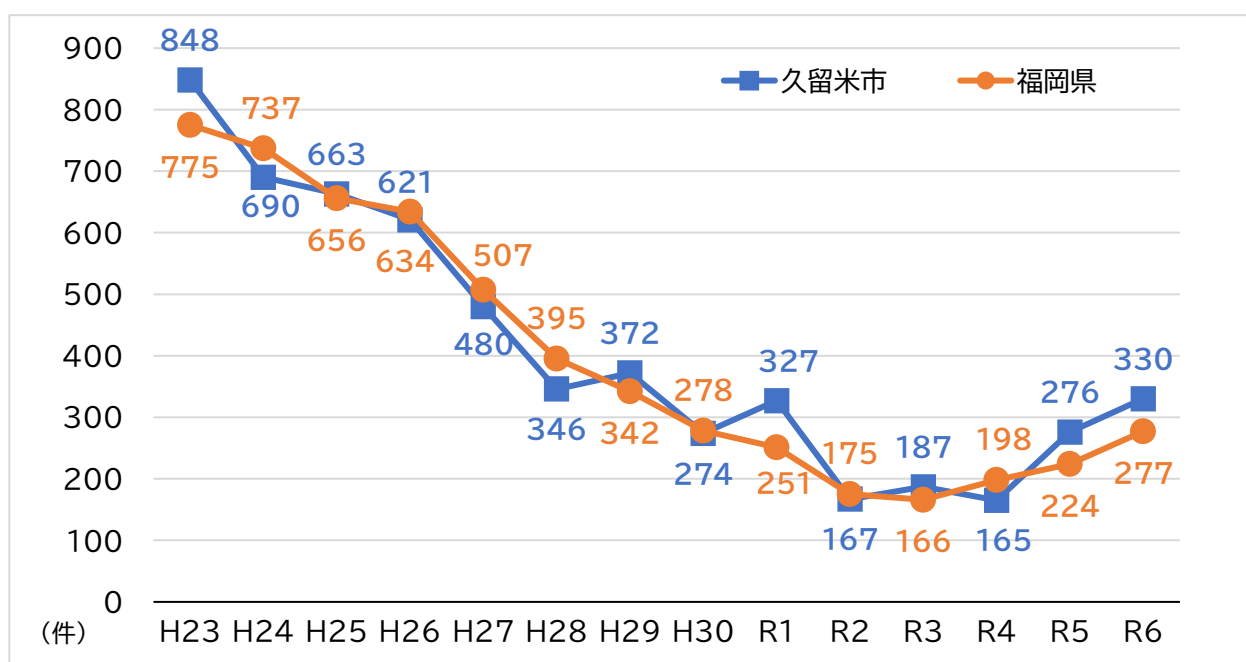
■[図 6-5]久留米市の街頭犯罪認知件数の犯罪種別毎の割合（R2～R6 年）



■[図 6-6]久留米市の街頭犯罪認知件数の推移



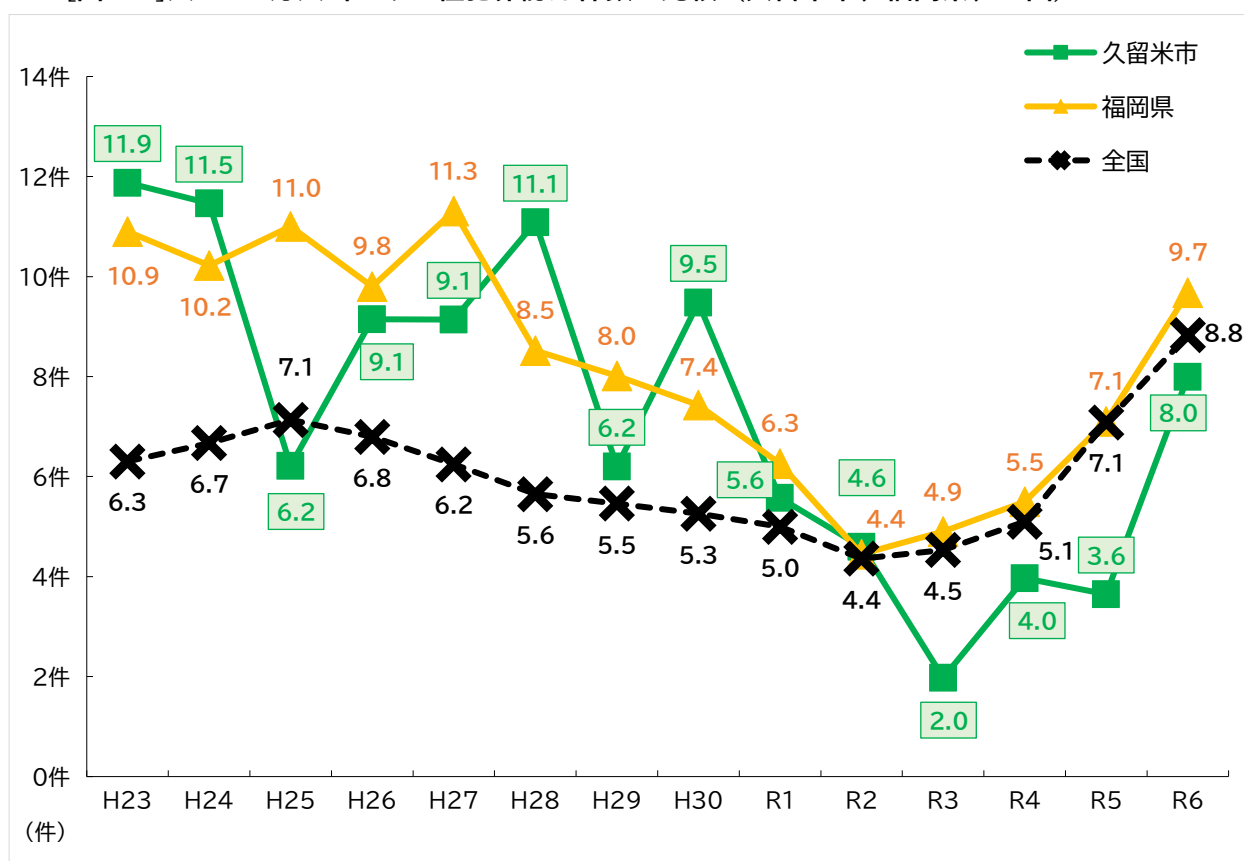
■[図 6-7]人口 10 万人当たりの街頭犯罪認知件数の比較（久留米市、福岡県）



（４）性犯罪の認知件数 ※不同意性交等と不同意わいせつの認知件数の合計

人口 10 万人あたりの性犯罪の認知件数は、全国と福岡県の値を下回っているが、令和 3 年以降増加傾向にある。[図 6-8]

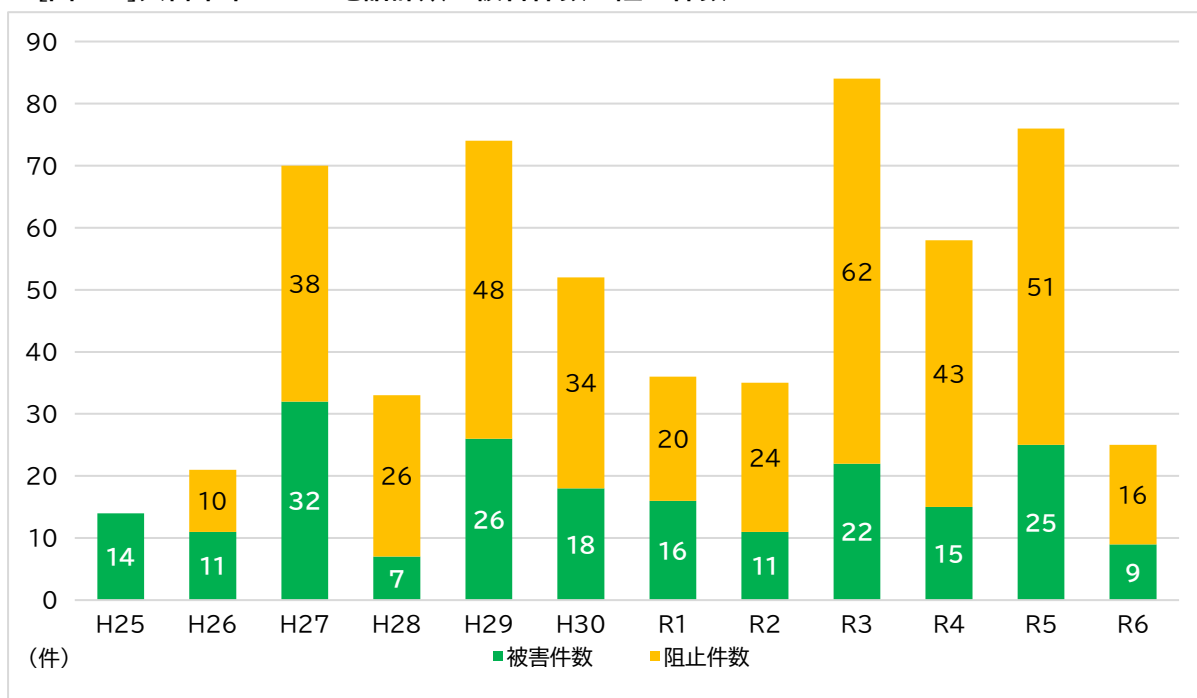
■[図 6-8]人口 10 万人当たりの性犯罪認知件数の比較（久留米市、福岡県、全国）



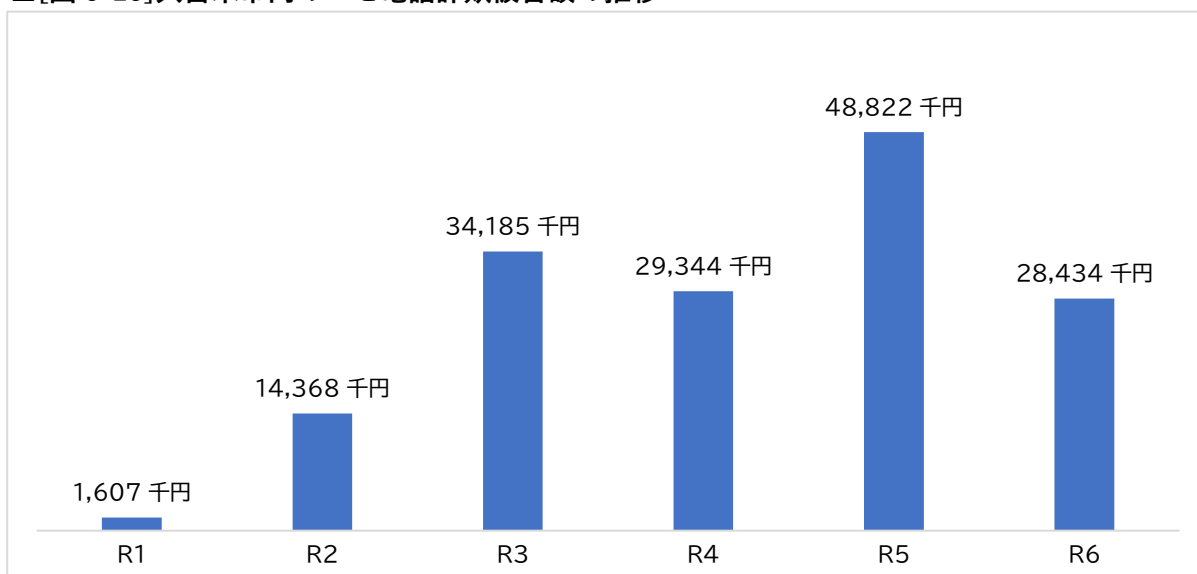
(5) ニセ電話詐欺の被害件数。

令和3年以降、ニセ電話詐欺の被害件数は増加傾向にあったが、令和6年に減少している。
 しかしこれは、令和5年まではSNSを使用した詐欺もニセ電話詐欺として集計していたものを、
 令和6年から別々に集計を行うようになったため、必然的に数が減少している。

■[図 6-9]久留米市のニセ電話詐欺の被害件数と阻止件数



■[図 6-10]久留米市内のニセ電話詐欺被害額の推移



■[表 6-11]福岡県と久留米市の詐欺被害発生状況の内訳（R6）

久留米市

		R1	R2	R3	R4	R5	R6
二セ電話詐欺	認知件数(件)	16	11	22	15	25	9
	被害額(千円)	1,607	14,368	34,185	29,344	48,822	28,434
SNS 型投資・ロマンス詐欺	認知件数(件)	—	—	—	—	—	20
	被害額(千円)	—	—	—	—	—	214,795

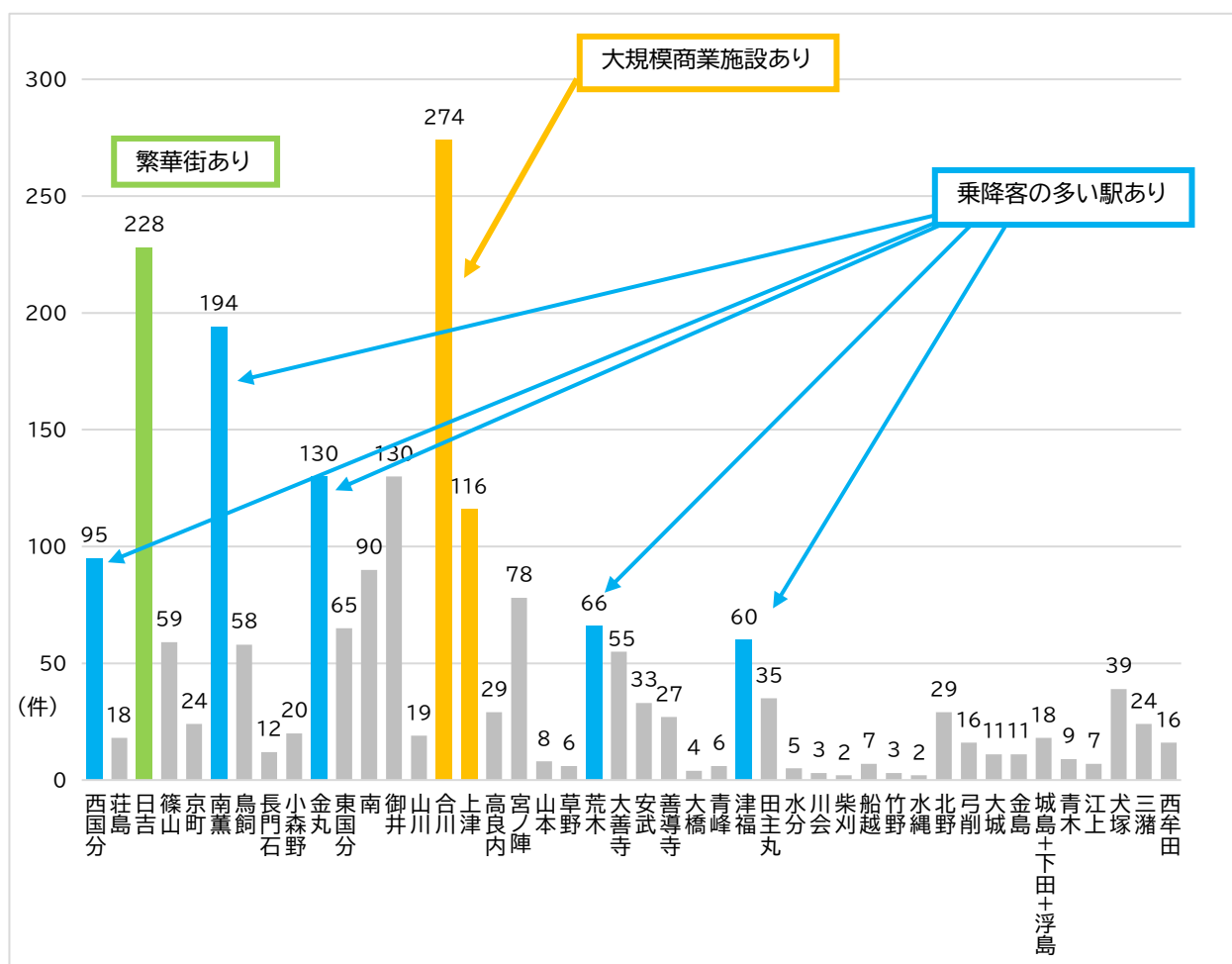
表 9:福岡県

		R1	R2	R3	R4	R5	R6
二セ電話詐欺	認知件数(件)	279	201	329	368	576	849
	被害額(千円)	677,540	388,540	764,600	922,830	1,331,050	2,331,517
SNS 型投資・ロマンス詐欺	認知件数(件)	—	—	—	—	—	664
	被害額(千円)	—	—	—	—	—	6,941,467

(6) 小学校区別の犯罪認知件数

繁華街、大規模商業施設、乗降客の多い駅が所在する校区の件数が多い

■[図 6-12]久留米市の小学校区毎の犯罪認知件数（R5）



■[図 6-13]小学校区別の犯罪認知件数の比較（H23 と R6）

校区名	H23	R6	H23-R6年対比	
			差引	増減率%
西国分	248	95	▲ 153	▲ 62
荘島	65	18	▲ 47	▲ 72
日吉	323	228	▲ 95	▲ 29
篠山	98	59	▲ 39	▲ 40
京町	67	24	▲ 43	▲ 64
南薫	262	194	▲ 68	▲ 26
鳥飼	145	58	▲ 87	▲ 60
長門石	87	12	▲ 75	▲ 86
小森野	54	20	▲ 34	▲ 63
金丸	324	130	▲ 194	▲ 60
東国分	185	65	▲ 120	▲ 65
南	212	90	▲ 122	▲ 58
御井	240	130	▲ 110	▲ 46
山川	78	19	▲ 59	▲ 76
合川	506	274	▲ 232	▲ 46
上津	312	116	▲ 196	▲ 63
高良内	83	29	▲ 54	▲ 65
宮ノ陣	100	78	▲ 22	▲ 22
山本	25	8	▲ 17	▲ 68
草野	13	6	▲ 7	▲ 54
荒木	193	66	▲ 127	▲ 66
大善寺	190	55	▲ 135	▲ 71
安武	64	33	▲ 31	▲ 48
善導寺	82	27	▲ 55	▲ 67
大橋	15	4	▲ 11	▲ 73
青峰	38	6	▲ 32	▲ 84
津福	184	60	▲ 124	▲ 67
田主丸	44	35	▲ 9	▲ 20
水分	14	5	▲ 9	▲ 64
川会	13	3	▲ 10	▲ 77
柴刈	8	2	▲ 6	▲ 75
船越	13	7	▲ 6	▲ 46
竹野	10	3	▲ 7	▲ 70
水縄	9	2	▲ 7	▲ 78
北野	41	29	▲ 12	▲ 29
弓削	24	16	▲ 8	▲ 33
大城	16	11	▲ 5	▲ 31
金島	13	11	▲ 2	▲ 15
城島+下田+浮島	52	18	▲ 34	▲ 65
青木	15	9	▲ 6	▲ 40
江上	22	7	▲ 15	▲ 68
犬塚	38	39	1	3
三瀨	53	24	▲ 29	▲ 55
西牟田	12	16	4	33
計	4,590	2,141	▲ 2,449	▲ 53

※H23 年と R5 年の列の黄色のセルは、上位 5 校区

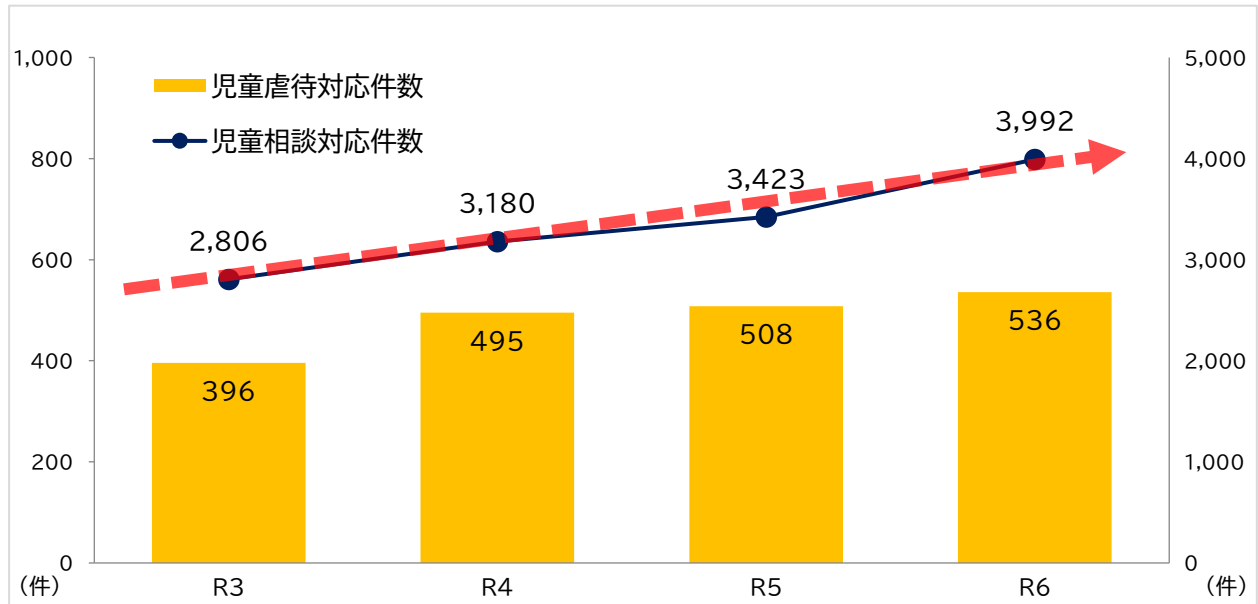
※増減率の列の黄色のセルは減少率が低い 3 校区、赤色のセルは増減率が高い 3 校区

7 児童相談に関する状況（家庭子ども相談課集計）

（１）児童相談件数の推移

児童相談、児童虐待対応件数ともに増加傾向にある。

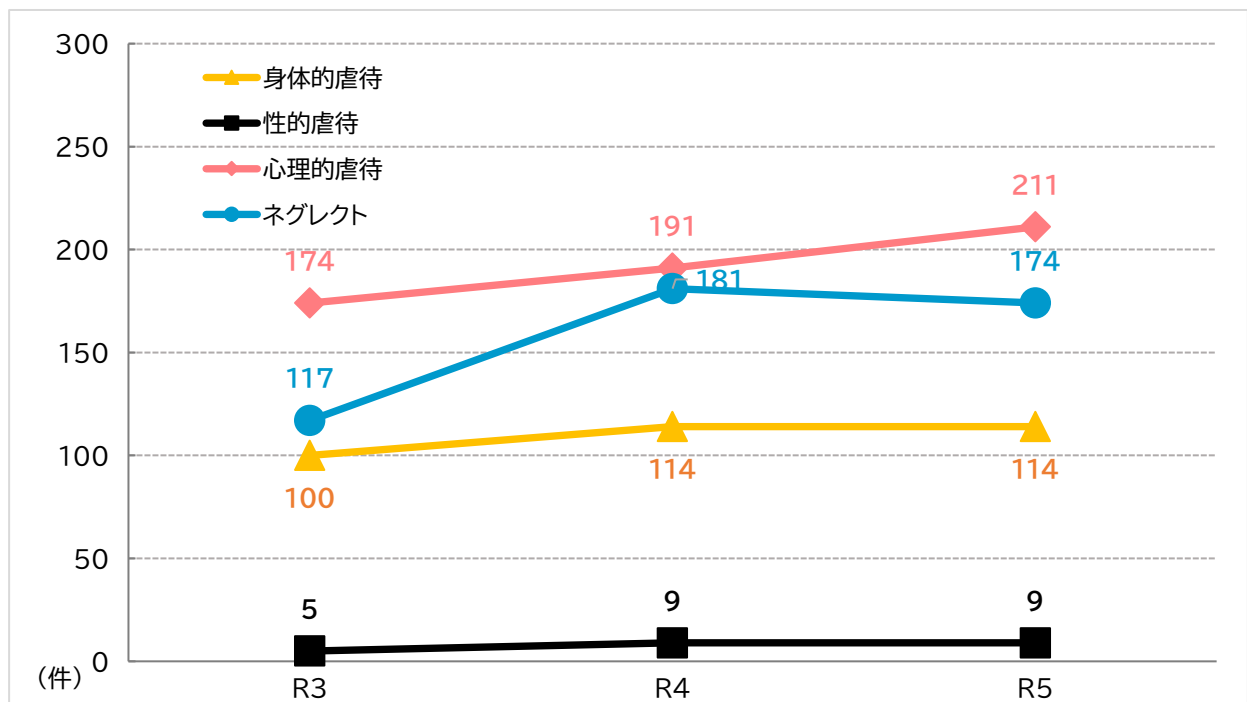
■[図 7-1]児童虐待対応件数及び児童相談対応件数の推移



（２）虐待の種類別件数

児童虐待対応件数は若干増加している。

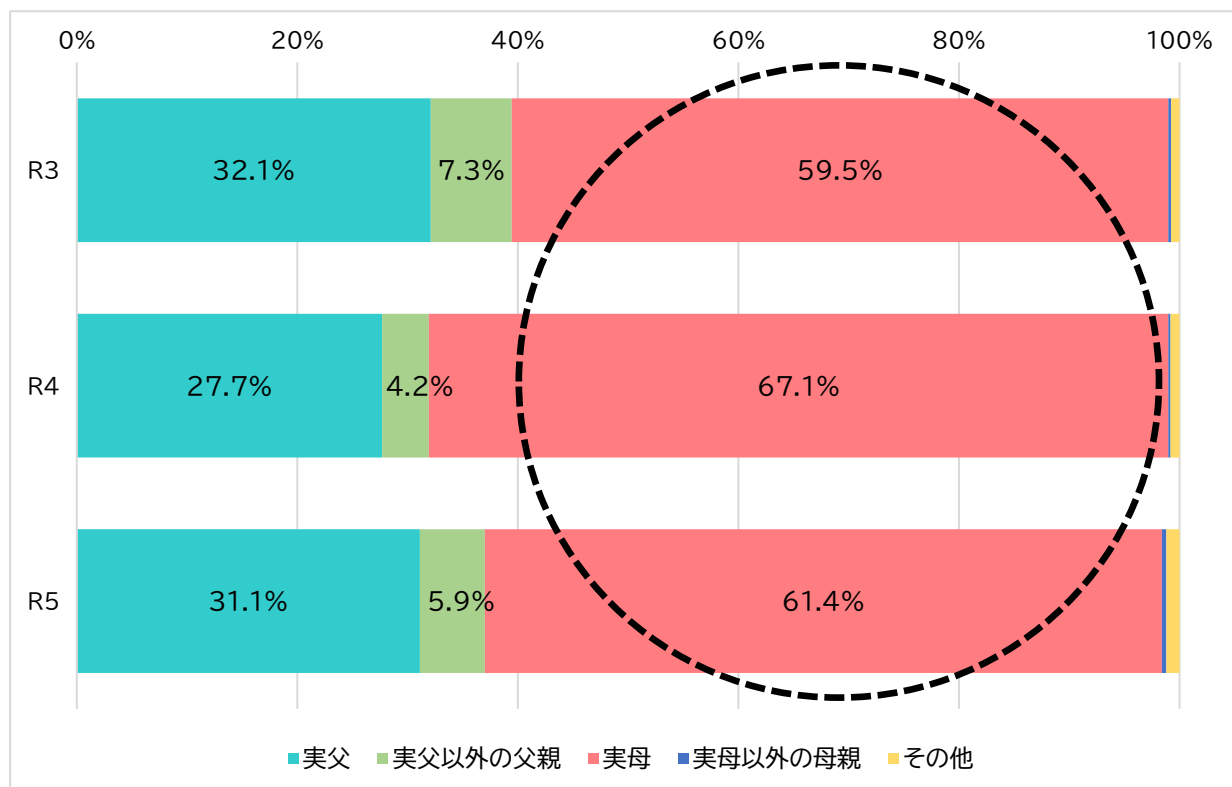
■[図 7-2]虐待の種類別の児童虐待対応件数の推移



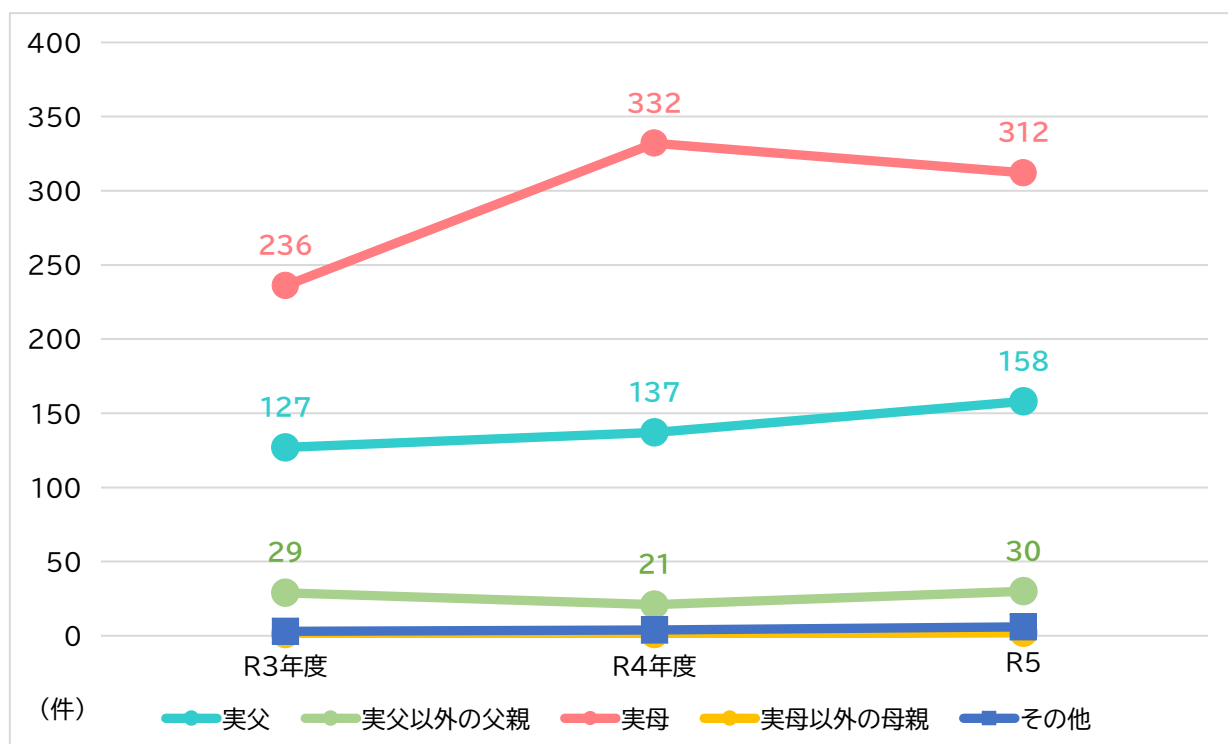
(3) 虐待者別割合

虐待者の約6割が実母によるものである。

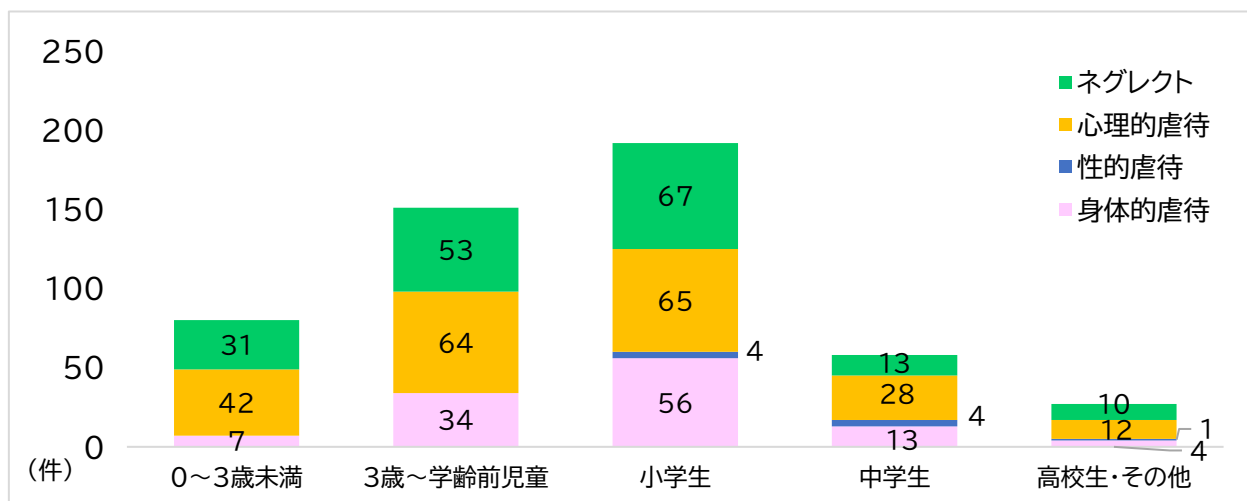
■[図 7-3]児童虐待対応件数のうち、虐待者別の割合



■[図 7-4]虐待者別の虐待対応件数の推移

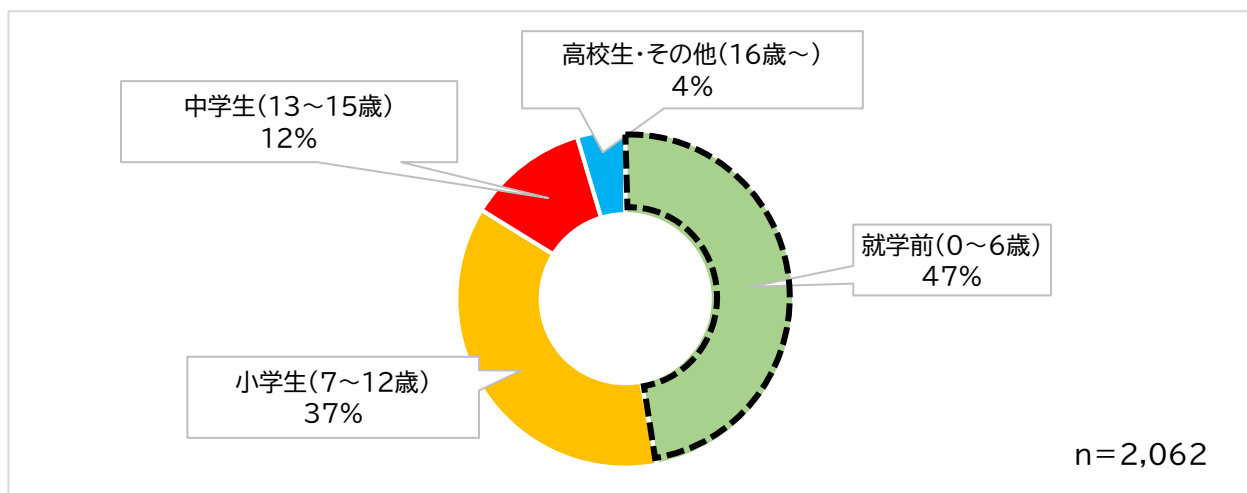


(4) [図 7-5]児童虐待の種類別・年齢別対応件数 (R5)



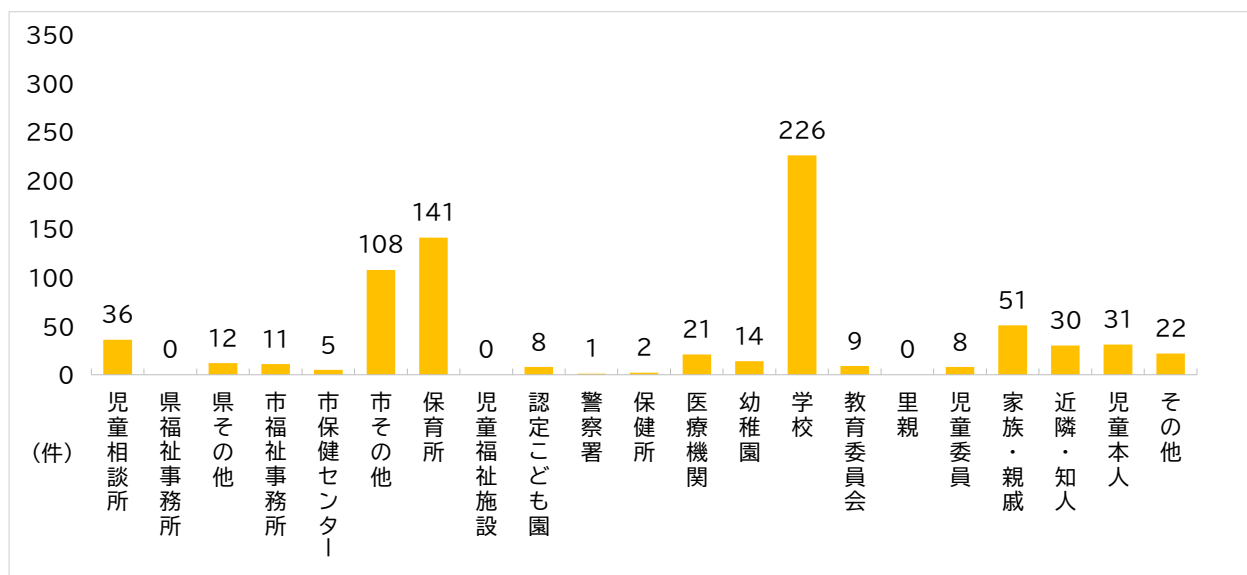
(5) [図 7-6]児童虐待対応件数の年齢別割合 (H31-R5 の5年間)

就学前の乳幼児に対する虐待が約半数を占めている。

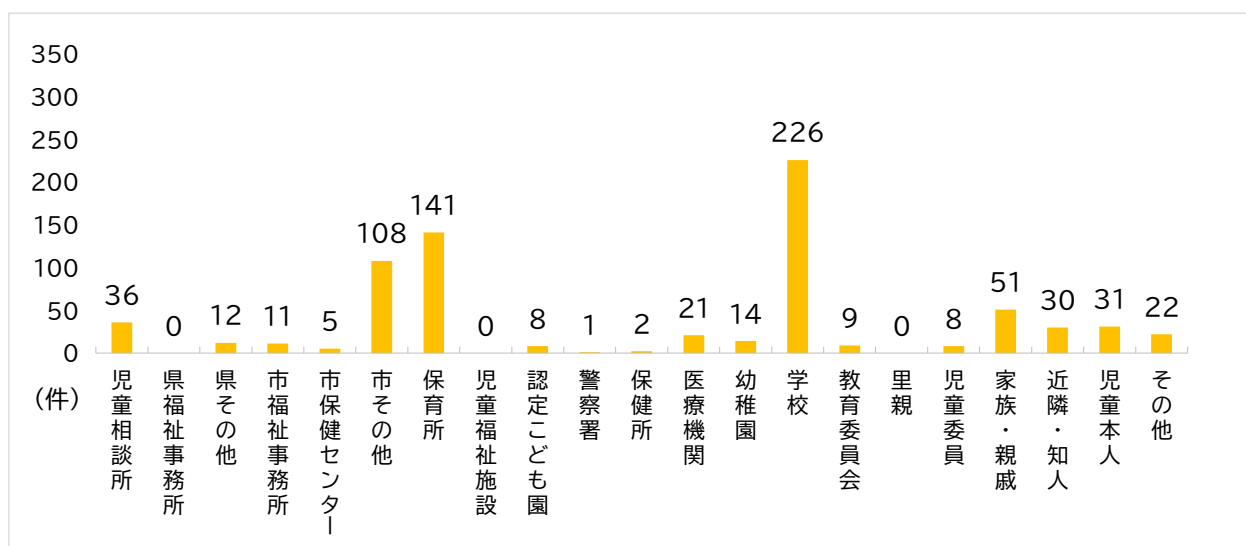


(6) 経路別の虐待相談受付件数

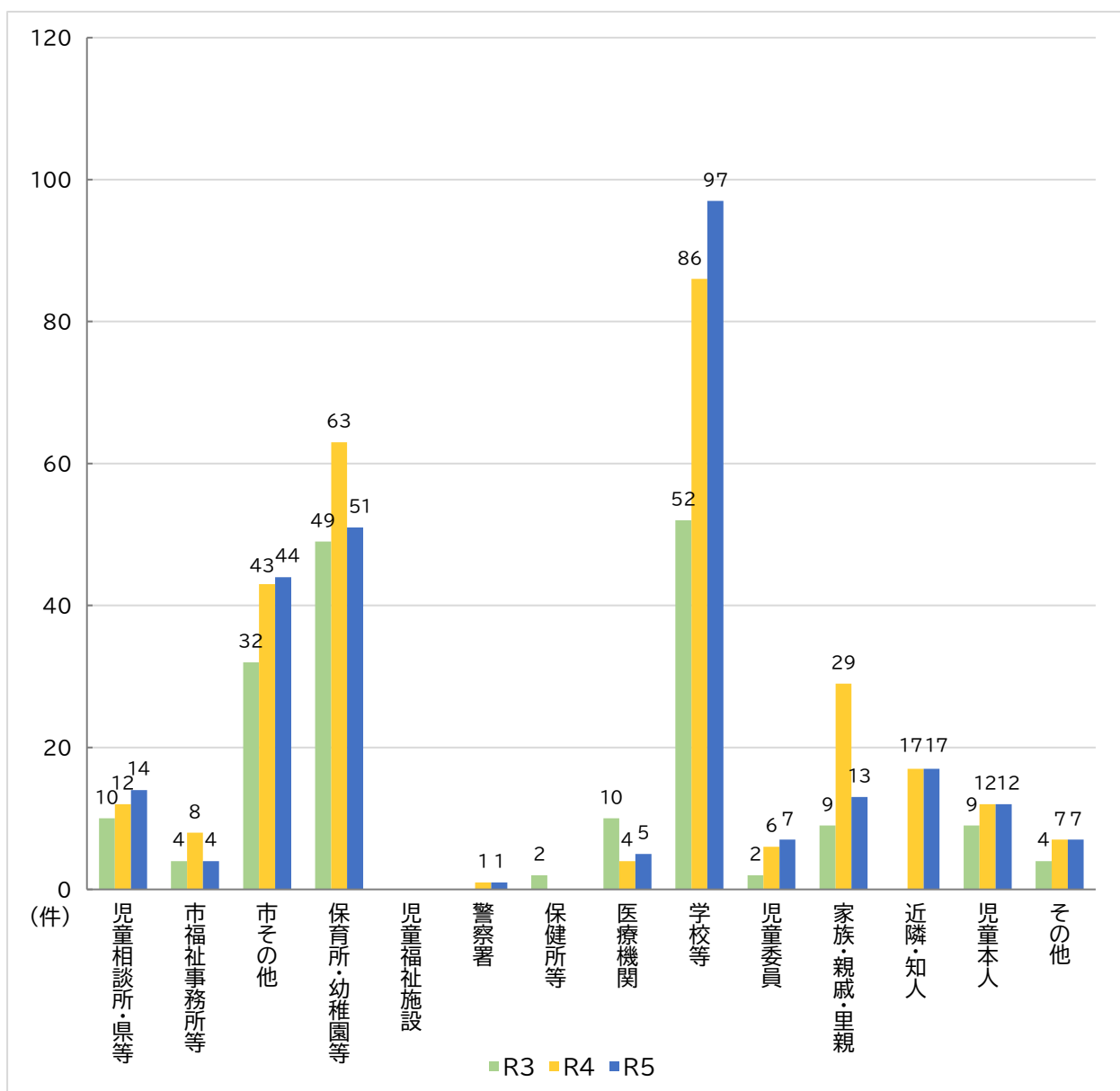
■[図 7-7]経路別の児童虐待相談受付件数 (R3~R5 からの3年間)



■[図 7-8]児童本人からの虐待相談受付件数の推移



■[図 7-9]経路別の児童虐待相談受付件数の推移（R3、R4、R5）



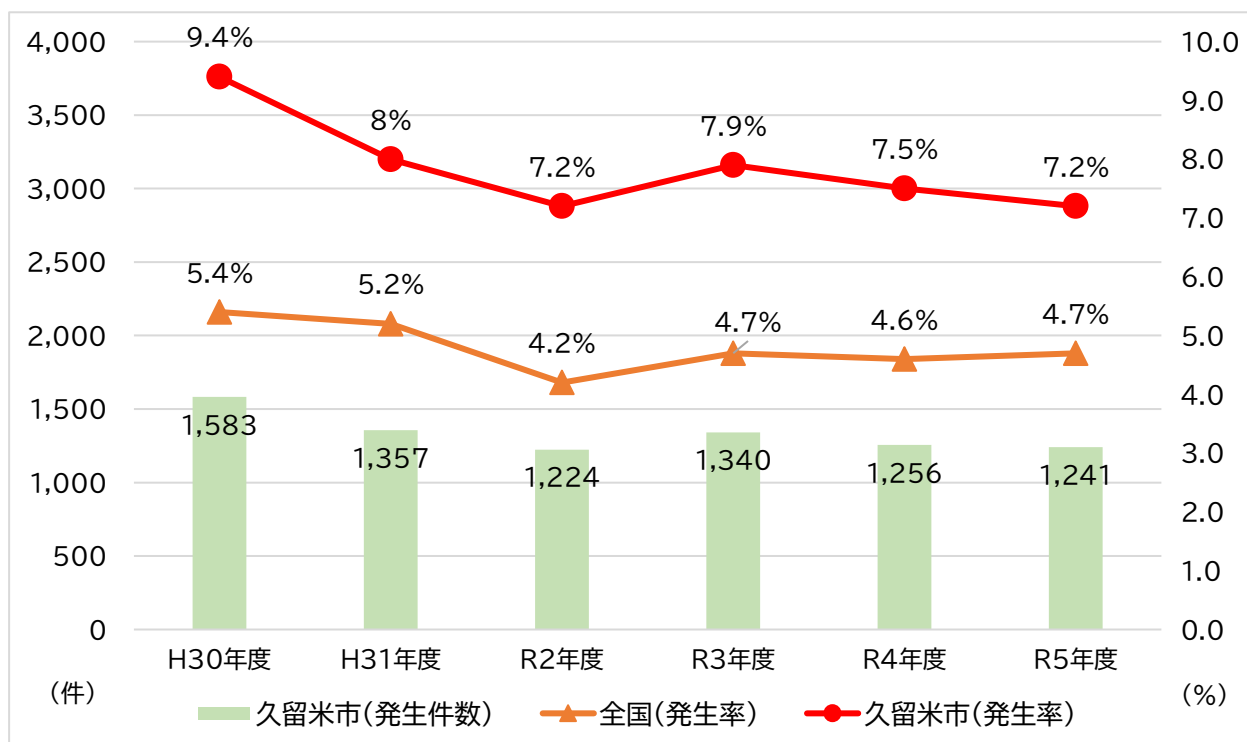
8 児童のけが等に関する状況

重点分野:子どもの安全

(日本スポーツ振興センター災害給付データ、久留米市教育委員会等統計等)

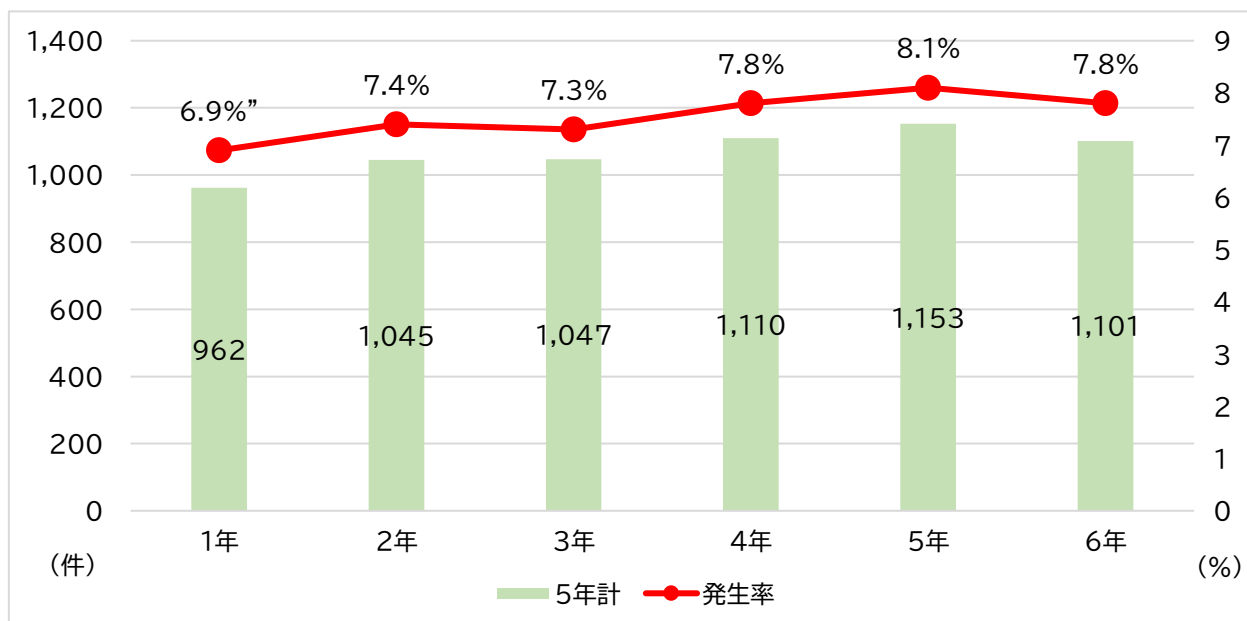
(1) [図 8-1]小学校におけるけがの発生件数と発生率（けがの発生件数／児童数）

市内の小学校での児童のけがの発生件数、及び発生率は減少傾向にあるが、けがの発生率は全国
の値を上回っている。



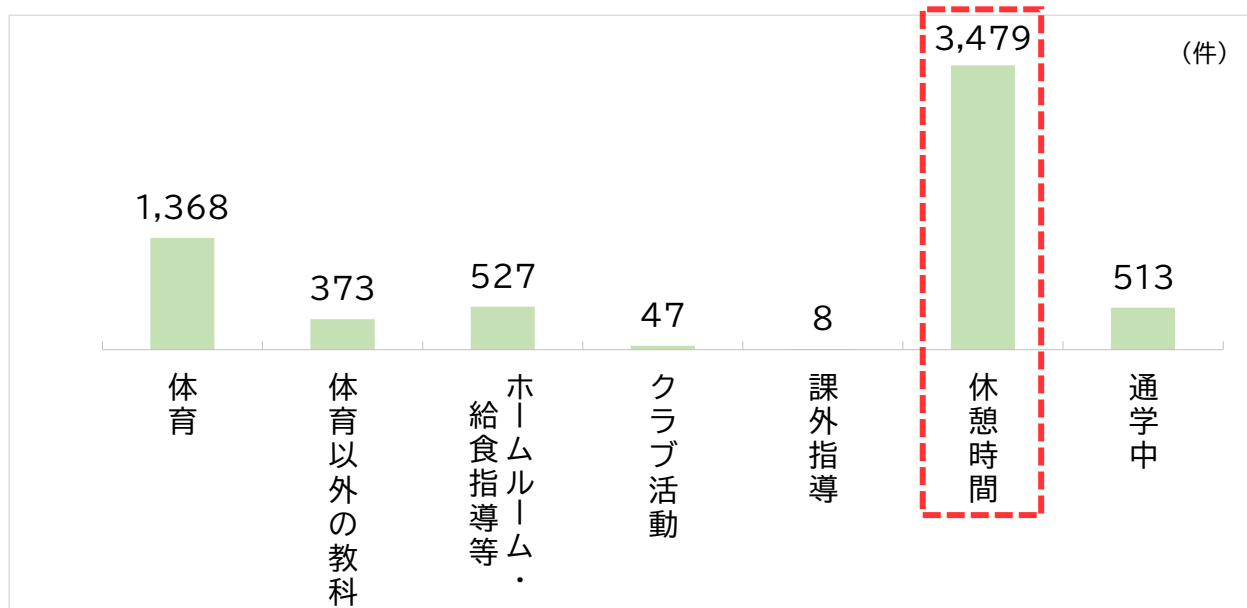
(2) [図 8-2]小学校における学年別のけがの発生件数と発生率（R1～R5 累計）

学年が上がると、けがの発生件数、及び発生率は増加する。



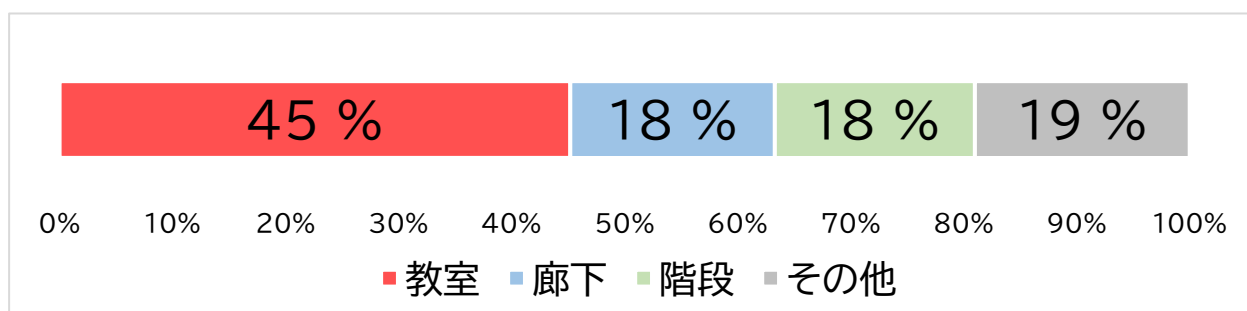
(3) [図 8-3]小学校におけるけが発生時の状況 (R1～R5 年合計)

体育の授業を除くと、けがのほとんどは休憩時間に発生している。

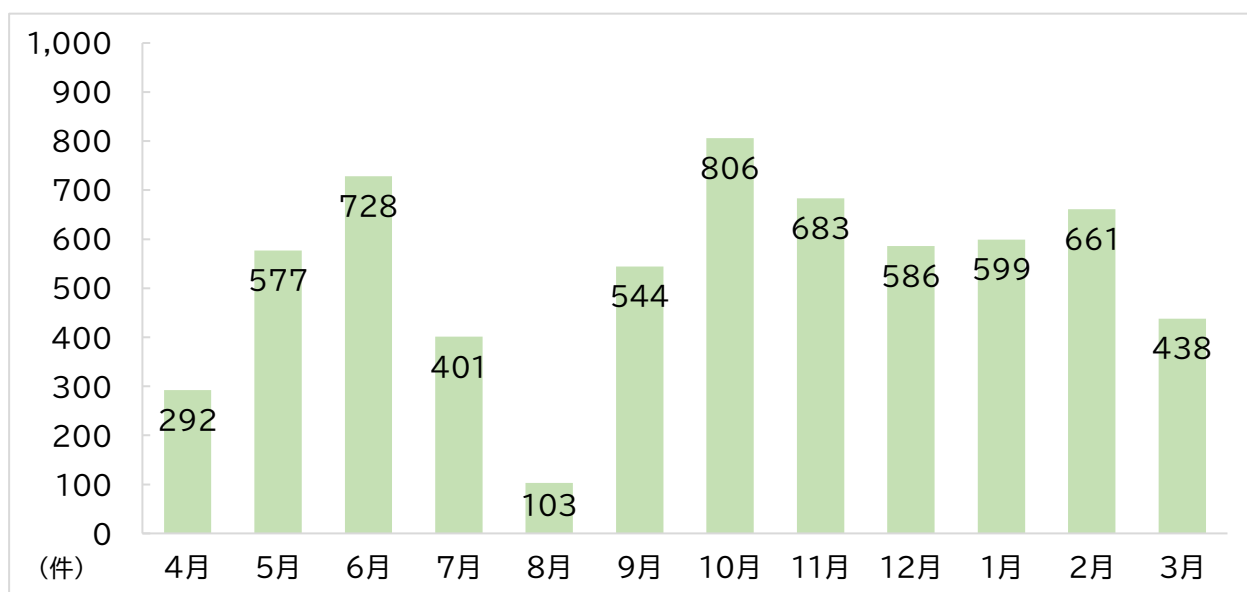


(4) [図 8-4]校舎内における小学校の休憩時間中のけがの発生場所の割合 (R1～R5 合計)

休憩時間のけがの多くは、教室で発生している。



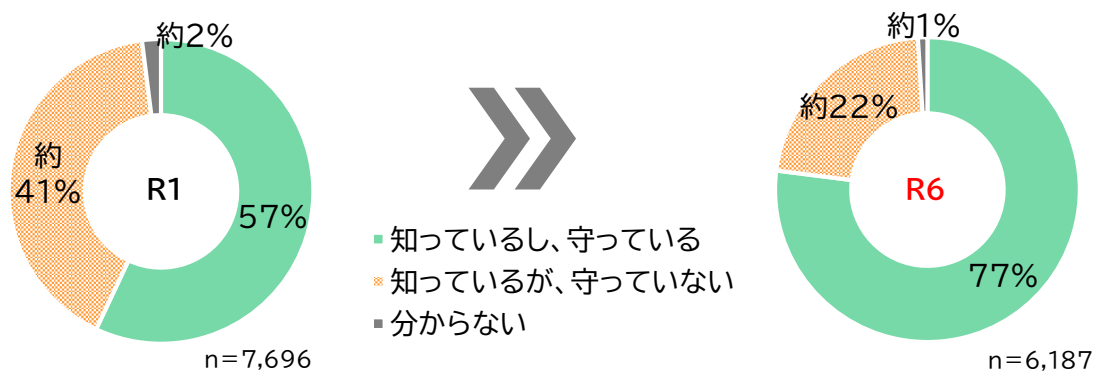
(5) [図 8-5]小学校における月別のけが発生件数 (R1～R5 合計)



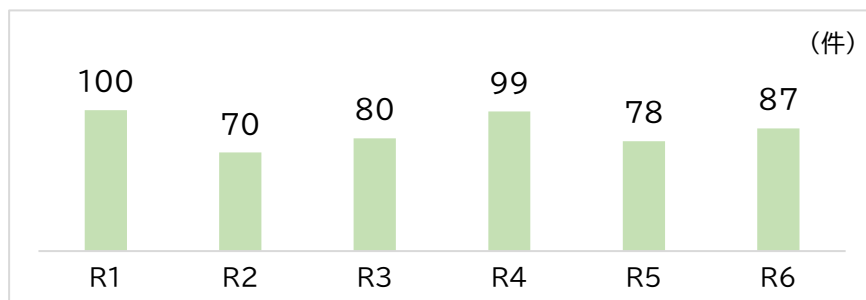
(6) 児童の意識（あんぜんアンケート）

■[図 8-6]校舎内で安全に過ごすためのルールを守っているかとの質問への回答

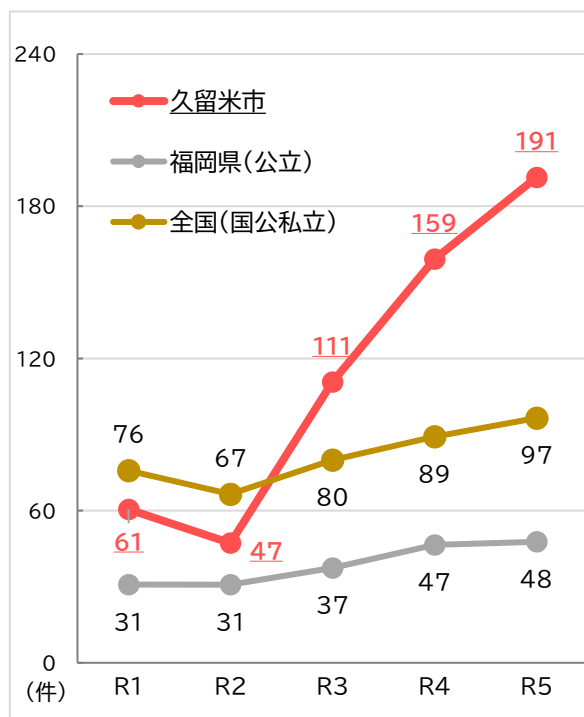
令和元年から令和6年にかけて、「知っているし、守っている」と答えた割合は増加している。
しかし、約5人に1人は「知っているが、守っていない」と答えている。



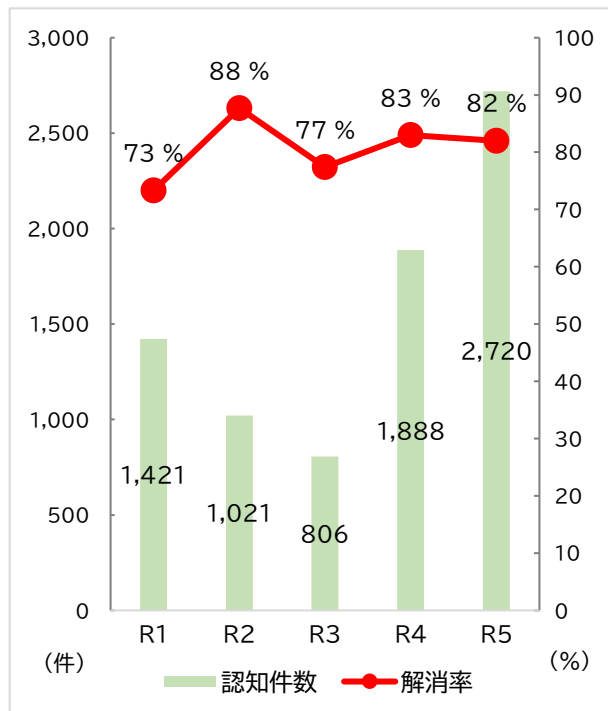
(7) [図 8-8]不審者情報の報告件数の推移（久留米市学校教育課統計）



(8) [図 8-9]児童 1,000 人あたりの小学校のいじめの認知件数



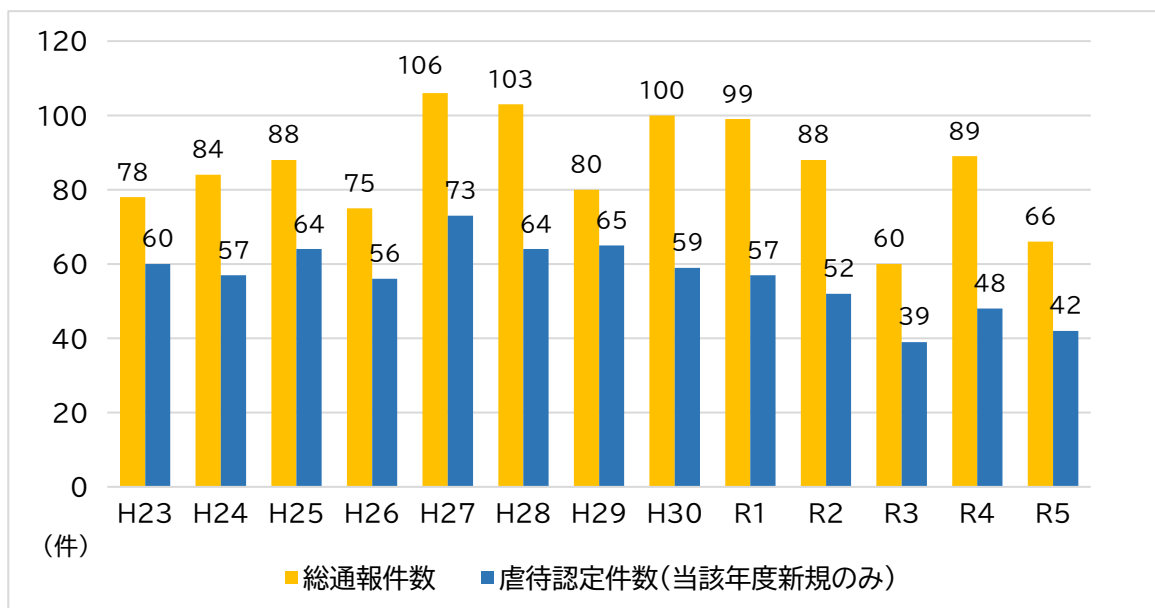
(9) [図 8-10]久留米市の小学校におけるいじめの認知件数と解消率



9 高齢者虐待に関する状況（長寿支援課集計）

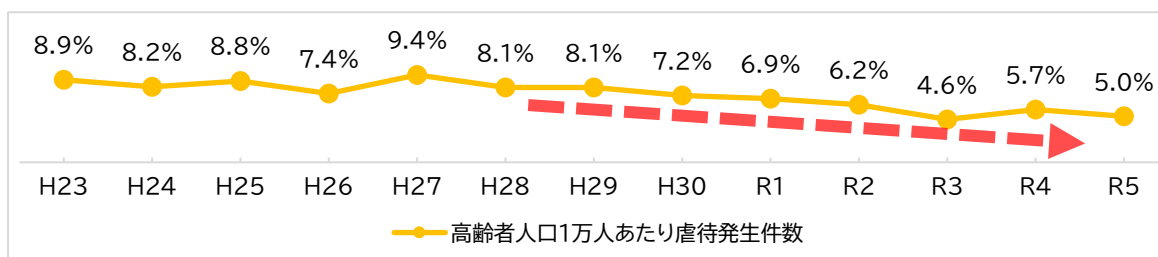
重点分野:高齢者の安全

（１）[図 9-1]高齢者虐待に関する相談件数と認定件数



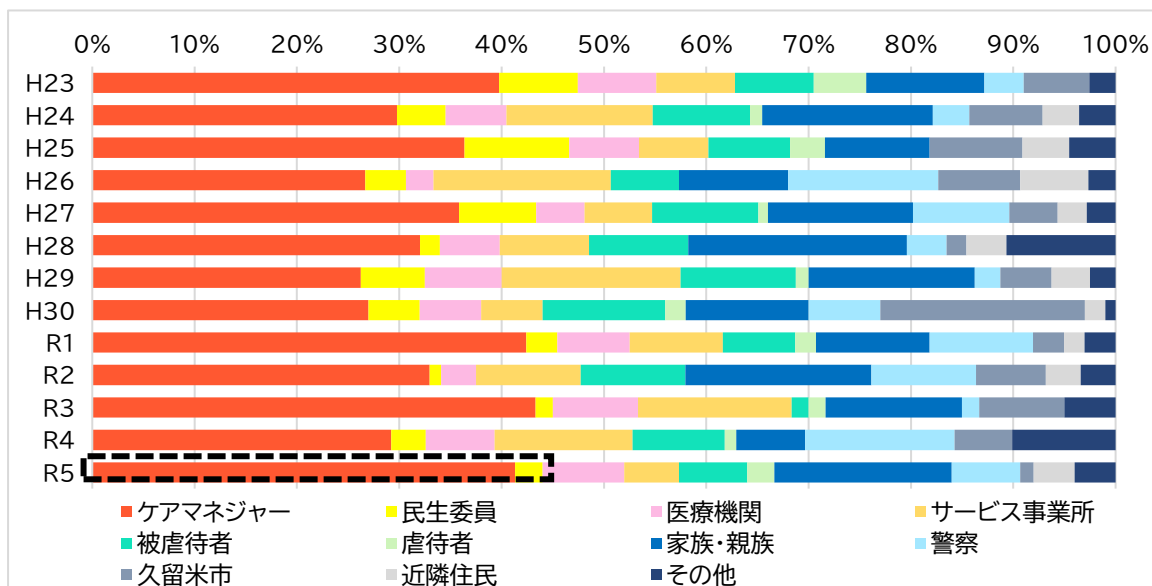
■[図 9-2]高齢者人口 1 万あたりの虐待発生率の推移

長期的には減少傾向にある。



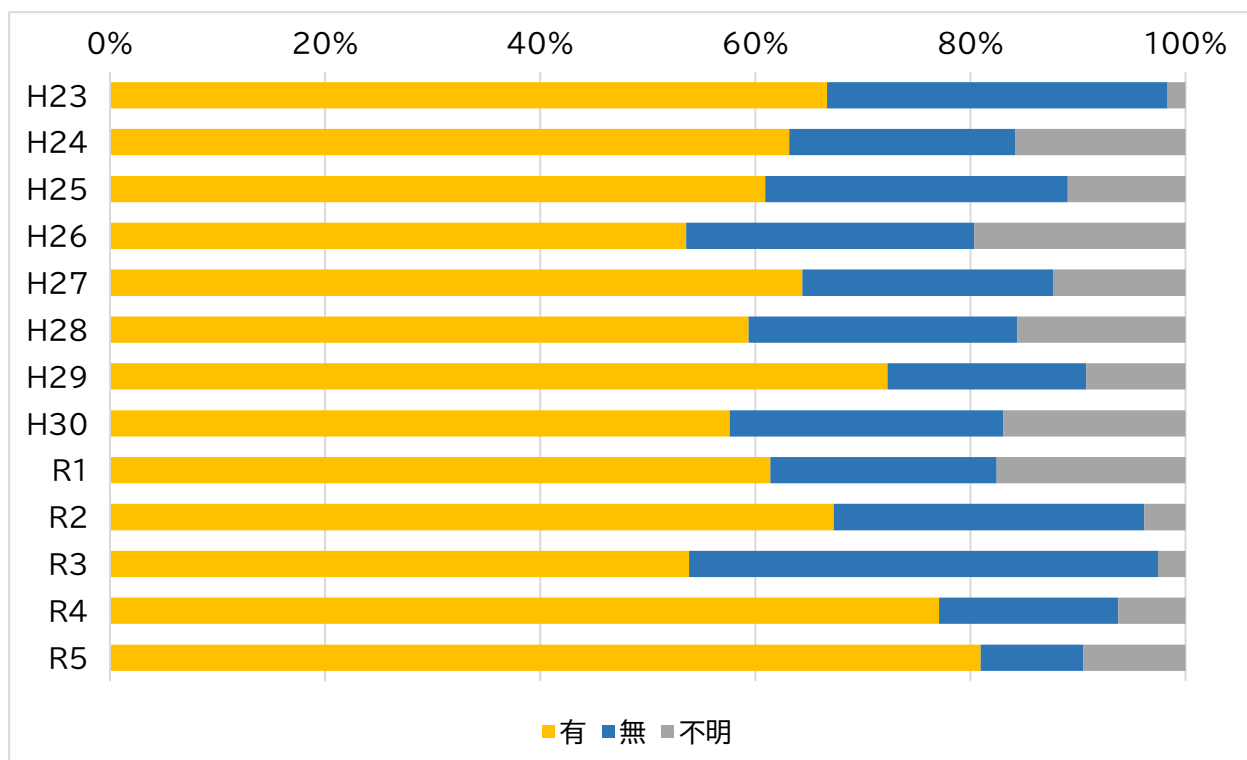
（２）[図 9-3]経路別の相談・通報件数の割合

相談・通報の約 4 割が、ケアマネジャーや民生委員など地域の関係者からの通報である。



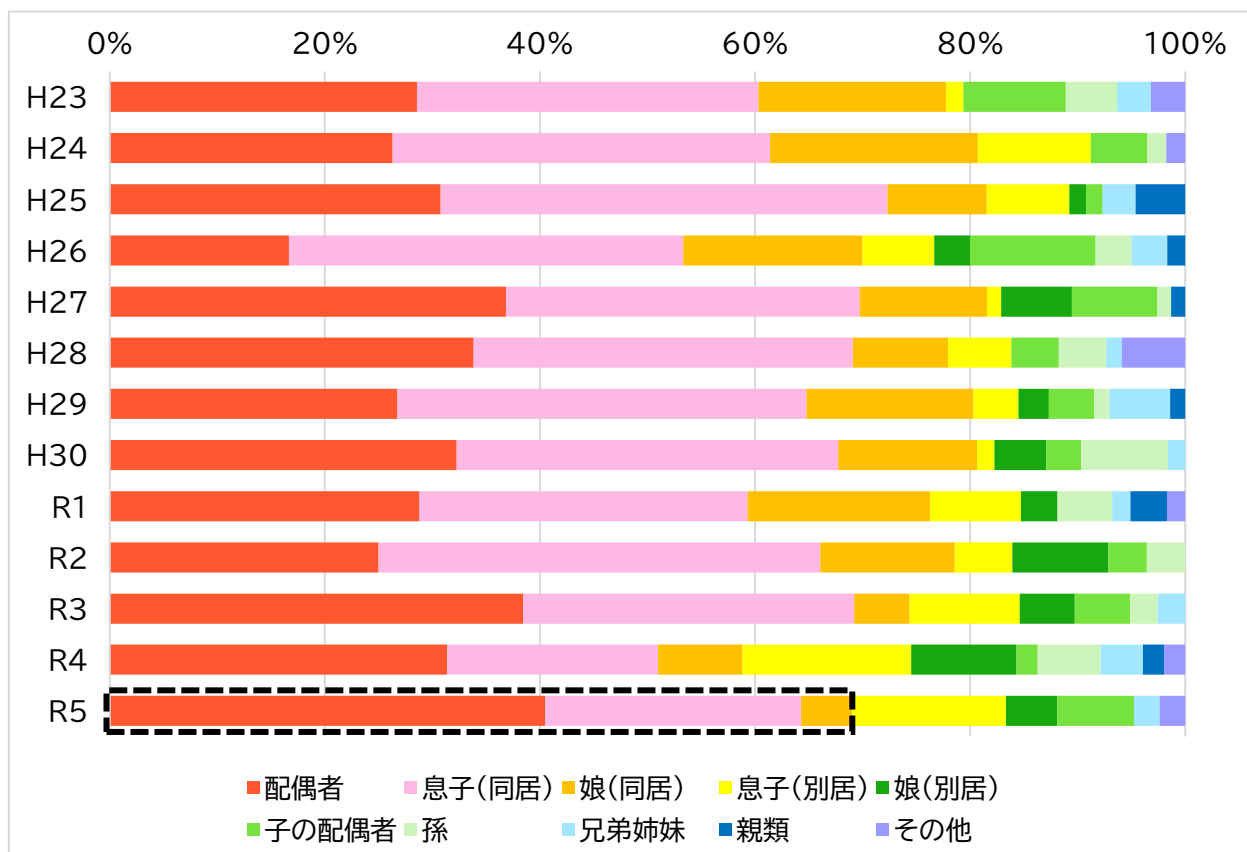
(3) [図 9-4]被虐待者の認知症の割合

被虐待者の 6～8 割に認知症の症状がある。



(4) [図 9-5]虐待者の割合

虐待事例の多くが同居親族によるものである。

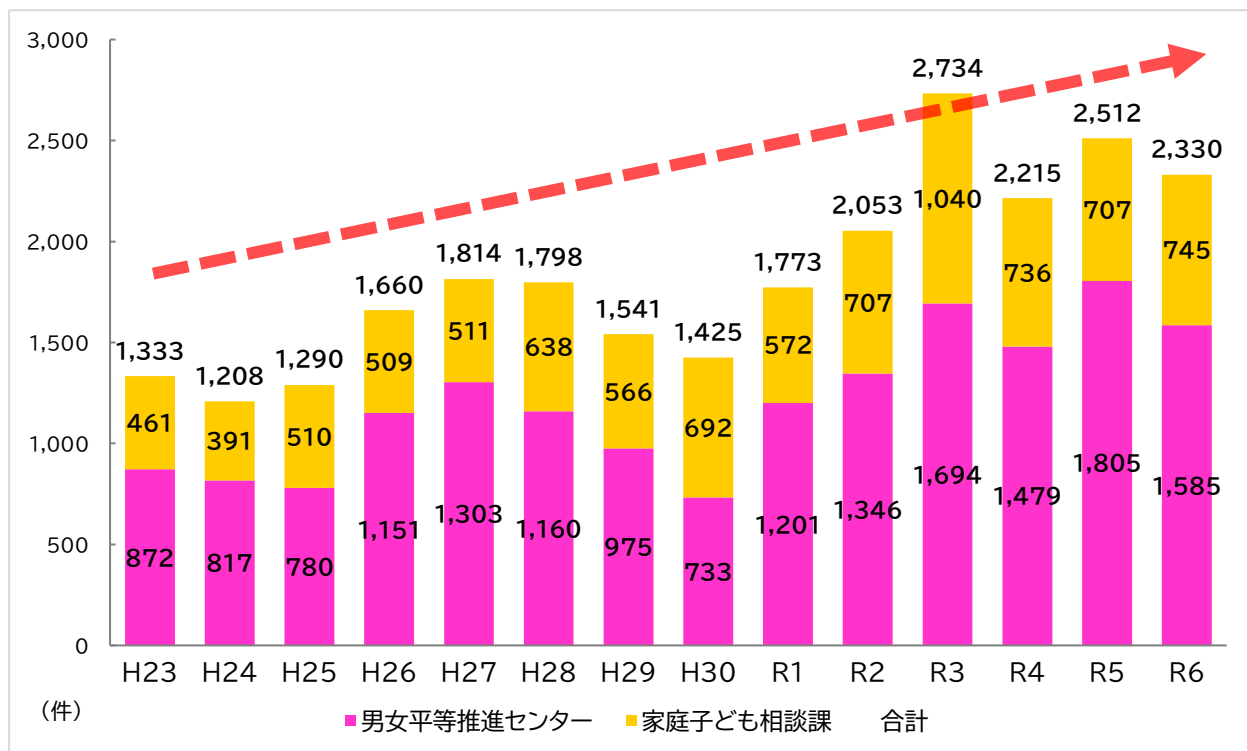


10 DVに関する状況

重点分野:犯罪・暴力の予防

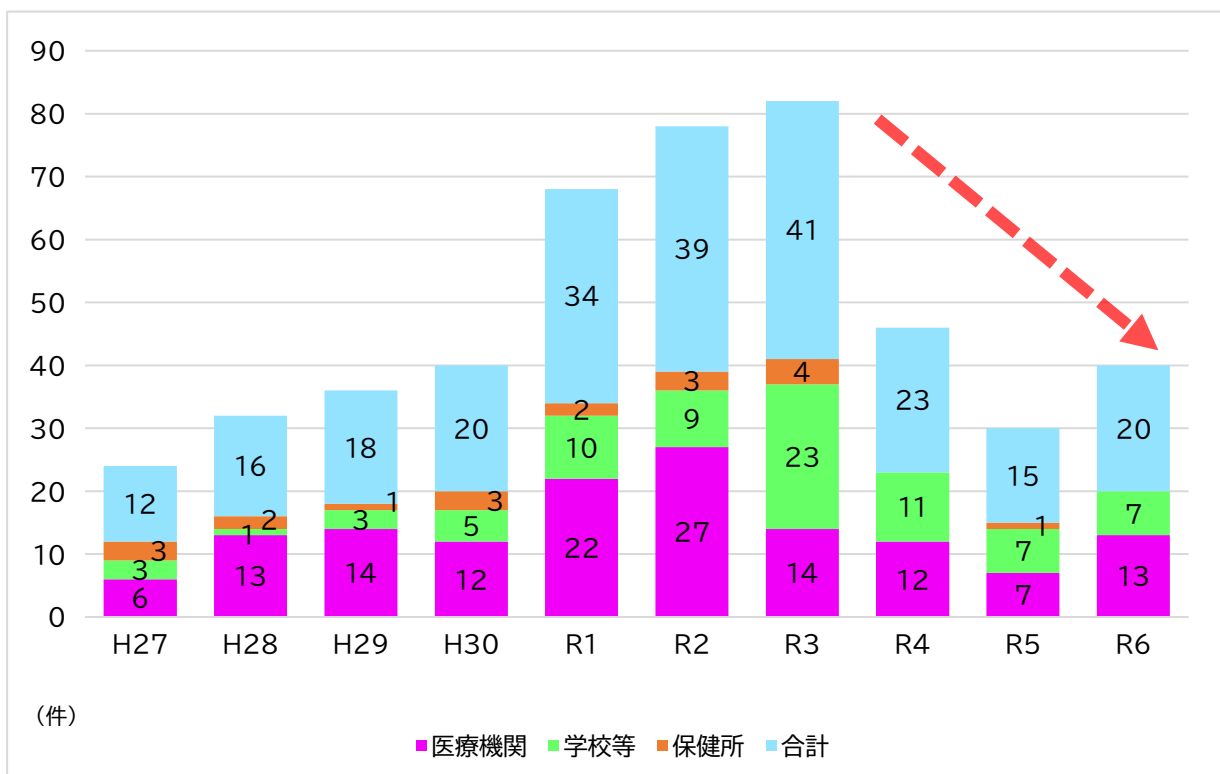
(1) [図 10-1]DV の相談件数（男女平等推進センター、家庭子ども相談課集計）

DV の相談件数は長期的には、増加傾向にある。



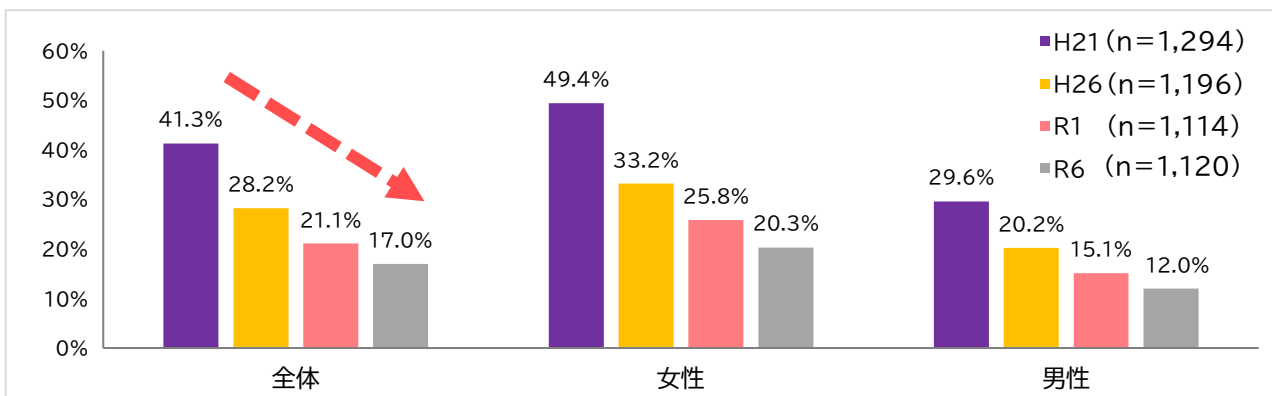
(2) [図 10-2]他の機関から相談に繋がった件数（男女平等推進センター、家庭子ども相談課集計）

他機関からの相談件数は増加傾向にあったが、令和4年度以降は減少している。



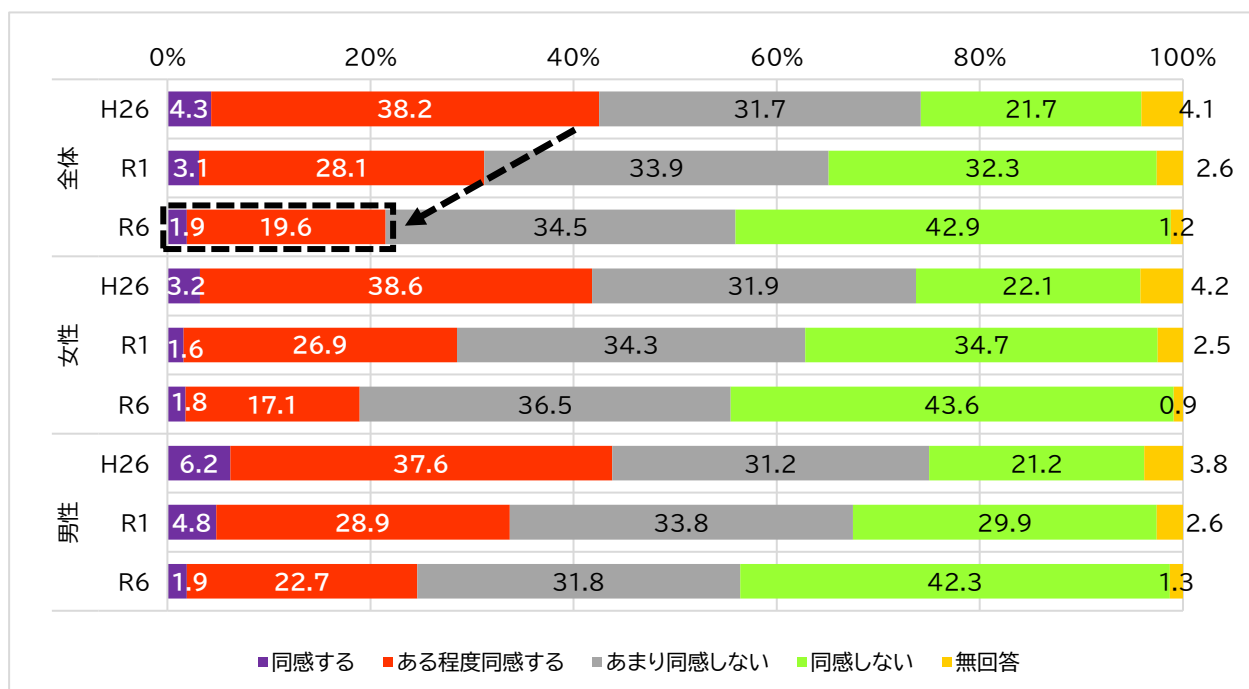
(3) [図 10-3]DV を受けた経験がある人の割合（久留米市男女平等に関する市民意識調査）

DV を受けた経験がある人の割合は減少傾向にあるが、現在もなお、約 5 人に 1 人の女性がパートナーから暴力を受けた経験を持っている。



(4) [図 10-4]「男は仕事、女は家庭」という考え方に関する割合（久留米市男女平等に関する市民意識調査）

「同感する」と「ある程度同感する」を合わせた“同感する”の割合が減少している。



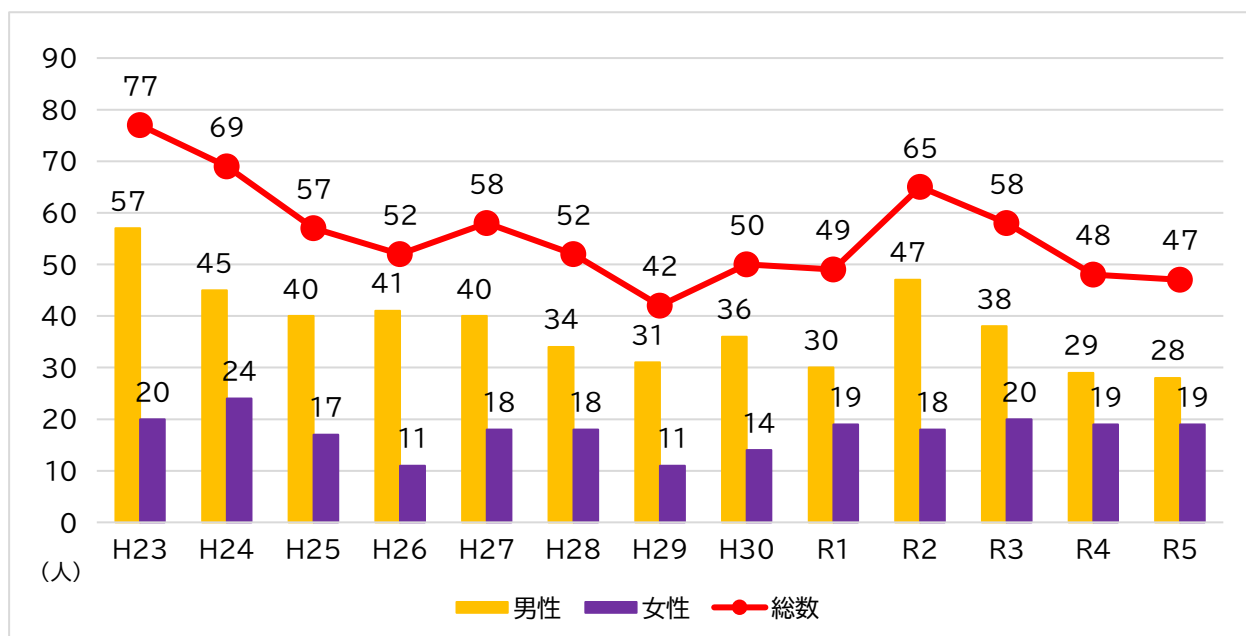
II 自殺に関する状況（人口動態統計）

重点分野:自殺予防

(1) [図 11-1]久留米市の自殺者数の推移

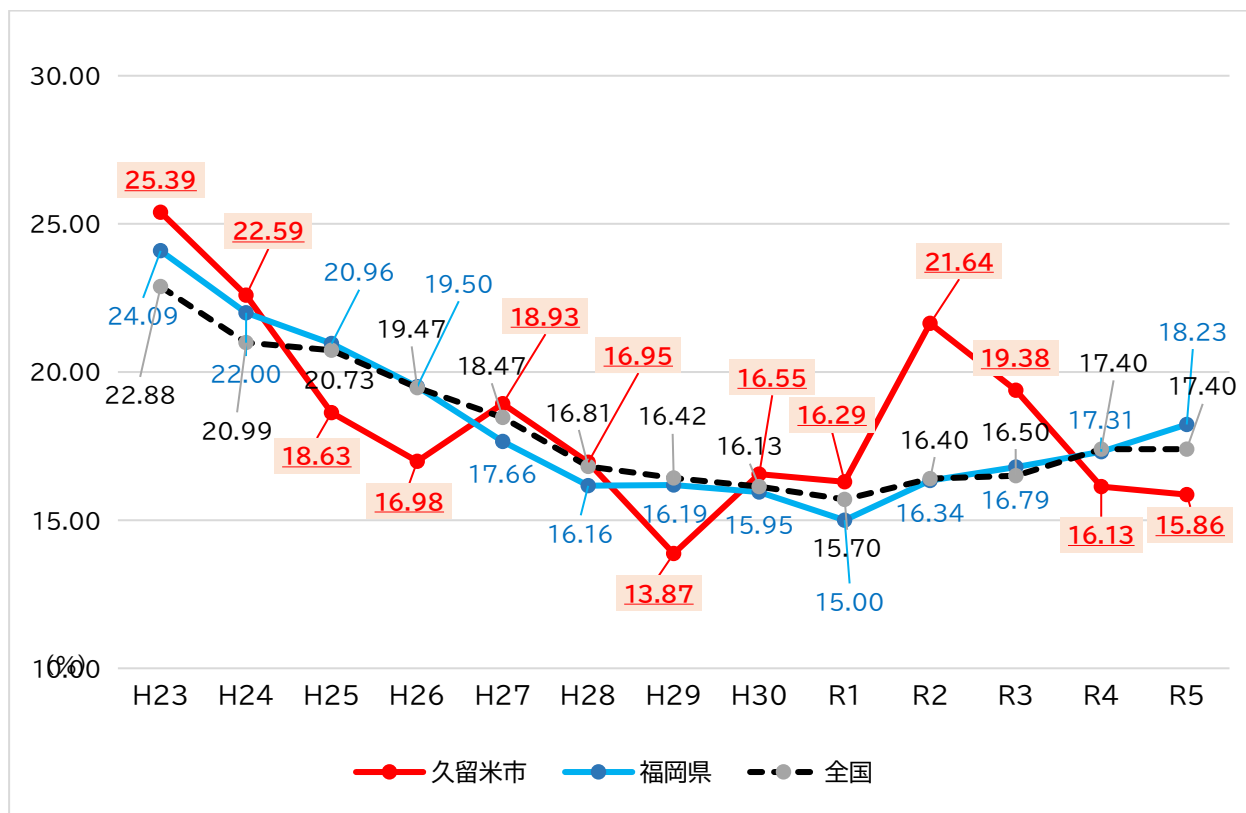
令和2年に増加した男性の自殺者数は、コロナ禍前の水準まで減少している。

女性の自殺者数は、令和元年以降同水準で推移している。



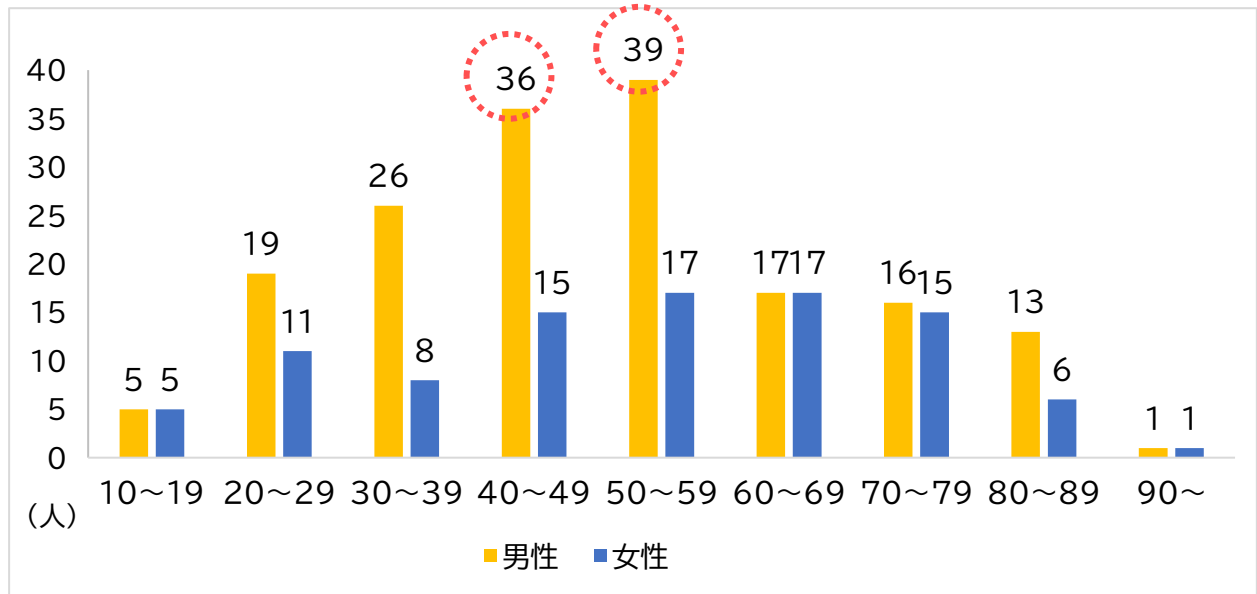
(2) [図 11-2]人口10万人当たりの自殺死亡率

人口10万人当たりの自殺者数は、令和4年に国と福岡県の値を下回った。



(3) [図 11-3]年齢・性別ごとの過去5年間の自殺者の状況 (R1-R5)

40～50 歳代の男性の自殺者数が多くなっている。



12 災害に関する状況

重点分野:防災

(1) [図 12-1]久留米市における近年の豪雨災害（気象庁、防災対策課記録等）

6年間で6回の大規模な浸水被害が発生。

数十年に一度の特別警報が7年で5回（H29年7月九州北部豪雨含む）。

	H30.7	R1.7	R1.8	R2.7	R3.8	R5.7 (耳納山観測所)
1時間 最大雨量	40.5	90.0	60.5	48.0	72.0	91.5
3時間 最大雨量		177.5	147.0	105.5		167.0
24時間 最大雨量	279.5	335.5	330.0	360.5	387.0	402.5
48時間 最大雨量	388.5	402.5	366.5	483.0	572.5	452.0
72時間 最大雨量				529.0	718.5	565.5
総雨量 (期間)	386.0 (7/5~8)	474.5 (7/18~23)	408.0 (8/26~29)	735.0 (7/5~10)	896.5 (8/11~19)	567.0 (7/7~10)
特別警報	●		●		●	●
浸水被害 (件)	床上： 431 床下：1,182	床上：89 床下：47	床上：29 床下：16	床上： 30 床下：1,088	床上：317 床下：708	床上： 923 床下：1,809
避難者数	1,270 人	505 人	545 人	1,398 人	876 人	704 人

※白抜きのセル：観測史上最大